731

授業科目名	**人体の構造と機能Ⅰ**				
担当教員名	吉川貴仁				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	吉川貴仁（医師として総合病院、大学病院で勤務経験あり）				

授業概要

「人体の構造と機能Ⅰ」では、疾病の成り立ちを知る上での前提となる正常な人体の構造と機能について、基本的な理解を深めることを目的とする。様々な健康課題を持つ人への看護支援を展開するうえでの基盤となる細胞・組織・器官系、消化器系、呼吸器系、造血系、循環器系、筋骨格系の構造と機能について学修する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自立して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる	人体を構成する細胞・組織・器官系の構造と機能について基礎的な理解をする。	人体の骨格、関節、骨格筋、内臓器の各構造とはたらく仕組みを説明できる。
2. DP2.人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる	呼吸・循環・消化・造血を担う人体の基本的構造と機能について臨床での活用可能な知識を理解する。	呼吸器系、循環器系、消化器系、造血器系を担う身体の構造と機能を、臨床で活用可能な知識として説明できる。
汎用的な力		
1. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自律して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる		人体の骨格、関節、骨格筋、内臓器の各構造とはたらく仕組みを説明できる。
2. DP2.人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる		呼吸器系、循環器系、消化器系、造血器系を担う身体の構造と機能を、臨床で活用可能な知識として説明できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験	90 %	： テキストと講義資料の範囲の理解について評価します。
課題学習の提出内容等による総合評価	10 %	： 授業後に課題を出した小テスト等

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
坂井建雄ら	・ 系統看護学講座・専門基礎分野 解剖生理学　人体の構造と機能［1］	・ 医学書院	・ 2022　年

参考文献等

その他授業中に適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

配布スライドおよびpdf資料を参考にしながら教科書を読んで理解を深めてください。履修後はノート等の整理をしましょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　授業前後の時間を利用してください。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**解剖学・生理学とは、人体を構成する基本的諸要素** 看護における解剖学・生理学の必要性を理解する。人体を構成する単位（器官、組織、細胞、分子）について理解する（教科書 8-30ページ）。	人体の概要、人体の構成単位（器官、組織、細胞、分子）の階層性についてノートを整理し、理解しましょう。	4時間
第2回	**細胞、組織のはたらき** エネルギー産生や代謝、細胞分裂などの細胞のはたらきを理解する。組織の種類とはたらきについて理解する（教科書 30-54ページ）。	細胞・組織のはたらきについてノートを整理し、理解しましょう。	4時間
第3回	**消化管の全体像（口腔・咽頭・食道・胃・小腸・大腸）** 食物を摂取して、咀嚼や嚥下、消化、吸収、排泄を行う一連の消化管の構造を理解する。（教科書 56-84ページ）	消化器系：口腔、咽頭、食道、胃、小腸、大腸についてノートを整理し、理解しましょう。	4時間
第4回	**栄養を消化・吸収するしくみ** 食物中の糖、脂質、蛋白質などの各栄養成分が、消化管内で消化・吸収されるしくみを理解する（教科書 56-84ページ）。	糖、脂質、蛋白質などの各栄養成分別に、消化・吸収するしくみをノートを整理し、理解しましょう。	4時間
第5回	**肝胆膵臓器の構造とはたらき** 肝臓で行われる代謝、貯蔵、胆汁分泌などに必要な構造としくみを理解する。膵臓の構造と内分泌・外分泌のはたらきを理解する（教科書 84-93ページ）。	肝臓、胆管、膵臓の構造とはたらきについてノートを整理し、理解しましょう。	4時間
第6回	**呼吸と血液のはたらき（呼吸器の構造）** 酸素を取り入れて二酸化炭素を排出する外呼吸のための構造（鼻、副鼻腔、咽頭、喉頭、気管と気管支、肺、縦隔と胸膜腔、呼吸筋）を理解する（教科書 96-107ページ）。	呼吸器系：鼻、副鼻腔、咽頭、喉頭、気管と気管支、肺、縦隔と胸膜腔、呼吸筋についてノートを整理し、理解しましょう。	4時間
第7回	**呼吸と血液のはたらき（呼吸器の機能）** 呼吸運動や呼吸調節のしくみや、呼吸機能（肺気量、一秒量、ガス交換）を理解する（教科書 108-126ページ）。	呼吸運動や呼吸調節のしくみや、呼吸機能（肺気量、一秒量、ガス交換）についてノートを整理し、理解しましょう。	4時間
第8回	**呼吸と血液のはたらき（血液の組成や酸素・二酸化炭素運搬の方法、血液凝固）** 赤血球ヘモグロビンを介して、血液中の酸素や二酸化炭素を運搬するしくみを理解する。血小板や凝固因子の成分や血液凝固のしくみを理解する（教科書 126-148ページ）。	血液の組成、血液中の酸素や二酸化炭素を運搬するしくみと、血液凝固のしくみを整理し、理解しましょう。	4時間
第9回	**血液の循環とその調節（心臓の構造）** 全身循環系の構成、心臓の構造（心房、心室、房室弁、心筋、刺激伝導系、冠動脈）を理解する（教科書 150-157ページ）。	循環器系：心臓の構造についてノートを整理し、理解しましょう。	4時間
第10回	**血液の循環とその調節（心臓の拍出機能）** 心臓の刺激伝導のしくみ、心電図の成り立ち、心内圧、心周期（収縮期、拡張期）、前負荷と後負荷を理解する（教科書 157-175ページ）。	循環器系：心臓の刺激伝導、心内圧、心周期、前・後負荷についてノートを整理し、理解しましょう。	4時間
第11回	**血液の循環とその調節　（末梢循環系・リンパ管の構造）** 末梢循環の構成（肺循環・体循環の動脈系と静脈系、リンパ系）を理解する。血管壁の構造、側副循環を理解する（教科書 175-187ページ）。	循環器系：動脈系、静脈系、リンパ系、血管壁の構造についてノートを整理し、理解しましょう。	4時間
第12回	**血液の循環とその調節（血液循環の調節）** 血圧（収縮期血圧、拡張期血圧）、抵抗血管と容量血管、骨格筋の役割、血流再配分、血圧の神経性・液性調節、微小循環を理解する（教科書 187-208ページ）。	血圧の種類、血液循環を調節する因子についてノートを整理し、理解しましょう。	4時間
第13回	**身体の支持と運動（骨、関節、筋の概要、体幹・上肢の骨と筋）**	骨、関節、筋の基本構造とはたらき、体幹と上肢の骨と筋の名称とはたらきについてノートを整理し、理解しましょう。	4時間

	体を支え、動かすための骨、関節、筋の概要を理解する（教科書 282-296ページ）。体幹と上肢の骨と筋の構成を理解する（教科書 296-320ページ）。		
第14回	**身体の支持と運動（下肢・頭頸部の骨と筋、筋の収縮のしくみ）** 下肢と頭頸部の骨と筋の構成を理解する（教科書 320-339ページ）。運動神経と筋が収縮するしくみを理解する（教科書 339-355ページ）	下肢、頭頸部の骨、筋の名称とはたらき、筋が運動神経の刺激で収縮するしくみについてノートを整理し、理解しましょう。	4時間

731

授業科目名	**人体の構造と機能Ⅱ**				
担当教員名	吉川貴仁				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	吉川貴仁（医師として総合病院、大学病院で勤務経験あり）				

授業概要

「人体の構造と機能Ⅱ」では、人体の各器官が正常に機能するために、身体の恒常性や生体防御に関わる仕組みを理解することを目的とする。そのうえで、様々な健康課題を持つ人への看護支援を展開するうえでの基盤となる内分泌系、神経系（脳、自律神経、感覚器を含む）、免疫系、腎泌尿器系、生殖器系などの構造と機能を理解し、各器官相互の連携と異常がもたらす病的状態について学修する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自立して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる	生殖に必要な構造・機能について理解を深める。	男性・女性の生殖器系の構造と機能が説明できる。個体発生の過程や性周期の調節機構について、臨床で活用可能な知識として説明できる。
2. DP2.人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる	内分泌系、神経系、腎泌尿器系、免疫系の働きを中心に、他の各器官相互の連携のもとに、生体の恒常性や防御機構が維持・調節されていることに理解を深める。	生体の恒常性や防御機構の維持と調節を担う、内分泌系や神経系、腎泌尿器系、免疫系の働きについて、臨床で活用可能な知識として説明できる。
汎用的な力		
1. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自律して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる		男性・女性の生殖器系の構造と機能が説明できる。個体発生の過程や性周期の調節機構について、臨床で活用可能な知識として説明できる。
2. DP2.人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる		生体の恒常性や防御機構の維持と調節を担う、内分泌系や神経系、腎泌尿器系、免疫系の働きについて、臨床で活用可能な知識として説明できる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験	90 %	： テキストと講義資料の範囲の理解について評価します。
課題学習の提出内容等による総合評価	10 %	： 授業後に課題を出した小テスト等

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
坂井建雄ら	・ 系統看護学講座・専門基礎分野 解剖生理学　人体の構造と機能［1］	・ 医学書院	・ 2022　年

参考文献等

その他授業中に適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

配布スライドおよびpdf資料を参考にしながら教科書を読んで理解を深めてください。履修後はノート等の整理をしましょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　授業前後の時間を利用してください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**内臓機能の調節（自律神経による調節）** 自律神経（交感神経、副交感神経）のはたらき、構造、伝達様式を理解する（教科書 240-249ページ）。	交感神経、副交感神経の違いについてノートを整理し、理解しましょう。	4時間
第2回	**内臓機能の調節（内分泌による調節）-1** 内分泌の全体像（ホルモンの生理作用、化学構造）を理解する。内分泌臓器（下垂体、甲状腺、副甲状腺、膵臓）の構造とはたらきを理解する（教科書 249-265ページ）。	ホルモンの生理作用や化学構造、下垂体、甲状腺、副甲状腺、膵臓についてノートを整理し、理解しましょう。	4時間
第3回	**内臓機能の調節（内分泌による調節）-2** 内分泌臓器（副腎皮質、副腎髄質、性腺）の構造とはたらきを理解する。ホルモン分泌の調節（正負のフィードバック）、ホルモンによる糖や骨の代謝の実際を理解する（教科書 265-280ページ）。	副腎皮質、副腎髄質、性腺のはたらき、ホルモン分泌の調節、ホルモンによる糖や骨の代謝の実際についてノートを整理し、理解しましょう。	4時間
第4回	**情報の受容と処理（神経系の基本構造）** 神経細胞（ニューロン）と支持細胞の構造を理解する。ニューロン、シナプスの興奮伝達のしくみを理解する。中枢、末梢神経の構造の概観を理解する（教科書 358-371ページ）。	ニューロンと支持細胞の構造、中枢、末梢神経の概観についてノートを整理し、理解しましょう。	4時間
第5回	**情報の受容と処理（脳）** 脊髄、脳（脳幹、小脳、間脳、大脳、白質と灰白質、脳脊髄液、脳室と髄膜）の構造とはたらきを理解する（教科書 371-383ページ）。	脊髄や脳の各部位の構造とはたらきについてノートを整理し、理解しましょう。	4時間
第6回	**情報の受容と処理（脊髄神経、脳神経、脳の高次機能）** 脊髄神経、脳神経、神経叢の構造とはたらき、運動（下行伝導路）と感覚機能（上行伝導路）のしくみを理解する。脳の高次機能（睡眠、記憶）を理解する（教科書 383-397、420-432ページ）。	脊髄神経、脳神経、神経叢の構造とはたらき、上行・下行伝導路のしくみ、睡眠や記憶のしくみについてノートを整理し、理解しましょう。	4時間
第7回	**情報の受容と処理（眼、耳、舌、鼻、疼痛）** 外部から情報を取り入れる仕組み（視覚器、平衡聴覚器、味覚器、嗅覚器、皮膚）を理解する（教科書 397-420ページ）。	感覚器系：視覚器、平衡聴覚器、味覚器、嗅覚器、皮膚についてノートを整理し、理解しましょう。	4時間
第8回	**身体機能の防御と適応（皮膚、免疫、体温）** 外部環境から生体を守る仕組み（白血球、皮膚）を理解する。体温調節の基礎、内因性に体温レベルを決定する因子、運動時の体温調節を理解する（教科書 434-457ページ）。	免疫、体温調節のしくみについてノートを整理し、理解しましょう。	4時間
第9回	**体液の調節と尿の生成（腎・尿路系の構造、排尿のしくみ）** 尿を作り体外に排泄する泌尿器系の構造（腎臓、尿管、膀胱、尿道）を理解する。蓄尿・排尿のしくみを理解する（教科書 210-237ページ）。	泌尿器系の構造：腎臓、尿管、膀胱、尿道、および蓄尿・排尿のしくみについてノートを整理し、理解しましょう。	4時間
第10回	**体液の調節と尿の生成（尿生成のしくみ）** 糸球体濾過量、尿細管再吸収を含む尿生成のしくみを理解する（教科書 210-237ページ）。	腎臓における尿生成のしくみについてノートを整理し、理解しましょう。	4時間
第11回	**体液の調節と尿の生成（腎臓の役割）** 体液調節、血圧調節、赤血球産生促進、カルシウム代謝における腎臓の役割を理解する（教科書 210-237ページ）。	腎臓が、体液を調節するしくみや、腎臓のその他の役割についてノートを整理し、理解しましょう。	4時間
第12回	**生殖・発生と老化のしくみ（男性器、女性器）** 子孫を残すための構造（男性生殖器、女性生殖器）を理解する（教科書 460-475ページ）。	生殖器系：男性生殖器、女性生殖器についてノートを整理し、理解しましょう。	4時間

第13回	**生殖・発生と老化のしくみ（生殖、成長と老化）** 子孫を残すためのしくみ（妊娠：受精と着床、受精卵の活動、胚の分化、器官発生）、成長と老化の過程を理解する（教科書 475-499ページ）。	妊娠、器官発生、成長、老化についてノートを整理し、理解しましょう。	4時間
第14回	**体表からみた人体の構造** 体表の観察から身体の状態を評価する際に知っておくべき人体の構造を理解する（教科書 502-510ページ）。	体の表面で触れて観察の目印となる骨格や動脈などをノートを整理し、理解しましょう。	4時間

731

授業科目名	**病理学**				
担当教員名	魏民				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本科目は、看護支援を実践するための患者の病態を理解するための基盤となる疾病の原因と成り立ちについて、基本的な知識を学び理解を深めることを目的とする。具体的には、病理診断の実際や、細胞と組織の障害と修復および循環障害、炎症と免疫、感染症、代謝障害と老化、先天異常と腫瘍について学修する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2.人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる	人々の多様な健康レベルや健康問題について、各疾病の成り立ちとその病態を理解し、知識を踏まえた看護実践に繋げる。	人体の疾病の成り立ちおよび回復の促進において、看護に必要な基礎的知識を理解することができる。
汎用的な力		
1. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自律して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる		疾患を持つ人に寄り添えるよう、疾病の成り立ちや回復および促進がどのような過程を経るのかについて理解することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業態度	20 %	： 課題への取り組みや授業への参加度を評価します
定期テスト	80 %	： 教科書の指定された範囲に対し、的確に理解しているかを評価します

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
大橋健一、他	・「看護学講座　専門基礎分野　疾病の成り立ちと回復の促進①『病理学』」	・医学書院	・2021　年

参考文献等

田中悦郎 著　「看護学講座　専門基礎分　疾病の成り立ちと回復の促進②　『病態生理学』」医学書院、2023年.
978-4-260-05019-7　他、授業の中で適宜紹介します

履修上の注意・備考・メッセージ

１年前期科目「人体の構造と機能Ｉ」での学習内容を、復習しておいてください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**病理学で学ぶこと　病因論** 看護と病理学 病気と原因　ほか	テキストの該当部分を読み復習して参加すること。	4時間
第2回	**先天異常と遺伝子異常（1）** 遺伝の生物学 先天異常 おもな先天性心奇形　ほか	各組織・器官の名称とその働きについて復習し、本時の内容に該当するテキストの部分を読んでおく。	4時間
第3回	**先天異常と遺伝子異常（2）** おもな染色体異常による疾患 おもな遺伝性疾患 先天異常・遺伝性疾患の診断と治療　ほか	前回の授業を復習する。本時の内容に該当するテキスト部分を読んでおく。	4時間
第4回	**代謝障害** 脂質代謝障害 タンパク質代謝障害 糖質代謝障害　ほか	各組織・器官の名称とその働きについて復習し、本時の内容に該当するテキストの部分を読んでおく。	4時間
第5回	**循環障害（1）** 虚血と梗塞 充血とうっ血、浮腫、出血　ほか	各組織・器官の名称とその働きについて復習し、本時の内容に該当するテキストの部分を読んでおく。	4時間
第6回	**循環障害（2）** 血圧調整と末梢循環障害 動脈の障害、静脈の障害 チアノーゼ　ほか	前回の授業を復習する。本時の内容に該当するテキスト部分を読んでおく。	4時間
第7回	**炎症と免疫、膠原病（1）** 細胞・組織の損傷と適応 細胞・組織の損傷に対する反応としての炎症 炎症の分類と治療　ほか	各組織・器官の名称とその働きについて復習し、本時の内容に該当するテキストの部分を読んでおく。	4時間
第8回	**炎症と免疫、膠原病（2）** 免疫と免疫不全 アレルギーと自己免疫疾患 移植と再生医療　ほか	前回の授業を復習する。本時の内容に該当するテキスト部分を読んでおく。	4時間
第9回	**感染症（1）** 病原体と感染源 生体の感染防御機構 感染経路と病原体　ほか	各組織・器官の名称とその働きについて復習し、本時の内容に該当するテキストの部分を読んでおく。	4時間
第10回	**感染症（2）** おもな感染症 感染症の治療と予防　ほか	前回の授業を復習する。本時の内容に該当するテキスト部分を読んでおく。	4時間
第11回	**腫瘍（1）** 腫瘍の定義と分類 腫瘍の発生機序 腫瘍の増殖・浸潤・転移 がんの進行度　ほか	各組織・器官の名称とその働きについて復習し、本時の内容に該当するテキストの部分を読んでおく。	4時間
第12回	**腫瘍（2）** 主な腫瘍の診断と治療　ほか	前回の授業を復習する。本時の内容に該当するテキスト部分を読んでおく。	4時間
第13回	**腫瘍（3）** 腫瘍の発生因子 生活習慣と環境因子　ほか	前回の授業を復習する。本時の内容に該当するテキスト部分を読んでおく。	4時間
第14回	**老化と死／病理学まとめ** 老化のメカニズム 加齢に伴う諸臓器の変化 臨死期の徴候と死の判定　ほか	各組織・器官の名称とその働きについて復習し、本時の内容に該当するテキストの部分を読んでおく。	4時間

731

授業科目名	**生化学**				
担当教員名	關野高泰				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本科目は、看護支援を行う上で様々な健康課題を持つ人への看護ケアを展開するうえでの基盤となる必要な生命現象について理解を深めることを目的とし、物理化学的視点から解明することを目的とする。具体的には、生体分子とその代謝制御機構のしくみ、生体の恒常性の維持メカニズムとその破綻が招く疾病の発生の仕組みについて学習する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自立して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる	有機化学の基礎を復習し、生体での化学物質の特徴や代謝について学ぶ。小テストなどを通して自ら考え、他の人との話し合いからも学ぶ。	生化学の学習を通して様々な生命科学の基礎としての知識を確実なものとする。

汎用的な力		
1. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自律して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる		生化学の自然科学としての法則性を確実に身に着けて様々な状況で科学的な思考ができるようにする。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
グループディスカッション　授業態度	10 %	：　ディスカッションへの参加状況や授業への積極性を評価します。
提出レポート	20 %	：　提出するレポートを評価します。
定期試験	70 %	：　講義の内容を的確に理解しているかを評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年

畠山鎮次　・生化学　・医学書院　・2019　年

参考文献等

高畑雅一他　「生物学」（医学書院、2019）　978-4-260-03189-9
畠山鎮次　「化学」（医学書院、2019）　978-4-260-03556-9

履修上の注意・備考・メッセージ

生化学は生物学や化学とも関連が深く、今後の学習の基礎にもなります。しっかりとした知識を身に着けてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後

場所：　非常勤講師控室

備考・注意事項：　オフィスアワーを活用してください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**オリエンテーション、Ｉ有機化合物　１基礎** グループ学習の進め方、有機化合物の基礎、構造式、・官能基・異性体について、小テスト	化学の教科書第11章有機化学を参考にして有機化学の概要を理解する。小テストの復習	4時間
第２回	**Ｉ有機化合物　２高分子化合物** 高分子化合物の反応（付加、置換、縮合、燃焼、エステル化、加水分解）、プラスチック	化学の教科書第11章を参考に高分子化合物について調べる。小テストの復習	4時間
第３回	**Ｉ有機化合物　３有機毒　４生物毒** 依存症、POPｓ、PFAS,生物毒、感染症	小テストの復習、レポートの準備	4時間
第４回	**Ｉ有機化合物　５ズーノーシス** ズーノーシスとは？資料視聴とスモールグループディスカッションと班発表、レポートの相互評価	ズーノーシスについて調べる	4時間
第５回	**Ⅱ生体物質と代謝　代謝の基礎と酵素** 代謝と酵素について、小テスト	酵素について調べる。レポートの準備	4時間
第６回	**SGD　レポートに基づくグループ学習** グループで各自のレポートを持ち寄り、読み比べて課題図書を推薦しあう。SGD②	課題図書を探す	4時間
第７回	**Ⅱ生体物質と代謝　１糖と糖代謝①** 糖質の種類と特徴、構造、働きなど小テスト	小テストの復習	4時間
第８回	**Ⅱ生体物質と代謝　１糖と糖代謝②** 消化、アルコール代謝、呼吸、発酵、ATP、糖尿病、筋収縮などについて、小テスト	糖質代謝について教科書の該当する場所を復習しておく	4時間
第９回	**Ⅱ生体物質と代謝　糖と糖代謝③** 解糖とクエン酸回路、小テスト	小テストの復習	4時間
第10回	**Ⅱ生体物質と代謝　１糖と糖代謝④** 糖の貯蔵、ペントースリン酸回路、小テスト	糖について教科書の該当する場所をまとめる。小テストの復習	4時間
第11回	**Ⅱ生体物質と代謝　２タンパク質と代謝①** アミノ酸、タンパク質の構造や種類、タンパク質代謝、ヒトの代謝異常、小テスト	タンパク質の代謝について調べる	4時間
第12回	**Ⅱ生体物質　２タンパク質と代謝②** 生理活性アミン、オルニチン回路、小テスト	脂質と脂質代謝について調べる	4時間
第13回	**Ⅱ生体物質　３脂質** 脂質の構造や機能、脂質の種類、脂質代謝　エステル	小テストの復習	4時間
第14回	**Ⅱ生体物質　４ビタミン　５ホルモン** ビタミンの種類と働きや欠乏症　ホルモンの種類と働き環境ホルモン	ホルモンやビタミンについて教科書の該当箇所を予習する	4時間

731

授業科目名	**薬理学**				
担当教員名	矢部千尋・中田徹男・金子周司				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

（概要）
薬理学では、総論において薬理学の概念、薬物の生体内動態、薬物の作用点・作用機序・相互作用などについて学ぶことを目的とする。また、各論では各病態に対する薬物（抗感染症薬、抗がん薬、末梢神経作用薬、循環器作用薬、中枢神経作用薬、抗アレルギー薬、抗炎症薬、呼吸器作用薬、消化器作用薬等）の作用機序・副作用などについて学修する。
（オムニバス方式／全１４回）

（矢部　千尋／5回）
総論、抗感染症薬、末梢神経作用薬など
（金子　周司／4回）
中枢神経作用薬、抗炎症薬・抗アレルギー薬など
（中田　徹男／5回）
循環器作用薬、呼吸器作用薬など

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自立して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる	薬理学の概念、薬物の生体内動態、薬物の作用点・作用機序・相互作用と各病態に対する主要な薬物の作用機序・副作用などについて学ぶ	薬の使い方を理解し、薬物療法の利点と欠点を考えることができる
2. DP2.人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる	人と薬の関係および医療現場での薬物療法をめぐる問題点を理解する	医療における薬の重要性と有害作用についての問題を考える姿勢を身につける
汎用的な力		
1. DP3.地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる		地域の様々な世代の人々の健康課題と薬について薬剤師を含む専門職と共に考え、支援することができる
2. DP3.地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる		地域で生活する人々の薬に関する知識や使用法ついて医療スタッフと連携して支援することができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験	90　％	：　テキストと講義資料の範囲の理解度を評価
授業への参加状況	10　％	：　質疑応答、課題学習への取組みを評価

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
植松俊彦・滝口祥令・丹波雅之	・ 疾病の成り立ちと回復の促進③「薬理学」第2版	・ メジカルフレンド社	・ 2023　年

参考文献等

赤瀬智子、柳田俊彦編　ナーシング・グラフィカ「臨床薬理学」　MCメディカ出版　2023年
978-4-8404-7834-2
柳田俊彦編　薬の基本とはたらきがわかる薬理学　羊土社　2023年
978-4-7581-2169-9

履修上の注意・備考・メッセージ

授業中に疑問点があれば積極的に質問し、その場で理解を深めるように心がけてください
割り当てられた課題は成績評価対象ですので必ず提出してください

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　メールを活用してください

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**総論１／矢部** 薬理学の概念と履修目的を理解し、基本的な薬理学用語について学ぶ	シラバスに目を通し、授業全体の概略をつかむ	4時間
第２回	**総論２／矢部** 年代や全身状態による薬の効果の違い、医薬品の取り扱い方、薬物療法を取り巻く問題について学ぶ	教科書の該当項目を精読する	4時間
第３回	**末梢神経作用薬／矢部** 末梢神経系の構造と機能を理解し、各部位に作用する代表的な薬物と臨床応用、効果の違いを学ぶ	教科書の該当項目を精読する	4時間
第４回	**抗感染症薬／矢部** 感染症の成り立ちを理解し、抗菌薬、抗ウイルス薬、抗真菌薬の種類と作用を学ぶ	教科書の該当項目を精読する	4時間
第５回	**中枢神経作用薬１／金子** 中枢神経系の構造と機能を理解し、異なる部位に働く薬の作用機序を学ぶ	教科書の該当項目を精読する	4時間
第６回	**中枢神経作用薬２／金子** 中枢神経系疾患に用いられる代表的な薬物とそれぞれの作用の特徴を学ぶ	教科書の該当項目を精読する	4時間
第７回	**抗炎症薬・抗アレルギー薬１／金子** 炎症のしくみを理解し、抗炎症薬の種類と作用の特徴を学ぶ	教科書の該当項目を精読する	4時間
第８回	**抗炎症薬・抗アレルギー薬２／金子** 免疫系のしくみと異常を理解し、抗アレルギー薬や免疫抑制薬の種類と作用の特徴を学ぶ	教科書の該当項目を精読する	4時間
第９回	**循環器作用薬１／中田** 心臓と血管の構造と機能を理解し、高血圧症や心疾患治療薬の種類と作用の特徴を学ぶ	教科書の該当項目を精読する	4時間
第10回	**循環器作用薬２／中田** 造血器系の機能や血液凝固の機序を理解し、諸種の血液系疾患に用いられる薬物と作用の特徴を学ぶ	教科書の該当項目を精読する	4時間
第11回	**代謝系疾患治療薬／中田** 生活習慣病として知られる主な代謝系疾患について理解し、治療薬の種類と作用の特徴を学ぶ	教科書の該当項目を精読する	4時間
第12回	**消化器作用薬／中田** 代表的な消化器系疾患の成り立ちを理解し、治療薬の種類と作用の特徴を学ぶ	教科書の該当項目を精読する	4時間
第13回	**呼吸器作用薬／中田** 呼吸器系のしくみを理解し、治療薬の種類と作用の特徴を学ぶ	教科書の該当項目を精読する	4時間
第14回	**抗がん薬／矢部** がんの成り立ちを理解し、抗がん薬の種類と作用の特徴を学ぶ	教科書の該当項目を精読する	4時間

731

授業科目名	**病原微生物と感染**				
担当教員名	吉川貴仁				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	吉川貴仁（医師として総合病院、大学病院で勤務経験あり）				

授業概要

かつては主要な死因であった感染症は、今でも新型コロナウイルスなどの新興感染症のパンデミックを引き起こし現代人の脅威となり続けている。また、感染症は病原微生物の強さのみならず加齢や手術、入院などの影響を受け、生体防御の脆弱さも発症要因となる（日和見感染）。「病原微生物と感染」では、臨床現場で遭遇する感染症の原因となる様々な微生物や、それらに対する防御機構である免疫について基礎的な知識を理解し学修することを目的とする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自立して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる	主たる病原微生物の概念，性質及び特徴をふまえ，感染と発症の違い，生体と病原微生物の相互関係を理解する。	主たる病原微生物の概念，感染と発症の違い，生体と病原微生物の相互関係を説明できる。
2. DP2.人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる	新興感染症や再興感染症，院内感染や日和見感染等の概念を理解し，感染に対する医療職の役割および予防対策の理論と実際について理解する。	新興感染症や再興感染症，院内感染や日和見感染等の概念を理解し，感染に対する医療職の役割および予防対策について説明できる。
汎用的な力		
1. DP3.地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる		将来医療職として患者を介して種々の病原微生物に接触することを考慮し，病原微生物に対する必要な知識を体得し，適切な感染予防の方法を説明できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験	90 %	： テキストと講義資料の範囲の理解について評価します。
課題学習の提出内容等による総合評価	10 %	： 授業後に課題を出した小テスト等

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
矢野久子/安田陽子	・ 臨床微生物・医動物	・ メディカ出版	・ 2022 年

参考文献等

その他授業中に適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

配布スライドおよびpdf資料を参考にしながら教科書を読んで理解を深めてください。履修後はノート等の整理をしましょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　授業前後の時間を利用してください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**微生物・医動物とは** 臨床微生物・医動物の種類（寄生虫、細菌、真菌、ウイルス、プリオンなど）と各々の特徴、また、身の回りの微生物（常在微生物、プロバイオティクス）を理解する（教科書28-34ページ）。	・臨床微生物・医動物の種類と各々の特徴についてノートを整理し、理解しましょう。	4時間
第2回	**呼吸器感染症** 呼吸器感染症を起こす微生物(インフルエンザウイルス、肺炎球菌、結核菌、コロナウイルスなど)の特徴、症状、診断、治療、予防を理解する（教科書52-70ページ）。	・呼吸器感染症についてノートを整理し、理解しましょう。　・結核感染に関する検査、治療や予防内服について、ノートを整理し、理解しましょう。	4時間
第3回	**消化器感染症** 消化器感染症、食中毒、肝炎を起こす微生物（腸管出血性大腸菌、コレラ菌、赤痢菌、チフス菌、ヘリコバクターピロリ菌、A型、B型、C型肝炎ウイルス）の特徴、症状、診断、治療、予防を理解する（教科書72-96ページ）。	・消化器感染症についてノートを整理し、理解しましょう。　・食中毒の種類と特徴についてノートを整理し、理解しましょう。　・肝炎ウイルスの種類と急性・慢性、肝硬変や肝癌への関与についてノートを整理し、理解しましょう。	4時間
第4回	**尿路感染症と性感染症** 尿路感染症を起こす微生物（大腸菌、緑膿菌）や性感染症を起こす微生物（梅毒、クラミジア、淋病、後天性ヒト免疫不全症、性器ヘルペス感染症）の特徴、症状、診断、治療、予防を理解する（教科書97-114ページ）。	・尿路感染症と性感染症についてノートを整理し、理解しましょう。　・尿路カテーテルと感染予防についてノートを整理し、理解しましょう。	4時間
第5回	**皮膚・粘膜の感染症および脳・神経系感染症** 皮膚・粘膜の感染症を起こす微生物（A群レンサ球菌、黄色ブドウ球菌）、発疹を起こす微生物（麻疹ウイルス、水痘・帯状疱疹ウイルス、リケッチア）、脳神経系感染症を起こす微生物（髄膜炎菌、日本脳炎ウイルス）の特徴、症状、診断、治療、予防を理解する。（教科書115-132ページ）。	・皮膚・粘膜の感染症および脳・神経系感染症についてノートを整理し、理解しましょう。　・発疹を起こす各感染症の症状や病状経過の特徴を整理しましょう。	4時間
第6回	**人獣共通感染症・寄生虫感染症** 人獣共通感染症を起こす微生物（オウム病クラミジア、トキソプラズマ感染症など）、寄生虫感染症を起こす微生物（アニサキス、蟯虫、マラリア原虫）の特徴、症状、診断、治療、予防を理解する（教科書136-156ページ）。	・人獣共通感染症・寄生虫感染症についてノートを整理し、理解しましょう。　・輸入感染症の種類や特徴についてノートを整理し、理解しましょう。	4時間
第7回	**小児の感染症と母子感染** 小児の感染症を起こす微生物（A群溶血性レンサ球菌、ロタウイルス、百日咳菌）や母子感染を起こす微生物（B群レンサ球菌、風疹ウイルス、ヒトT細胞白血病ウイルス、後天性ヒト免疫不全症ウイルス、単純ヘルペスウイルス、梅毒トレポネーマ）の特徴、症状、診断、治療、予防を理解する（教科書157-172ページ）。	・小児の感染症と母子感染についてノートを整理し、理解しましょう。　・妊婦スクリーニングについて、ノートを整理し、理解しましょう。	4時間
第8回	**高齢者の感染症、日和見感染症** 高齢者の感染症（誤嚥性肺炎、褥瘡感染、疥癬など）や日和見感染症（レジオネラ菌、セパシア菌など）の特徴、症状、診断、治療、予防を理解する（教科書174-187ページ）。	・高齢者の感染症、日和見感染症についてノートを整理し、理解しましょう。　・誤嚥性肺炎、褥瘡感染の特徴、予防法についてノートを整理し、理解しましょう。	4時間
第9回	**移植患者の感染症、手術創・外傷・血管カテーテル関連の感染症** 移植に伴う易感染状態の感染症（サイトメガロウイルス、アスペルギルスなど）、手術創・外傷・血管カテーテル関連の感染症（エンドトキシン、破傷風菌、カンジダ・アルビカンスなど）の特徴、症状、診断、治療、予防を理解する。（教科書188-206ページ）。	・移植患者の感染症、手術創・外傷・血管カテーテル関連の感染症についてノートを整理し、理解しましょう。	4時間
第10回	**感染症の分類と法律、感染の成立と予防の基本** 感染症の分類（顕性・不顕性感染、内因性・外因性感染、垂直・水平感染、院内・市中感染）、感染症に関する法律、感染成立の3要因と予防の基本を理解する（教科書38-50、239-244ページ）。	・感染症の分類についてノートを整理し、理解しましょう。　・感染症法の1類から5類にどのような病原体が含まれるかを意識して、ノートを整理し、理解しましょう。	4時間

第11回	**感染に対する生体防御機構と発症予防** ・感染に対する生体防御機構の種類（自然免疫と獲得免疫）、体液性／細胞性免疫応答、一次／二次免疫応答のしくみ（抗体、免疫担当細胞、免疫記憶など）について理解する。 ・感染・発症予防の手段（ワクチン接種や血清療法、滅菌・消毒）について理解する。 （教科書220-238ページ）	・感染に対する生体防御機構のしくみについてノートを整理し、理解しましょう。　・ワクチンの種類と対象となる感染症についてノートを整理し、理解しましょう。　・滅菌・消毒の方法についてノートを整理し、理解しましょう。	4時間
第12回	**感染症の検査、診断** 感染症の徴候・症状、原因微生物・医動物を検出する検査（喀痰、糞便、尿、血液などの検体検査）、免疫学的検査などを理解する（教科書246-256ページ）。	・検体採取の種類と採取時の注意点についてノートを整理し、理解しましょう。	4時間
第13回	**感染症に対する治療の概要、敗血症の診断・治療** 感染症に対する治療の概要（抗感染症薬、血清療法、外科的療法）、宿主の抵抗力の改善、敗血症の診断と治療などを理解する（教科書256-270ページ）。	・感染症の治療の概要についてノートを整理し、理解しましょう。　・菌血症と敗血症の違いについてノートを整理し、理解しましょう。	4時間
第14回	**感染症の薬物療法、薬剤耐性菌** 抗菌薬の種類や作用メカニズム、副作用について、また、薬剤耐性菌の種類（メチシリン耐性黄色ブドウ球菌、バンコマイシン耐性腸球菌、多剤耐性緑膿菌、多剤耐性結核菌など）の特徴、予防について理解する（教科書206-218ページ）。	・感染症の薬物治療についてノートを整理・分類して、理解しましょう。　・薬剤耐性菌が出現する背景や機序、予防法について、また具体的な耐性菌の種類と特徴についてノートを整理し、理解しましょう。	4時間

731

授業科目名	**栄養学**				
担当教員名	井ノ上　恭子				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大阪成蹊短期大学栄養学科において、応用栄養学の実習授業を担当（全14回）				

授業概要

人間は、毎日食べ物を摂取・消化し栄養素を体内に吸収し、代謝することで適正な栄養状態を維持している。そのため、食品に含まれる栄養素が体内でどのように消化、吸収されるかについて、特性などの基礎について授業で解説する。本授業を通して、現在、日本における「食」に関する問題やその背景にある要因についても考え、健康を保つために必要な栄養や、人や患者を中心とした医療における「食」と「疾患」との関連についても理解を深めることができる。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自立して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる	ヒトの生命維持に必要不可欠な「栄養素」について基礎を学ぶ	看護師として必要な栄養学の基礎的な知識を修得
汎用的な力		
1. DP2.人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる		自身の「食生活」に栄養学の知識を活用し、実践できる力を身に付ける

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験	50　％	：　看護師として必要な基礎的な考え方や知識を修得できているかどうかを判断する
授業内課題	30　％	：　授業内容に基礎的な知識の定着度を評価する。（独自のルーブリックに基づいて評価）
毎回の小テスト	20　％	：　課題に対する理解度やその内容を評価する。（独自のルーブリックに基づいて評価）

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
関戸啓子	・ナーシング・グラフィカ　疾病の成り立ちと回復の促進（４）：臨床栄養学　第6版	・メディカ出版	・2023　年

参考文献等

八訂食品成分表2022（医歯薬出版）978-4-263-70819-4

履修上の注意・備考・メッセージ

・本授業は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
・授業外学修課題に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に小テストに備えて復習し、次回の授業にむけて予習をすること。
・遅刻・欠席をしないこと。
・欠席をした場合は、速やかに配布資料を取りに来ること。欠席者は未提出の課題を速やかに提出すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業前後

場所： 教室内

備考・注意事項： 本授業に関する質問等は、記載しているメールアドレスに連絡を入れてください。
inoue-ky@g.osaka-seikei.ac.jp

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**栄養学概論（栄養学と看護）** 保健・医療における栄養学について、看護師の役割を知る。	栄養学と看護のポイントについて振り返り、次回授業についての課題に取り組む。	4時間
第2回	**食事と食品（食事摂取基準・食品に含まれる栄養素）** 食事とその変遷について理解を深め、日本人の食事摂取基準とは何かについて知る。	食事摂取基準・食品に含まれる栄養素のポイントについて復習し、次回授業についての課題に取り組む。	4時間
第3回	**栄養素の種類と働き①（糖質）** 糖質の種類を理解し、体内における役割、他の栄養素との関係について知る。	糖質の特徴についての振り返り、次回授業についての課題に取り組む。	4時間
第4回	**栄養素の種類と働き②（脂質）** 脂質の種類を理解し、体内における役割、他の栄養素との関係について知る。	脂質の特徴について振り返り、次回授業についての課題に取り組む。	4時間
第5回	**栄養素の種類と働き③（タンパク質）** タンパク質の種類を理解し、体内における役割、他の栄養素との関係について知る。	タンパク質の特徴について振り返り、次回授業についての課題に取り組む。	4時間
第6回	**栄養素の種類と働き④（ビタミン）** ビタミンの種類を理解し、体内における役割、他の栄養素との関係について知る。	ビタミンの特徴について振り返り、次回授業についての課題に取り組む。	4時間
第7回	**栄養素の種類と働き⑤（ミネラル）** ミネラルの種類を理解し、体内における役割、他の栄養素との関係について知る。	ミネラルの特徴について振り返り、次回授業についての課題に取り組む。	4時間
第8回	**栄養の消化と吸収** 消化器系のしくみと働きについて理解し、三大栄養素の消化と吸収について知る。	消化と吸収の特徴について振り返り、次回授業についての課題に取り組む。	4時間
第9回	**エネルギー代謝** 体内でのエネルギー代謝と消費について理解し、エネルギー代謝の測定方法について知る。	エネルギー代謝の特徴について振り返り、次回授業についての課題に取り組む。	4時間
第10回	**ライフステージと栄養①（乳幼児期・学童期・思春期・青年期）** 母乳栄養、混合栄養から離乳へと移行する乳児期や、食習慣を身に着ける時期である幼児期における食事と栄養、学童期、思春期・青年期における食事と栄養について知る。	ライフステージと栄養①のポイントについて振り返り、次回授業についての課題に取り組む。	4時間
第11回	**ライフステージと栄養②（成人期・老年期）** 成人期、老年期における食事と栄養について知る。	ライフステージと栄養②のポイントについて振り返り、次回授業についての課題に取り組む。	4時間
第12回	**看護と栄養①（チーム医療・栄養ケアマネジメント）** 保健、医療現場におけるチーム医療の特徴や栄養管理について知る。	看護と栄養①のポイントについて振り返り、次回授業についての課題に取り組む。	4時間
第13回	**看護と栄養②（栄養状態の評価・判定）** 栄養アセスメントの意義について学び、栄養アセスメントの方法を知る。	看護と栄養②のポイントについて振り返り、次回授業についての課題に取り組む。	4時間
第14回	**栄養と健康（健康づくりと食生活）** 食生活の変遷と栄養の課題から生じる生活習慣病について知る。	講義で示したポイントについて振り返り、提示した課題に取り組む。	4時間

授業科目名	**疾病治療論Ⅰ**				
担当教員名	羽藤文彦				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	病院の非常勤医師として内科診療を行っている。				

授業概要

基本的な病因とその成り立ちについて、疾病概念と診断・治療の概要を系統別に学習する。主に消化器疾患、循環器疾患、呼吸器疾患、腎・泌尿器系等代表的な疾病を理解し、疾病に対する診断・治療について基本的な知識を学習する。また、健康の維持増進のための疾病の予防と早期発見、疾病の要因と生体の回復について基本的な理解を深める。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2.人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる	多様な健康レベルにある人々に対し、疾患の特性を踏まえた看護が出来るよう、種々の疾病の特性を理解する。	内科疾患の病態を理解し、疾病の予防・改善に必要な事象を説明できる。
汎用的な力		
1. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自律して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる		自ら問題点や課題を見出し、それらの解決に向けた行動が適切に行えるよう、課題抽出力や解決力を身に着ける。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験	90 %	： 教科書と講義資料の範囲について、その理解度を評価します。
課題学習（レポート）による評価	10 %	： 授業後の課題に対するレポート内容を評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
井村　裕夫　編	・わかりやすい　内科学　第5版 ISNB 978-4-8306-2067-6	・文光堂	・2023　年

参考文献等

授業中に適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

配布スライドおよび授業資料を参考にしながら、教科書を読んで理解を深めてください。履修後は学習した内容の復習やノートの整理をしましょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日4時限

場所： 保健センター

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス、呼吸器系疾患** 本講義の全体的なガイダンスと呼吸器系の代表的な内科疾患について概説する。	授業前に教科書の第1章を熟読し、理解を深めておく。授業後は講義内容をまとめ、知識の定着に努める。	4時間
第2回	**循環器系疾患、血液・造血器系疾患** 循環器系ならびに血液・造血器系の代表的な内科疾患について概説する。	授業前に教科書の第2章、第3章を熟読し、理解を深めておく。授業後は講義内容をまとめ、知識の定着に努める。	4時間
第3回	**消化器系疾患** 消化器系__（消化管、肝臓、胆嚢、膵臓）の代表的な内科疾患について概説する。	授業前に教科書の第6章を熟読し、理解を深めておく。授業後は講義内容をまとめ、知識の定着に努める。	4時間
第4回	**代謝・栄養疾患、腎・尿路疾患、水・電解質異常** 栄養・代謝、腎・泌尿器の内科的疾患ならびに水・電解質の異常による代表的な疾患を概説する。	授業前に教科書の第9章、第10章を熟読し、理解を深めておく。授業後は講義内容をまとめ、知識の定着に努める。	4時間
第5回	**内分泌疾患** 内分泌の内科的疾患の代表的な疾患について概説する。	授業前に教科書の第8章を熟読し、理解を深めておく。授業後は講義内容をまとめ、知識の定着に努める。	4時間
第6回	**自己免疫疾患、アレルギー疾患、免疫不全** 自己免疫、アレルギー、免疫不全の代表的な疾患について概説する。	授業前に教科書の第4章を熟読し、理解を深めておく。授業後は講義内容をまとめ、知識の定着に努める。	4時間
第7回	**神経・運動器疾患** 神経・運動器の代表的な疾患について概説する。	授業前に教科書の第7章を熟読し、理解を深めておく。授業後は講義内容をまとめ、知識の定着に努める。	4時間

授業科目名	**疾病治療論Ⅱ**				
担当教員名	八代正和				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	八代正和（医師として病院での臨床勤務経験を有している）				

授業概要

外科的な病因とその成り立ちについて、疾病概念と診断・治療の概要を系統別に学習する。消化器・乳腺内分泌・血液・腎泌尿器疾患感染症等疾患の症状、診断に必要な検査及び治療について学ぶ。
また、身体の機能や運動のもととなる消化・乳腺内分泌神経・筋・骨格感覚器の病態、診断、症状や治療方法等について理解する。さらに、運動器疾患、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科疾患についても学ぶ。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自立して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる	消化器・乳腺内分泌・血液、腎・泌尿器疾患感染症の代表的な臨床像について学習して、その内容理解を深める。	消化器・乳腺内分泌・血液、腎・泌尿器疾患感染症の臨床的代表例について、症状、診断、検査・治療方法について説明することができる。
2. DP2.人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる	神経、筋・骨格、感覚器等の身体機能や運動のもととなる働きを学習し、その内容理解を深める。	神経、筋・骨格、感覚器等の身体機能や運動のもととなる生体の働きや仕組みについて、説明することができる。
汎用的な力		
1. DP2.人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる		消化器・乳腺内分泌・神経、筋・骨格、感覚器等の身体機能や運動のもととなる働きを学習した後、これらに関連する代表的な運動器、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科の各疾患の理解を深め、説明することができる。
2. DP3.地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる		外科治療における看護の果す役割は大きい。外科疾患の病態を理解し、多領域の医療専門職と協働して、手術治療における外科看護の意義を理解する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験	90 %	： 教科書と講義資料の範囲について、その理解度を評価します。
課題学習（レポート）の提出内容による評価	10 %	： 授業後の課題に対するレポート内容を評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年

池上徹／高橋則子他	・ 臨床外科看護総論第12版	・ 医学書院	・ 2023　年
南川雅子他	・ 成人看護学[5]消化器第16版	・ 医学書院	・ 2024　年

参考文献等

大野義一朗著『消化器外科の手術看護』（医学書院、2018年）ISBN　978-4-260-02200-2
小松浩子他『がん看護学第3版』（医学書院、2022年）ISBN　978-4-260-04216-1

履修上の注意・備考・メッセージ

配布スライドおよび授業資料を参考にしながら、教科書を読んで理解を深めてください。履修後は学習した内容の復習やノートの整理をしましょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　授業内容に関する質問がある場合は、授業終了後に受付ます。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**外科学総論および外傷、麻酔法** 外傷と感染症、外科手技、手術体位。気道確保、外科治療に対する麻酔法、術後疼痛管理、手術合併症。	テキスト「臨床外科看護総論　第12版」をもとに授業後は講義内容をまとめ、知識の定着に努める。	4時間
第2回	**上部消化器疾患の病態と外科的治療** 食道、胃、十二指腸、小腸の病気・病態・診断・手術治療と術後ケア。	テキスト「成人看護学[5]　消化器　第16版」、参考文献「消化器外科の手術看護」をもとに授業後は講義内容をまとめ、知識の定着に努める。	4時間
第3回	**下部消化器疾患の病態と外科的治療** 大腸・肛門の病気・病態・診断・手術治療と術後ケア。	テキスト「成人看護学[5]　消化器　第16版」、参考文献「消化器外科の手術看護」をもとに授業後は講義内容をまとめ、知識の定着に努める。	4時間
第4回	**肝臓・胆嚢・膵臓疾患の外科的治療** 肝臓・胆嚢・膵臓の病気・病態・診断・手術治療と術後ケア。	テキスト「成人看護学[5]　消化器　第16版」、参考文献「消化器外科の手術看護」をもとに授業後は講義内容をまとめ、知識の定着に努める。	4時間
第5回	**胸部疾患の病態と外科的治療** 肺、縦郭、心臓の病気・病態・診断・手術治療と術後ケア。	テキスト「臨床外科看護総論　第12版」をもとに授業後は講義内容をまとめ、知識の定着に努める。	4時間
第6回	**甲状腺・乳腺疾患の病態と外科的治療** 乳腺・内分泌の病気・病態・診断・手術治療と術後ケア。	テキスト「臨床外科看護総論　第12版」をもとに授業後は講義内容をまとめ、知識の定着に努める。	4時間
第7回	**癌の病態と治療** 腫瘍の診断と外科治療。癌の生物学的特徴、癌遺伝子・癌抑制遺伝子。抗癌剤の種類と作用機序と研究。	参考文献「がん看護学第3版」を参考にしながら、講義内容をまとめ、知識の定着に努める。	4時間

授業科目名	**疾病治療論Ⅲ**				
担当教員名	吉川貴仁				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	吉川貴仁（医師として総合病院、大学病院で勤務経験あり）				

授業概要

精神障害である統合失調症、うつ病、アルコール障害、認知症、心身症、ストレス関連障害等の精神・心身の疾患の病態と診断および治療について学ぶ。また、小児・青年期の精神・心身医学的疾患、成人の人格・行動障害についても学習する。さらに、神経系疾患を持つ患者のアセスメントができる基礎的知識を習得し、治療方法等について理解する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自立して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる	主たる精神疾患の症状、診断、検査、治療について理解する。	主たる精神疾患の症状、診断、検査、治療を説明できる。
汎用的な力		
1. DP3.地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる		将来医療職として様々な精神疾患を持つ患者の看護援助をすることを目標に、必要な精神疾患に関する知識を習得する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験	90 %	： テキストと講義資料の範囲の理解について評価します。
課題学習の提出内容等による総合評価	10 %	： 授業後に課題を出した小テスト等

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
加藤温/森真喜子	・ 病態・治療論[12] 精神疾患 改訂第2版	・ 南江堂	・ 2024 年

参考文献等

その他授業中に適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

配布スライドおよびpdf資料を参考にしながら教科書を読んで理解を深めてください。履修後はノート等の整理をしましょう。
レジュメの中には、精神疾患を有する患者さんの具体例を提示しています。知識として学んだ内容がいかに実際の患者さんの症状や特徴として見えてくるのか、どのように看護をすればよいのかなどを考えながら、実際の患者さんを前にした時を想像して学習してください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**精神疾患にみられる精神症状/精神疾患の診断と検査** 第Ⅰ章 精神疾患の理解 1.精神疾患を学ぶ前に 2.精神疾患にみられる精神症状①意識の異常②知覚の異常③思考の異常④感情の異常⑤意志・欲動・行動の異常⑥自我の異常⑦記憶の異常⑧知能の異常 第Ⅱ章 精神疾患の診断・治療 1.精神疾患の診断 2.精神疾患の検査	教科書 P5-55の内容を予習・復習し、ノートを整理する	4時間
第2回	**精神疾患の治療(精神療法と薬物療法)** 第Ⅱ章 精神疾患の診断・治療 3.精神疾患の治療①精神療法②薬物療法③電気けいれん療法	教科書 P56-97の内容を予習・復習し、ノートを整理する	4時間
第3回	**統合失調症/気分障害** 第Ⅲ章 精神疾患 各論1.統合失調症①統合失調症(スキゾフレニア) 各論2.気分症①うつ病②双極症③持続性抑うつ症④季節性抑うつ症	教科書 P100-123の内容を予習・復習し、ノートを整理する	4時間
第4回	**神経症性障害、ストレス関連障害** 第Ⅲ章 精神疾患 各論3.不安症群、強迫症、心的外傷およびストレス因関連症群、解離症群、身体症状症①不安症群②強迫症③心的外傷およびストレス因関連症群④解離症群⑤身体症状症	教科書 P124-148の内容を予習・復習し、ノートを整理する	4時間
第5回	**症状性を含む器質性精神障害/精神作用物質使用による精神・行動の異常** 第Ⅲ章 精神疾患 各論4.器質性精神障害(症状性精神障害)①認知症②中枢神経感染症③自己免疫疾患④代謝性脳症⑤外傷妄性精神障害⑥せん妄 各論5.精神作用物質使用による精神・行動の障害①物質使用症	教科書 P150-180の内容を予習・復習し、ノートを整理する	4時間
第6回	**生理的障害・身体的要因に関連した精神障害または行動症候群** 第Ⅲ章 精神疾患 各論6.睡眠障害①不眠障害②ナルコレプシー③呼吸関連睡眠障害④概日リズム睡眠-覚醒障害群⑤睡眠時随伴症群⑥レストレスレッグス症候群(むずむず脚症候群)7.摂食症①神経性やせ症(AN)②神経性過食症(BN)③睡眠関連摂食障害(SRED)	教科書 P183-199の内容を予習・復習し、ノートを整理する	4時間
第7回	**小児・青年期の精神・心身医学的疾患、成人の人格・行動障害** 第Ⅲ章 精神疾患 各論8.パーソナリティ症①猜疑性パーソナリティ症②シゾイドパーソナリティ症③統合失調型パーソナリティ症ほか 9.小児・青年期の精神障害①標準的な神経発達②代表的な神経発達症③受診のきっかけ④治療⑤愛着障害	教科書 P200-218の内容を予習・復習し、ノートを整理する	4時間

授業科目名	**疾病治療論Ⅳ**				
担当教員名	川村智行・西山理恵				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	川村智行（現役医師／小児科医として大学附属病院での勤務経験あり）第1回～第4回を担当 西山理恵（現役医師／産婦人科医として総合病院での勤務経験あり）第5回～第7回を担当				

授業概要

産科及び婦人科系疾患と小児科疾患についての基本的な知識を学ぶことを目的とする。（オムニバス方式／全７回）
（川村智行／４回）
小児系疾患について、そのメカニズムを理解し、主な疾患の検査、診断、治療について学修する。
（西山理恵／３回）
産婦人科系疾患の総論として、生殖器系の疾患の病態と診断・治療について、女性生殖器の疾患を学ぶ。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2.人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる	産婦人科系疾患および小児系疾患について理解を深める	産婦人科系疾患の総論として、生殖器系の疾患の病態と診断・治療について、女性生殖器を理解できる。小児系疾患について、そのメカニズムと主な疾患の検査、診断、治療について理解できる。
汎用的な力		
1. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自律して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる		産婦人科系疾患の総論として、生殖器系の疾患の病態と診断・治療について、女性生殖器を理解できる。小児系疾患について、そのメカニズムと主な疾患の検査、診断、治療について理解できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・問答法・コメントを求める

・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

・見学、フィールドワーク

糖尿病キャンプへのボランティア参加の推奨

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験	80 ％	： テキストと講義資料の範囲の理解について評価します
課題学習の提出内容などによる総合評価	20 ％	： 授業の理解度と知識以外に学んだ内容を問う課題

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
奈良間 美保	・ 小児看護学[2] 小児臨床看護各論 第14版（系統看護学講座(専門分野)）	・ 医学書院	・ 2020 年

参考文献等

百枝幹雄、山中美智子、森明子編集「看護学テキストNiCE 病態・治療論［13］産婦人科疾患」南江堂（ISBN:978-4-524-23754-8）、2019年.

真部淳、松藤凡、小林京子編集「看護学テキストNiCE 病態・治療論［13］小児疾患」南江堂（ISBN:978-4-524-23755-5）、2019年、第2刷.

その他の参考文献については授業時に紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

原則として毎回の講義に出席し、積極的な姿勢で授業に参加してください。
実地体験として糖尿病キャンプへのボランティア参加を推奨します。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業前後

場所： 教室内、またはメールで

備考・注意事項： （小児科疾患：川村）
気軽に疑問点などを質問受け付けます。メールでも問い合わせ可です。
garurumusashi@gmail.comまで連絡を

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**小児疾患①／先天異常・代謝性疾患・内分泌疾患（川村）** 小児の成長と発達の基本を知る。 先天異常、代謝性疾患、内分泌疾患について理解し、病態や症状、診断、検査、治療などを学習する。	教科書、参考資料の該当箇所を読み、講義内容を復習し、理解を 深めノートにまとめましょう。	4時間
第2回	**小児疾患②／感染症・消化器疾患・呼吸器疾患、アレルギー疾患・脳神経疾患・（川村）** 子どもの免疫の特徴を理解し、小児期に罹患しやすい主な感染症の原因、症状、治療、予防などについて学習する。また、主な消化器疾患および呼吸器疾患、食物アレルギーや小児喘息など子どもに多いアレルギーについて理解し、病態や症状、検査、治療などについて学習する。また、神経系の先天異常や痙攣性疾患、脳性麻痺について理解し、病態や症状、検査、治療などについて学習する。	教科書、参考資料の該当箇所を読み、講義内容を復習し、理解を 深めノートにまとめましょう。	4時間
第3回	**小児疾患③／腎泌尿器・循環器疾患・血液疾患・悪性新生物（（川村）** 主な、腎泌尿器、先天性・後天性心疾患について理解し、病態や症状、検査や治療などについて学習する。また、血液疾患や主な小児がんの種類や頻度について理解し、症状、検査や治療、予後などについて学習する。	教科書、参考資料の該当箇所を読み、講義内容を復習し、理解を 深めノートにまとめましょう。	4時間
第4回	**小児疾患④小児疾患と病気を持つ子どもの生活を支える（川村）** 様々な病気を持つ子どもをその家族を支えるという看護師の役割について考える。	教科書、参考資料の該当箇所を読み、講義内容を復習し、理解を 深めノートにまとめましょう。	4時間
第5回	**婦人科疾患①／性周期と性ホルモン、月経異常、女性のヘルスケア（西山）** 性周期や性ホルモン、月経周期について理解し、月経異常・随伴症状、異常時の検査や治療について学習する。また、ライフサイクルのにおける女性特有の症状の特徴（思春期、成熟期、更年期、老年期）を理解し、婦人科疾患の検査・診断・治療について学習する。	参考資料等の該当箇所を読み、講義内容を復習し、理解を 深めノートにまとめましょう。	4時間
第6回	**婦人科疾患②／女性生殖器疾患（西山）** 女性生殖器で発生しやすい内分泌異常、性感染症、良性腫瘍、悪性腫瘍、不妊症などについて理解する。また、これらの症状、診断、治療について学習する。	参考資料等の該当箇所を読み、講義内容を復習し、理解を 深めノートにまとめましょう。	4時間
第7回	**産科疾患／妊娠、分娩、産褥、新生児の生理と異常（西山）** 妊娠、分娩、産褥の生理を理解し、起こりやすい異常について学習する。また、新生児の生理を理解し、分娩時に起こりやすい異常について学習する。	参考資料等の該当箇所を読み、講義内容を復習し、理解を 深めノートにまとめましょう。	4時間

731

授業科目名	発達心理学				
担当教員名	萩原広道				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

看護の対象が誕生から死に至るまでの成長発達的な変化を遂げる人であると考えると、ライフサイクルの各段階に特徴的に見られる心理や行動について理解を深めることは、看護を学ぶ上で重要である。この授業では、人を受精から死に至るまで、生涯にわたって発達的変化を続ける存在として位置づけ、環境との関わりの中で心的機能がどのように発達的変化を遂げていくのか理解を深める。その中で、ライフサイクルの各段階に応じた看護の必要性について意識を深め、発達心理学の知見を看護の中でどのように活用するかを考える。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自立して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる	発達心理学的知識の修得と看護実践	発達心理学に関係する諸理論について理解し、ライフサイクルの各段階の特徴に応じた看護者の関わりについて意識を高める。
汎用的な力		
1. DP3.地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる		それぞれの発達段階におけるメンタルヘルス不全について理解する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への積極的参加（2点×14回）	28 %	： 授業への積極的参加と質問に対する積極的な答えを総合して評価する。
授業内ミニテスト（21点×2回）	42 %	： 授業内容を踏まえた知識問題を問うテスト（選択・論述）を期間中に2回実施し、その答案を評価する。論述については、具体例や体験をもとに適切に論じることができているかを主要な評価基準とする。
学期末レポート	30 %	： 授業内容を踏まえて、考え方が変わったことや新たに学んだことについて、自分自身で考えて、自分のことばで論述できているかを主要な評価基準とする。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
萩原広道	・ 子どもとめぐることばの世界	・ ミネルヴァ書房	・ 2024 年

参考文献等

高畑脩平ほか（2019）．子ども理解からはじめる感覚統合遊び．クリエイツかもがわ．
978-4-86342-260-5 C0037
高畑脩平ほか（2020）．みんなでつなぐ読み書き支援プログラム．クリエイツかもがわ．
978-4-86342-276-6 C0037
渡辺弥生監修（2021）．完全カラー図解 よくわかる発達心理学．ナツメ社．
978-8163-7057-1

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
受講者の興味関心、およびディスカッションの進捗に応じて、授業内容を入れ替えたり変更したりする場合がある。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　授業の前後を活用ください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**発達心理学とは** 人を生涯発達しつづける存在として位置づけることの意味について理解を深める。	シラバスを読み、授業の概略を理解する。	4時間
第2回	**発達理論と子ども観** ピアジェやエリクソンなど、「発達の大きな理論」について理解を深める。	講義内容を復習し、自らの子ども観について考える。	4時間
第3回	**受胎から乳児期まで** 胎児期から始まる学習や環境要因の影響などについて理解を深める。	講義内容を復習し、発達最初期の子どもに影響する要因について考える。	4時間
第4回	**身体・運動機能の発達** 身体発達や運動発達を理解し、発達変化や個人差に合わせた支援について考える。	講義内容を復習し、身体・運動の発達と支援について考える。	4時間
第5回	**感覚・知覚機能の発達** 感覚・知覚の発達および個人差について理解し、発達変化や個人差に合わせた支援について考える。	講義内容を復習し、感覚・知覚の発達と支援について考える。	4時間
第6回	**言語の発達①スピーチ** 言語コミュニケーションのチャンネルとなる音韻の理解・表出の発達過程について学ぶ。	講義内容を復習し、音韻理解・音韻意識や構音の発達について考える。	4時間
第7回	**言語の発達②ランゲージ** 狭義の言語機能となる語彙と文法の発達過程について理解を深める。	講義内容を復習し、語彙・文法の発達について考える。	4時間
第8回	**言語の発達③コミュニケーション** 社会性の発達を含めた、他者の心に気づき、理解していく発達過程について理解する。	講義内容を復習し、他者の心の理解の発達について考える。	4時間
第9回	**社会性・道徳性・愛着の発達** 人は人との関係の中に生まれ、新たな関係を見出し、育つ。人間が社会文化的関係の中で育つ過程について考える。	講義内容を復習し、子どもを取り巻く社会文化的環境について考える。	4時間
第10回	**発達の評価法** 発達心理学における方法論および発達支援の現場で用いられる評価手法について理解する。	講義内容を復習し、発達研究・支援の評価法について習熟する。	4時間
第11回	**学習と動機づけ** 発達の土台となる学習と動機づけの諸理論について理解する。	講義内容を復習し、子どもの発達を学習の文脈の中で捉え直す。	4時間
第12回	**幼児期・児童期の発達** 幼児期から児童期にかけての子どもの発達と社会的生活について考える。	講義内容を復習し、幼児期から学童期前期にかけての発達について考える。	4時間
第13回	**思春期から青年期・老年期における発達** 思春期から青年期・老年期にいたる発達の特徴と課題について考える。	講義内容を復習し、思春期から青年期・老年期にかけての発達について考える。	4時間
第14回	**発達の多様性と支援** 発達における特性の多様性について概観し、支援の実際について学ぶ。	講義内容を復習し、発達支援の実際について考える。	4時間

731

授業科目名	**疫学・保健統計学**				
担当教員名	吉川貴仁				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	吉川貴仁（医師として総合病院、大学病院で勤務経験あり）				

授業概要

医療者は、患者個人の病気に対する視点だけではなく、家族や地域、病院、学校などの人間「集団」における健康事象（例えば、生活習慣病の増加、院内感染やパンデミックの発生）を観察し、その発生要因を理解することも必要であり（公衆衛生）、そのためには疫学の知識が欠かせない。そこで「疫学・保健統計学」では、そういった集団の健康・疾病を促進または抑制する要因や、健康問題を解決する方法論について学修することを目的とする。具体的には、疫学で用いられる指標、保健統計調査とデータおよび統計学的方法とその解釈、バイアスと交絡要因、スクリーニングについて学び、疾病の関連要因と具体的な支援について考える。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自立して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる	各種保健統計指標の読み取り方、解釈の方法について、実際のデータを通して学ぶ。	主要な疾患のリスク要因から予防までを総合的に理解できる。さらに集団の健康問題の解決へつなげることができる。
2. DP2.人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる	因果推論に必要とされる疫学・統計学の知識を学修する。	研究・調査を正しく実施し、結果を基に正しい意思決定を行うための疫学・統計学の基礎的知識を理解できる。
汎用的な力		
1. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自律して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる		研究・調査のための倫理について基礎的知識を理解できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験	90 %	： テキストと講義資料の範囲の理解について評価します
課題等授業への取組	10 %	： 授業後に課題を出した小テスト等

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
尾島俊之/村山洋史	・ 保健学講座４　疫学/保健統計	・ メヂカルフレンド社	・ 2022　年

参考文献等

南山堂「看護学生のための疫学・保健統計学」（978-4-525-05344-4）他　授業中に適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

配布スライドおよびpdf資料を参考にしながら教科書を読んで理解を深めてください。履修後はノート等の整理をしましょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　授業前後の時間を活用してください

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**地域診断の基本統計** 健康問題へのアプローチとして、個人のみならず集団を対象にして考える、疫学・保健統計学の必要性について理解を深める。	疫学、人口静態・動態統計についてノートを整理し、概念や用語について理解しましょう。	4時間
第2回	**地域診断の分析** 地域における疾病・死亡の発生状況の実態把握（地域診断）のために必要な基本的な統計指標や質的データの分析について理解を深める。	有病率と罹患率の違い、また、質的データの種類についてノートを整理し、理解しましょう。	4時間
第3回	**人口構成の違い** 地域診断を行う際には、年齢層、性別など地域ごとの人口構成の違いで補正する必要があることの理解を深める（層化、年齢調整、交絡）。	交絡の意味、層化、年齢調整の方法についてノートを整理し、理解しましょう。	4時間
第4回	**出生と寿命** 出生、死亡、婚姻、離婚、死産に関する実態（人口動態）や、健康の構成要素に関する最近の分類（国際生活機能分類）の理解を深める。	平均寿命、合計特殊出生率などの人口動態に関して、生命表を含め最新の公的資料を基にノートを整理しましょう。	4時間
第5回	**傷病発生の要因** 傷病発生の関与が推定される曝露要因と、非感染性疾患の発生状況について理解を深める。	食事や運動などの生活習慣を含む曝露要因や各種疾患の発生状況についてノートを整理し、理解しましょう。	4時間
第6回	**全国と地域の状況** 全国と地域の健康・医療・福祉に関する現状を行政機関が調査し公表する基幹統計・疾病統計について、その種類や調査の仕組みを理解する。	基幹統計を医療・保健衛生、健康増進、社会福祉、医療経済、学校保健の領域に分けてノートを整理し、理解しましょう。	4時間
第7回	**実態調査** 疫学調査を行うにあたり必要となる以下の事項について理解を深める：母集団、無作為抽出、偶然誤差と信頼性、系統誤差と妥当性、選択バイアス、データの種類（カテゴリー、数量）、データ分布、ヒストグラム、尺度（健康、心理、行動）。	偶然誤差と信頼性、系統誤差と妥当性の関係性についてノートを整理し、理解しましょう。	4時間
第8回	**実態調査の分析** 収集した疫学データの分析に必要となる以下の基本事項について理解を深める：代表値（平均値、中央値）、分布（分散、標準偏差、四分位、パーセンタイル）。	平均値と分散・標準偏差、中央値と四分位・パーセンタイルの関係性についてノートを整理し、理解しましょう。	4時間
第9回	**要因分析** 曝露要因と疾病発症の関係を統計学的に分析する方法に関する以下の項目の理解を深める：　研究デザイン（横断研究、コホート研究、症例対照研究）、相対危険、リスク比、オッズ比、相関と回帰、マッチング。	各研究デザインの長所・短所について、また、相関と回帰の違いについてノートを整理し、理解しましょう。	4時間
第10回	**偶然誤差の分析** 偶然生じる測定誤差が種々の確率分布に従い、その分布により母集団の特性が推定でき、その母集団に関する仮説を検定できることを理解する。	正規分布・二項分布、区間推定、仮説検定（統計学的有意性、帰無仮説、第1種、第2種の誤り）など統計の基礎についてノートを整理し、理解しましょう。	4時間
第11回	**政策のための分析** 疫学調査の結果から、各種曝露要因の影響度の大小を推定し、対策すべき優先順位を決める際に必要となる寄与危険・寄与危険割合という考え方や、対策をすべき個人的要因（予防行動）や社会的要因（健康格差）に関する理解を深める。	寄与危険・寄与危険割合、健康格差、予防行動を促すナッジの仕掛けについてノートを整理し、理解しましょう。	4時間
第12回	**事業の評価** 保健事業の効果を評価するために用いる疫学調査方法の種類とその利点・欠点について、以下の項目の理解を深める：介入研究、観察研究、システマティックレビュー、メタアナライシス、因果関係（関連との違い）。	疫学調査方法の特徴についてノートを整理し、理解しましょう。	4時間

第13回	**感染症** 感染症の基礎概念、予防対策、疫学調査、発生動向調査（特に結核とHIV）について理解を深める。	潜伏期、不顕性感染、宿主といった感染症の疫学用語についてノートを整理し、理解しましょう。	4時間
第14回	**スクリーニング・検診** 一次・二次・三次予防の意味、健診と検診の違い、スクリーニングの方法、目的、要件、精度管理（感度・特異度）について理解を深める。	一次・二次・三次予防、感度・特異度についてノートを整理し、理解しましょう。	4時間

授業科目名	**公衆衛生学**				
担当教員名	関根伸一				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	歯科医師として大学病院で勤務経験あり				

授業概要

本科目は、様々な健康課題を持つ人への看護支援を展開するうえでの基盤となり、疾病予防と健康寿命の延長を目指した疾病の予防と制度について学修を深めることを目的とする。身体的、精神的、社会的健康の増進を進めるために、人間集団を対象とした環境整備、疾病の予防、健康の保持増進を図る施策や制度及び展開について学修する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自立して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる	「8020」「健康日本21」「保健所」「市町村保健センター」「都道府県・市町村・保健所・市町村保健センターの業務」「PDCAサイクル」について理解する。	地域保健活動の基本的な進め方を説明できる。
2. DP2.人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる	「母子健康手帳」「乳児健診」「1歳6ヶ月児健診」「3歳児健診」「学校保健の保健教育・保健管理」「CO」「GO」「生きる力」「スクリーニング検査」「生活習慣病」「特定健康診査」「健康増進法」「作業環境管理」「作業管理」「健康管理」「老人保健施策」「介護予防サービス」「介護保険」「新障害者プラン」「統合失調症の摂食パターン」について理解する。	ライフステージごとの地域保健活動を説明できる。
汎用的な力		
1. DP3.地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる		地域保健行政の関連法規と組織について説明できる。
2. DP3.地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる		地域保健と公衆衛生の概念を理解できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

レポート課題では、下記のテーマから選んでください。
①ケーススタディ分析　②ヘルスケア政策分析　③予防看護の提案　④倫理的ジレンマの分析

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
期末試験	50 %	： 授業の理解度を定期試験にて評価します
課題レポート・小テスト	30 %	： レポート内容を評価します
授業への参加意欲	20 %	： 授業参加の様子を評価します

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
平野かよ子他	・ナーシング・グラフィカ 健康支援と社会保障 2 公衆衛生 第5版	・メディカ出版	・2021 年

参考文献等

適宜、講義中に紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

積極的に授業中の問答について参加し、テキスト及び資料について理解を深めてください。授業後はノート等の整理をしましょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項： 授業の前後に質問してください。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**地域保健の概念／地域保健行政に関する法令** ヘルスプロモーション、ノーマライゼーションについて学ぶ。「8020」「健康日本21」について理解する。地域保健法、健康増進法について学ぶ。「保健所」「市町村保健センター」について理解する。	講義の内容を振り返り、地域保健についての用語や概念など学んだことを整理しましょう。	4時間
第2回	**地域保健の組織と行政機関の役割／地域保健活動の進め方** 地方行政について学ぶ。「都道府県・市町村・保健所・市町村保健センターの業務」、「PDCAサイクル」について理解する。	講義の内容を振り返り、地域保健についての用語や概念など学んだことを整理しましょう。	4時間
第3回	**母子保健／妊産婦・乳幼児の保健** わが国の母子保健の概要を学ぶ。「母子健康手帳」について理解する。 各種健診：「乳児健診」「1歳6ヶ月児健診」「3歳児健診」について学ぶ。	講義の内容を振り返り、母子保健についての用語や概念など学んだことを整理しましょう。	4時間
第4回	**学校保健** 学校保健の対象者を列挙し、意義を学ぶ。「学校保健の保健教育・保健管理」「CO」「GO」を理解する。	講義の内容を振り返り、学校保健についての用語や概念など学んだことを整理しましょう。	4時間
第5回	**成人保健** 生活習慣病のリスクファクターについて学ぶ。「生活習慣病」「特定健康診査」を理解する。	講義の内容を振り返り、生活習慣病についての用語や概念など学んだことを整理しましょう。	4時間
第6回	**産業保健** 産業保健の目的について学ぶ。 「作業環境管理」「作業管理」「健康管理」を学ぶ。	講義の内容を振り返り、産業保健についての用語や概念など学んだことを整理しましょう。	4時間
第7回	**高齢者保健／精神保健** 高齢者の保健対策について学ぶ。「老人保健施策」「介護予防サービス」「介護保険」について理解する。 精神保健の定義について学ぶ。「新障害者プラン」「統合失調症の摂食パターン」について理解する。	講義の内容を振り返り、高齢者保健や精神保健についての用語や概念など学んだことを整理しましょう。	4時間

授業科目名	保健医療福祉行政論				
担当教員名	小田泰宏				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	小田泰宏（①行政官・研究公務員としての指導および普及啓発活動、②担当した制度創設や改正時の地方自治体職員等に対する説明会やブロック会議の講師、医療関係誌の執筆や対談による普及活動、③その他、民間の医療コンサルタンタント等が主催する医療法人設立セミナー等の講師）				

授業概要

ますます複雑、多様化してきているわたしたちの日常生活を取り巻く公衆衛生上の多くの課題を解決するために施行されている法律と、それを根拠として実施されている行政の働き、またそれらを可能とする財政の仕組みなどについて、おもに保健と医療に関わる分野を中心に講義します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2.人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる	医療サービスの対象となる日本の市民・患者の人口動態、健康状態、罹患状況について統計学的に把握する。	日本の市民・患者の人口動態、健康状態、罹患状況について説明できる。
2. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自立して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる	医療提供の場＝施設に関する規制、医療を提供する人材＝医師・看護師等の養成とその業務に関するルールを法律学的に理解する。	医療施設に関する規制、医師・看護師等の養成と業務に関するルールについて説明できる。
汎用的な力		
1. DP3.地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる		保健・福祉分野を含め我が国の関係行政機関の編成原理と作動の仕組み、最新の政策動向を社会学的に理解できる。
2. DP3.地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる		医療や介護に係る費用負担と保険による給付水準に関する制度設計と財政状況を経済学的に認識できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
期末試験	50 %	： 客観短答式50問の筆記試験
レポート提出	50 %	： 学習した保健医療福祉制度の中における専門職としての自身の位置づけ等に関するレポートの提出を求め、①趣旨の理解、②用語の適切性、③記述の論理性、④講義内容との関連性、⑤結論の説得力等の視点から評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

必要に応じて講義中に紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

事前に講義用プリントを1時間程度かけて読み込み、自分なりの理解と疑問点をもって授業に臨み、事後は誤解をただし疑問点を解消できたか確認して下さい。科目名は「保健医療福祉行政論」ですが、最も関心があると思われる医療行政に照準するので、保健行政については「公衆衛生学」、福祉行政については「社会福祉と社会保障」等の科目も履修していただくことを希望します。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**患者論：健康状態と受療状況** 講義の対象である日本の医療制度の前提となる人口動態、疾病動向、死因順位、長期入院や社会的入院等の日本人の受療行動の特色について	講義前に講義資料を提示するので、毎回事前に熟読し、内容を予測して授業に臨むこと。	4時間
第2回	**病院論Ⅰ：病院・診療所等の施設** 医療の理念、医療を行う場である病院・診療所の開設・管理のルール、地域における医療施設の配置計画、医療経営のための医療法人について	講義前に講義資料を提示するので、毎回事前に熟読し、内容を予測して授業に臨むこと。	4時間
第3回	**病院論Ⅱ：医師・看護師等の人材** 医療を担う人材である医師・看護師等の養成の仕組みと就業してから業務上守るべきさまざまな決まり事や社会からの期待と要請について	講義前に講義資料を提示するので、毎回事前に熟読し、内容を予測して授業に臨むこと。	4時間
第4回	**保険論Ⅰ：健保・国保・高齢者医療** 医療にかかる費用を賄うための健康保険・国民健康保険の構造と機能、特に保険者、被保険者、保険料、保険給付という4つの要素について	講義前に講義資料を提示するので、毎回事前に熟読し、内容を予測して授業に臨むこと。	4時間
第5回	**保険論Ⅱ：介護保険制度** 少子化・高齢化の進展と低成長経済という環境のもとで創設された介護保険の仕組み並びに保健、福祉と結接する地域包括ケアという理念について	講義前に講義資料を提示するので、毎回事前に熟読し、内容を予測して授業に臨むこと。	4時間
第6回	**行政論Ⅰ：組織と財政** 患者、病院、保険という医療の世界のステークホルダーたちの相互関係を調整する医療行政を任務とする国や自治体の組織と財政について	講義前に講義資料を提示するので、毎回事前に熟読し、内容を予測して授業に臨むこと。	4時間
第7回	**行政論Ⅱ：課題と政策** 日本の医療の直面する課題とその解決に向けた政策の方向性とされる医療提供体制の良質・安全・透明および医療保険の安定・効率・明快について	講義前に講義資料を提示するので、毎回事前に熟読し、内容を予測して授業に臨むこと。	4時間

731

授業科目名	**社会福祉と社会保障**				
担当教員名	潮谷光人				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本科目は、社会福祉の理念と社会保障制度について学修することを目的とする。
第1回～7回　歴史とその展開の変遷から社会福祉の考え方を学び、現代社会が抱える様々な社会問題と福祉のあるべき姿について考察する。
第8回～14回)　社会福祉制度と法体系について学ぶとともに、その背景と社会福祉の財政についての理解を深める。また、社会福祉の場で働く専門職の役割と地域ボランティアとの連携を学び、現代の社会福祉が抱える課題について考察する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2.人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる	日本や諸外国の社会福祉の歴史と現実を学び、人権思想の発展との関連性を理解する。	社会福祉とは何かを考え、誰もが日常の生活の質を保つことの重要性を理解することができる
2. DP2.人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる	現代の社会保障制度の仕組みや直面している課題を知り、考察する。	将来の医療従事者として、国民が利用しうる社会資源を理解することができる。
汎用的な力		
1. DP3.地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる		社会の中で生きる一個人としての自分を自覚し、医療従事者となった際に何ができるかを広い視点から考えることができる。
2. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自律して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる		社会福祉とは何かを理解し、人権について自分の考えを述べることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業参加度および授業への貢献	50　%	：　授業参加度（20%）+「質問感想用紙」による理解度チェック（30%）
レポートと試験	50　%	：　レポート（20%）+筆記試験（30%）

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

第1～7回　丹波史紀ほか編『たのしく学ぶ社会福祉』（ミネルヴァ書房、2021年）
『国民の福祉と介護の動向』（厚生労働統計協会、毎年9月刊行）雑誌コード03854-09
第8～14回　香取照幸『教養としての社会保障』（東洋経済新報社、2017年）

履修上の注意・備考・メッセージ

第1回～7回は、毎回「質問・感想用紙」を配布し、次の講義の最初に回答紹介する。視聴覚教材を用いて、具体的に理解し、「自ら考える」時間にするので、出席が不可欠である。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　メールでの問い合わせ

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**「福祉」の思想** 「障害」とは何か？；自己責任論と「人間の自由」を支える福祉	①福祉の歴史から「自己責任論」の意味を考える。②「障害」と「環境」の関係を整理する。	4時間
第2回	**「社会福祉」概念の発展** 誰もが「老人」になることの意味；ノーマライゼーション；「選別主義の福祉」から「普遍主義の福祉」へ	「真に福祉を必要とする人に手厚い福祉を」という主張の意味を考える。	4時間
第3回	**社会福祉の意義** 女性の社会進出；「子どもの権利」の位置づけ；「人間発達」と社会の発展	「社会福祉の充実」と「経済の発展」とは、同時に実現することが可能なことを理解する。	4時間
第4回	**北欧の福祉社会** 普通の人々の日常生活の質の高さ；女性の社会的地位の高さ；民主主義の発展	①「社会福祉」と「民主主義」の関連を理解する。②北欧の「福祉社会」の特徴を整理する。	4時間
第5回	**アメリカの医療福祉** 民営化（営利企業とNPOの差異）；「貧困」の意味と格差社会の現状；医療福祉の専門職の役割	「福祉国家」としての北欧諸国とアメリカの違いを理解し、日本の政策動向について知る。	4時間
第6回	**社会福祉の土台** 「住宅」（居場所）、「労働」（役割と評価）、「教育」（ひとづくり）が、社会福祉において持つ意味	「人間の自立」に不可欠な条件を考え、「住宅」「労働」「教育」のそれぞれが何故必要なのかを整理する。	4時間
第7回	**住民参加の地域福祉** 「この子らを世の光に」（糸賀一雄）の意味；福祉を創る＝「学習する社会」の展望	「この子らに世の光を」（選別主義）と、「この子らを世の光に」（普遍主義）の違いを理解し、そのための条件を考える。	4時間
第8回	**日本の社会保障制度の概要** 日本の社会保障制度の枠組みについて学ぶ。	社会保障制度がどの部分までカバーしているか整理する。	4時間
第9回	**医療保険制度** 国民皆保険を支える仕組み（健康保険、国民健康保険、高齢者医療制度、保険診療）について学ぶ。	医療保険の財政方式と、どのような国民をどこまでカバーするか整理する。	4時間
第10回	**医療提供体制とその展望** 日本において医療がどのように提供されているか理解し、地域医療構想によってどのように変化している学ぶ。	日本の医療提供体制の特徴と、将来的な計画について整理する。	4時間
第11回	**介護保障制度** 介護保険制度の概要、需給サービス内容、サービス事業者・施設、介護保険の財政について学ぶ。	介護保険制度の仕組みと、給付に至る仕組みについて整理する。	4時間
第12回	**高齢者の生活と年金制度** 高齢者の生活とその生活における公的年金制度の役割について学ぶ。	年金制度の概観について整理する。	4時間
第13回	**貧困と生活保護制度** 国内の貧困の現状と救貧のシステムである生活保護制度について学ぶ。	日本の貧困について生活保護制度がどこまでカバーしているか整理する。	4時間
第14回	**経済社会学から見た地域包括ケア** 高齢者が住み慣れた地域での生活を継続できるよう支援する地域包括ケアシステムについて、経済的な視点から考える。	地域包括ケアシステムとは何かを調べて授業に臨みましょう。当科目で学んだことを振り返りましょう。	4時間

731

授業科目名	**看護学概論Ⅰ**				
担当教員名	吾妻知美				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	看護師として病院勤務経験あり。（7回）				

授業概要

人間科学、看護科学を基盤とした看護実践を中核概念に据えた看護の本質の理解を深めます。看護の歴史と看護の概念、看護実践の基礎となる知識や技術など、看護学の骨格の体系化と学生自らの看護観の醸成を目指して学習ます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自立して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる	看護の歴史、変遷について理解し、看護の概念、看護独自の機能、看護職の責務と可能性について学修する。	看護の歴史と背景、看護の概念、看護独自の機能と看護の対象について理解する。
汎用的な力		
1. DP3.地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる		看護の対象となる人や家族を理解し、看護実践の基盤となる技術について学修し理解する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験	80 %	： テキスト及び講義資料で学んだ範囲の理解についてテストします。
授業後の課題の提出	20 %	： レポート内容から理解の程度を把握します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
高橋照子	・看護学原理　改訂第３版	・南江堂	・2021　年
フロレンス・ナイチンゲール/小玉香津子・尾田葉子訳	・看護覚え書き　本当の看護とそうでない看護　新装版	・日本看護協会出版会	・2019　年
ヴァージニア・ヘンダーソン/湯槙ます、小玉香津子訳	・看護の基本となるもの　再新装版	・日本看護協会出版会	・2016　年

参考文献等

池川清子　「看護-生きられる世界の実践知」　ゆみる出版　1990年　ISBN：4－946509－13－5
その他、適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

授業中の問答について積極的に参加し、教科書及び資料について理解を深めてください。履修後はノート等の整理をしましょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　初回授業時に提示します

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**ガイダンス、看護の歴史** 看護の歴史を通して変遷を理解し、看護の概念について学びます。	シラバスを参考にして、授業の目的と概略をつかみましょう。	4時間
第２回	**看護の本質（看護の特性と定義）** 看護の概念を元に、看護の本質及び定義について学びます。	看護の特性と定義についてノートを整理し、理解を深めましょう。看護覚え書（ナイチンゲール）、看護の基本となるもの（ヘンダーソン）を読んでみましょう。	4時間
第３回	**看護の専門性** 看護独自の機能、看護職の責務と可能性について学びます。	看護の専門性についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4時間
第４回	**看護の対象となる個人・家族・社会** 看護の対象となる個人・家族・社会について学びます。	看護の対象となる個人、家族、社会についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4時間
第５回	**看護実践の基盤１ー看護実践における技術** 看護実践の中核をなす看護技術について学びます。	看護実践における倫理についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4時間
第６回	**看護実践の基盤２ー看護実践における倫理とマネジメント** 看護実践の中核をなす看護実践における倫理とマネジメントについて学びます。	看護実践における倫理とマネジメントについてノートを整理し、理解を深めましょう。	4時間
第７回	**チーム医療と看護** 疾病の多様化と医療の高度化に伴って必要とされる看護におけるチーム医療の必要性について学びます。	チーム医療についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4時間

731

授業科目名	**看護学概論Ⅱ**				
担当教員名	吾妻知美				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	看護師として病院勤務経験あり。（7回）				

授業概要

看護実践の基礎となる主要な理論家の看護理論の学習を通して、看護学における理論のもつ意味を考えます。看護理論と実践の関係、その活用の可能性についてグループワークや個人ワークを通して検討するとともに、学生自身の看護学への探求姿勢や看護観を養います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自立して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる	主な看護理論について学修し理解を深めていきます。その上で看護理論と看護実践の関係について考え、自己の看護観を養う。	看護実践の基礎となる理論や看護理論を学習し、理論と実践の関係について考えることができる。

汎用的な力		
1. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自律して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる		看護理論を学修し、自身の看護学を探求する姿勢と看護観を追求することができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

・その他(以下に概要を記述)

グループ発表後、わかりやすい発表グループを学生の投票で決定します。

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験	80 %	： テキスト及び講義資料で学んだ範囲の理解について評価します。
毎回の授業後の課題の提出	20 %	： 提出した課題内容から評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
筒井真優美編	・ 看護学理論　改訂第3版	・ 南江堂	・ 2019　年

参考文献等

高橋照子編　「看護学原理　改訂第３版」　南江堂　2021年
その他、適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

授業中の対話、グループワークに積極的に参加し、テキスト及び資料について理解を深めてください。履修後はノート等の整理をしましょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　初回授業時に提示します

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**看護理論の変遷** 看護実践の基盤となる学問と、看護理論の変遷についてひも解きます。	看護理論の変遷についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4時間
第２回	**近代看護の基盤を作った看護理論（ナイチンゲール）** 近代看護の基盤を作った看護理論（ナイチンゲール）について学修し、看護実践との関連を考えます。	看護理論（ナイチンゲール）についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4時間
第３回	**看護理論の萌芽期における看護理論１（ヘンダーソン）** 近代看護の萌芽期の看護理論（ヘンダーソン）について学修し、看護実践との関連を考えます。	看護理論（ヘンダーソン）についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4時間
第４回	**看護理論の萌芽期における看護理論２（ペプロー、ウィーデンバック）** 近代看護の萌芽期の看護理論（ペプロー、ウイーデンバック）について学修し、看護実践との関連を考えます。	看護理論（ペプロー他）についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4時間
第５回	**看護理論の開発期における看護理論（ベナー、ワトソン）** 近代看護の発展期の看護理論（ベナー、ワトソン）について学修し、看護実践との関連を考えます。	看護理論（ベナー、ワトソン）についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4時間
第６回	**自分たちの看護に活用したい看護理論** グループメンバーが共感したり関心を持つ看護理論家について調べてまとめ、看護実践への活用について考えましょう。	様々な看護理論家についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4時間
第７回	**看護理論と看護実践** 近代看護における様々な理論家の発表から、看護理論と看護実践の関係を理解し、自らの目指したい看護について考察しましょう。	看護理論と実践の関係についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4時間

731

授業科目名	**基礎看護学方法論Ⅰ**				
担当教員名	吾妻知美・中村美保・兼田美代・岩﨑真子				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義・演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	吾妻知美（看護師として病院勤務経験あり）（14回）、中村美保（看護師として病院勤務経験あり）（14回）、兼田美代（看護師として病院勤務経験あり）（14回）、岩﨑真子（看護師として病院勤務経験あり）（14回）				

授業概要

本科目では、看護学概論Ⅰを踏まえて看護における技術の意味と特性を理解します。看護技術の基本となる『感染予防』の技術、『活動と休息』『生活環境の調整』の援助技術についての科学的根拠を学び、その具体的方法について学習します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自立して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる	看護技術の基本となる『感染予防』『活動と休息』『生活環境の調整』の援助技術について科学的根拠を理解し、具体的方法について学修します。	看護技術の基本となる『感染予防』『活動と休息』『生活環境の調整』の援助技術の科学的根拠を理解し、実践できる。
汎用的な力		
1. DP3.地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる		対象者への看護支援として、看護技術の基本となる『感染予防』『活動と休息』『生活環境の調整』の援助技術の科学的根拠を理解し、実践できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

アクティブ・ラーニングを促すために、演習では患者役・看護師役の役割を決めロールプレイを行い適切な援助ができたかについて振り返りを行う。さらに演習に臨むために事前学習・自己学習により技術の習得を促す。

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
筆記試験	60 %	： テキスト及び講義資料で学んだ範囲の理解について評価します。
実技試験	40 %	： 提出物にコメント・評価をつけて返却します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年

松尾ミヨ子他編	・ナーシング・グラフィカ　基礎看護技術Ⅱ	・メディカ出版	・2022　年

参考文献等

適宜、提示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

授業中の問答やグループによる演習等に積極的に参加し、履修後はノート等の整理をしましょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　初回授業時に提示します

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**看護技術の原則（安全・安楽・自立と自律）** 看護援助の基本となる看護技術の原則（安全・安楽・自立と自律）について、その必要性と意味を学びます。	ガイダンス内容をもとにして、授業の目的と概略をつかみましょう。	4時間
第2回	**感染予防１** 感染予防のエビデンスを学び、看護における感染予防の必要性と意義について学習します。	感染予防についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4時間
第3回	**生活環境の調整** 病室、病床環境を整える意味と原則を理解し、環境衛生の具体的な技術について学習します。	環境衛生の意味についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4時間
第4回	**手指衛生（演習）** 感染予防に重要かつ看護援助の基本となる手指衛生の具体的方法を学習します。	手指衛生についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4時間
第5回	**ベッドメーキング（演習）** ベッドメーキングについて原則を理解し、演習により具体的な技術について学習します。	ベッドメーキングについてノートを整理し、理解を深めましょう。	4時間
第6回	**シーツ交換（演習）** シーツ交換について原則を理解し、演習により具体的な技術について学習します。	シーツ交換についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4時間
第7回	**活動と休息** 活動と休息が人の生活に与える影響について学習します。	活動と休息についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4時間
第8回	**体位の保持と体位変換（演習）** 体位の保持と体位変換について、原則を理解し、演習により具体的な技術について学習します。	体位の保持と体位変換についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4時間
第9回	**車椅子、ストレッチャーへの移送と移動（演習）** 車椅子、ストレッチャーへの移送と移動について、原則を理解し、演習により具体的な技術について学習します。	車椅子、ストレッチャーへの移送と移動についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4時間
第10回	**寝衣交換（演習）** 寝衣交換について原則を理解し、演習により具体的な技術について学習します。	寝衣交換についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4時間
第11回	**感染予防２** 対象者および医療者個人を守るための感染予防の方法について学習します。	感染予防についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4時間
第12回	**環境整備（演習）** 病室における環境衛生について、演習において具体的な技術を学習します。	環境衛生を整える技術についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4時間
第13回	**無菌操作（演習）** 感染予防の具体的方法としての無菌操作についての具体的方法を学習します。	無菌操作についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4時間
第14回	**隔離ケアおよびガウンテクニック（演習）** 感染予防の具体的方法としてのガウンテクニックについての具体的方法を学習します。	隔離ケア、ガウンテクニックについてノートを整理し、理解を深めましょう。	4時間

731

授業科目名	**基礎看護学方法論Ⅱ**				
担当教員名	吾妻知美・中村美保・兼田美代・岩﨑真子				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	吾妻知美（看護師として病院勤務経験あり）14回、中村美保（看護師として病院勤務経験あり）14回、兼田美代（看護師として病院勤務経験あり）14回、岩﨑真子（看護師として病院勤務経験あり）（14回）				

授業概要

基礎看護学方法論Ⅰで学んだ看護技術の原則を踏まえて、対象者の健康状態を理解するための基本技術である『観察』『バイタルサイン』の技術、および対象者の健康を促進するための日常生活の援助である『清潔』『排泄』に関する援助技術の科学的根拠とその具体的方法について学習する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自立して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる	看護技術の基本となる『観察』『バイタルサイン』『清潔』『排泄』の援助技術について科学的根拠を理解し、具体的方法について学修する。	看護技術の基本となる『観察』『バイタルサイン』『清潔』『排泄』の援助技術の科学的根拠を理解し実践できる。
2. DP2.人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる	看護技術の基本となる『観察』『バイタルサイン』『清潔』『排泄』の援助技術について科学的根拠を理解し、具体的方法について学修する。	看護技術の基本となる『観察』『バイタルサイン』『清潔』『排泄』の援助技術の科学的根拠を理解し実践できる。
汎用的な力		
1. DP3.地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる		対象者への看護支援として、看護技術の基本となる『観察』『バイタルサイン』『清潔』『排泄』の援助技術の科学的根拠を理解し、実践できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
筆記試験	60 %	： テキスト及び講義資料で学んだ範囲の理解について評価します
実技試験	40 %	： 実技を評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年

松尾ミヨ子他編	・ナーシング・グラフィカ　基礎看護技術Ⅱ	・メディカ出版	・2022　年

参考文献等

適宜、紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

授業中の問答やグループによる演習等に積極的に参加し、履修後はノート等の整理をしましょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　初回授業時に提示します。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**看護における観察** 看護援助の基本となる看護における観察について、その必要性と意味を学修します。	看護における観察についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4時間
第2回	**バイタルサイン** 観察についての理解を元に、科学的根拠となるバイタルサインと測定の意義について学修します。	バイタルサインについてノートを整理し、理解を深めましょう。	4時間
第3回	**体温測定、脈拍測定、呼吸測定（演習）** 体温測定、脈拍測定、呼吸測定の原則を理解し、演習により具体的な技術について学習します。	体温測定、脈拍測定、呼吸測定についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4時間
第4回	**血圧測定（演習）** 血圧測定の原則を理解し、演習により具体的な技術について学習します。	血圧測定についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4時間
第5回	**清潔** 清潔についてその科学的根拠と援助の原則を理解し、具体的な援助技術について学習します。	清潔についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4時間
第6回	**清拭（演習）** 清潔についてその科学的根拠と援助の原則を理解し、具体的な援助技術について学習します。	清潔についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4時間
第7回	**足浴・手浴（演習）** 足浴や手浴の原則を理解し、演習により具体的な技術について学習します。	足浴・手浴についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4時間
第8回	**洗髪（演習）** 洗髪の原則を理解し、演習により具体的な技術について学習します。	洗髪についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4時間
第9回	**陰部ケア（演習）** 陰部ケアの原則を理解し、演習により具体的な技術について学習します。	陰部ケアについてノートを整理し、理解を深めましょう。	4時間
第10回	**排泄（演習）** 排泄についての原則を理解し、演習により具体的な技術について学習します。	排泄についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4時間
第11回	**ベッド上での排泄介助（演習）** ベット上での排泄の原則を理解し、演習により具体的な技術について学習します。	排泄介助についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4時間
第12回	**グリセリン浣腸、摘便（演習）** グリセリン浣腸、摘便の原則を理解し、演習により具体的な技術について学習します。	グリセリン浣腸、摘便についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4時間
第13回	**導尿（演習）** 導尿の原則を理解し、演習により具体的な技術について学習します。	導尿についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4時間
第14回	**統合演習** 既習の看護技術を活用した事例に基づいた看護技術の実践を学修します。	学修内容についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4時間

授業科目名	**基礎看護学方法論Ⅲ**				
担当教員名	吾妻知美・中村美保・兼田美代・岩﨑真子				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	吾妻知美（看護師として病院経験あり）14回、中村美保（看護師として病院経験あり）14回、兼田美代（看護師として病院勤務経験あり）14回、岩﨑真子（看護師として病院勤務経験あり）（14回）				

授業概要

基礎看護学方法論Ⅰ、Ⅱで学んだ看護技術の原則と援助の具体的方法を踏まえて、対象者の健康を促進するために必要な日常生活援助の基本技術である『栄養と代謝』に関する援助技術の科学的根拠とその具体的方法について理解し、対象者に対し必要な援助をアセスメント、実践、評価の課程を学修する。さらに診療の補助業務である検査や処置に関する援助技術、治療に関する援助技術の科学的根拠とその方法について学修する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自立して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる	日常生活の援助技術である『栄養と代謝』、について科学的根拠を理解し、具体的方法について学修する。	日常生活援助技術の『栄養と代謝』に関する援助技術の科学的根拠を理解し実践できる。
汎用的な力		
1. DP3.地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる		対象者への看護支援として、看護技術の基本となる『栄養と代謝』、診療の補助に関する援助技術の科学的根拠を理解し、実践できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
筆記試験、実技試験	80 %	： テキスト及び講義資料で学んだ範囲の理解、技術について評価します
授業後の課題レポート	20 %	： 授業毎に授業の理解について確認します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
春香知永他	・ 基礎看護技術　改訂第3版	・ 南江堂	・ 2019　年

参考文献等

適宜、紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

授業中の問答やグループによる演習等に積極的に参加し、履修後はノート等の整理をしましょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業後

場所： 研究室

備考・注意事項： 初回授業時に提示します

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**栄養と代謝、体液バランス、栄養管理と体液バランス管理の実際** 日常生活援助技術である栄養と代謝、体液バランスを維持する意味と根拠、援助の必要性について学習します。 食事介助、口腔ケア、経管栄養法ついて、その主な内容と科学的根拠と援助の原則を理解し、具体的方法について学習します。	既習の関連する専門科目を復習し、看護における栄養と代謝、体液バランスについてノートを整理し、理解を深めましょう。	4時間
第2回	**食事介助・口腔ケア（演習）** 食事介助と口腔ケアの援助について、演習により具体的な援助技術について学習します。	演習内容を振り返りノートを整理し、理解を深めましょう。	4時間
第3回	**経鼻経管栄養法（演習）** 経鼻経管栄養法について、演習により具体的な援助技術について学習します。	演習内容を振り返りノートを整理し、理解を深めましょう。	4時間
第4回	**検査** 対象者が医療施設で受ける検査について、その主な内容と科学的根拠と援助の原則を理解し、具体的な方法について学習します。	既習の関連する専門科目を復習し、検査についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4時間
	対象者が医療施設で受ける検査について、その主な内容と科学的根拠と援助の原則を理解し、具体的な方法について学習します。		
第6回	**採血（演習）** 採血の原則を理解し、演習により具体的な援助技術について学習します。	演習内容を振り返りノートを整理し、理解を深めましょう。	4時間
第7回	**与薬** 与薬についての原則を理解し、具体的な援助技術について学習します。	既習の関連する専門科目を復習し、与薬についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4時間
第8回	**薬害について** 薬理学等で学んだ知識を元に、医療施設等での薬害について学習します。	既習の関連する専門科目を復習し、与薬についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4時間
第9回	**皮下注射、皮内注射、筋肉内注射、静脈内注射** 注射についての原則を理解し、具体的な援助技術について学習します。	既習の関連する専門科目を復習し注射についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4時間
第10回	**皮下注射、皮内注射、筋肉内注射（演習）** 皮下注射、皮内注射、筋肉内注射についての原則を理解し、演習により具体的な援助技術について学習します。	演習内容を振り返りノートを整理し、理解を深めましょう。	4時間
第11回	**点滴静脈内注射、輸液管理（演習）** 点滴静脈内注射、輸液管理についての原則を理解し、演習により具体的な援助技術について学習します。	演習内容を振り返りノートを整理し、理解を深めましょう。	4時間
第12回	**創傷管理技術** 創傷管理に関する援助技術について学習します。	既習の関連する専門科目を復習し、ノートを整理し、創傷管理に関する理解を深めましょう。	4時間
第13回	**呼吸管理技術（演習）** 呼吸管理の援助技術である、酸素療法および口腔内吸引について学習します。	演習内容を振り返りノートを整理し、理解を深めましょう。	4時間
第14回	**統合演習** 既習の看護技術を活用した事例に基づいた看護技術の実践を学習します。	演習内容を振り返りノートを整理し、理解を深めましょう。	4時間

授業科目名	**基礎看護学方法論Ⅳ**				
担当教員名	吾妻知美・中村美保・兼田美代・岩﨑真子				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	吾妻知美（看護師として病院経験あり）14回、中村美保（看護師として病院経験あり）14回、兼田美代（看護師として病院経験あり）14回、岩﨑真子（看護師として病院勤務経験あり）（14回）				

授業概要

基礎看護学方法論Ⅳでは、クリティカル・シンキング、問題解決思考および人間関係論的視点から、看護実践の方法論としての看護過程を学ぶ。本科目では対象者の抱える健康問題を解決し、援助を要するニーズを充足していくプロセスである。そのための、クリティカル・シンキングを発揮した科学的問題解決過程、情報収集、アセスメント、実践、評価までの一連のプロセスを学習する。さらに、対象者の健康状態を観察し、判断するためのヘルスアセスメント技術と態度を学ぶことで、入院時の観察や問診の方法を習得する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自立して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる	看護技術の基本となる看護過程、クリティカル・シンキング、コミュニケーションの援助技術について科学的根拠を理解し、具体的方法について学修する。	看護過程、およびその基礎となるクリティカル・シンキング、フィジカルアセスメントおよびその基礎となるコミュニケーション技術を習得し、模擬患者に実践できる。
汎用的な力		
1. DP3.地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる		対象者の健康状態を観察し、判断するためのヘルスアセスメン技術を習得する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
筆記試験	60 %	： 教科書等で学んだ範囲の理解について評価します。
グループワーク	20 %	： グループワークの貢献度、成果発表により評価します。
レポート提出	20 %	： レポート内容について評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
松尾ミヨ子他編	・ナーシング・グラフィカ　基礎看護技術Ⅰ	・メディカ出版	・2022　年

参考文献等

永田明他監修（2020）看護がみえる４　看護過程、MEDIC　MEDIA　ISBN：978－4－89632－801－１
稲葉佳江他（2011）　看護ヘルスアセスメント、メヂィカルフレンド社　ISBN：4－8392－1232－５
その他、適宜紹介する

履修上の注意・備考・メッセージ

授業、演習等に積極的に参加しましょう。事前学習、復習を必ずして授業に参加してください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　初回授業時に提示します

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**クリティカル・シンキングと科学的問題解決過程** 看護過程の基盤となるクリティカル・シンキングと科学的問題解決過程について学びます	既習の専門科目を復習し、看護過程についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4時間
第２回	**看護過程の基礎** 看護過程の発展のプロセス、定義。具体的内容について学びます。	既習の関連する専門科目を復習し、看護過程についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4時間
第３回	**事例によるGW（講義と演習）** 看護過程の事例の展開について、グループでの演習を行い理解を深めます。	演習内容を振り返りノートを整理し、理解を深めましょう。	4時間
第４回	**事例によるGW（演習と発表）** 看護過程の事例の展開について、グループでの演習と発表を聴くことで理解を深めます。	演習内容を振り返りノートを整理し、理解を深めましょう。	4時間
第５回	**看護における記録と倫理** 看護における記録の種類と内容、法的根拠について学びます。さらに、研究倫理について学びます。	既習の関連する専門科目を復習し、看護記録についてノートを整理し、理解を深めましょう。	4時間
第６回	**ヘルスアセスメントとは** 看護過程におけるヘルスアセスメントの重要性と構成要素、ヘルス・アセスメントの具体的な方法について学びます。	を振り既習の専門科目を復習し、看護におけるヘルスアセスメントについてノートを整理し、理解を深めましょう。	4時間
第７回	**ヘルスアセスメントの実際Ⅰ（演習）** 問診、視診、打診、触診の具体的方法を学ぶ	演習内容を振り返りノートを整理し、理解を深めましょう。	4時間
第８回	**日常生活行動のアセスメント１（演習）** １．栄養ー代謝のアセスメント ２．排泄のアセスメント	演習内容を振り返りノートを整理し、理解を深めましょう。	4時間
第９回	**日常生活行動のアセスメント２（演習）** 活動ー運動のアセスメント	演習内容を振り返りノートを整理し、理解を深めましょう。	4時間
第10回	**日常生活行動のアセスメント３（演習）** 認知ー知覚のアセスメント	演習内容を振り返りノートを整理し、理解を深めましょう。	4時間
第11回	**日常生活行動のアセスメント４（演習）** 事例に対し一連の生活行動別アセスメントを行う。	演習内容を振り返りノートを整理し、理解を深めましょう。	4時間
第12回	**情報収集の実際** コミュニケーション技術を駆使して、看護過程による情報収集を体験する。	これまでの授業を復習し、ノートを整理し看護過程の理解を深めましょう。	4時間
第13回	**統合演習Ⅰ** 事例に対し、小グループでアセスンメント、計画立案を行う。	これまでの授業を復習し、ノートを整理し看護過程の理解を深めましょう。	4時間

第14回	**統合演習Ⅱ** 事例に対し行った看護過程・フィジカルアセスメントについて発表を行う。	演習内容を振り返りノートを整理し、看護過程の理解を深めましょう。	4時間

731

授業科目名	**基礎看護学実習Ⅰ**				
担当教員名	吾妻知美・中村美保・貞永千佳生・二十軒温美・阿部真幸・青山桂子・辻野睦子・岩﨑真子・中島一成・久保里香・松井芽衣子・田中弥生・尾崎玲奈・西澤美香・藤本萌美・兼田美代・坂谷麻友				
学年・コース等	1年	開講期間	通年	単位数	1
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	担当する看護教員は、すべて臨床現場（病院ほか）における実務経験を有している。				

授業概要

看護が提供されている場と看護職の役割について学びます。また、病いや加齢による健康上の問題を持つ対象を「生活者」として理解し、看護実践の体験を通して、看護援助のあり方を学修します。さらに、援助者関係の最も基本である対象者への関心や、相互の人間関係を体験し考察します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2.人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる	病院における患者とのコミュニケーションを通して信頼関係を作り、患者の生活の様子と病院での看護援助や治療・検査を観察する。	生活者としての患者と自分との相互関係を通して、信頼関係を構築するためのコミュニケーションを図ることができる。
汎用的な力		
1. DP3.地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる		病院の受け持ち患者とコミュニケーションを図り信頼関係を深めるとともに、患者を健康上の問題を抱える生活者として理解することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
参加態度、技術の習得度、実習記録、実習後レポート 100 %	： 左記内容を総合的に判断する ※原則として実習は1単位（1週間）実習参加を基本とする

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜、紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

別途配付する実習要項を確認し、実習に臨んでください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　授業開始時に提示します。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**臨地実習** 臨地（病院）において、１単位（１週間）の基礎看護学実習を履修します。実習期間中は毎日の実習目標および行動計画を作成し、主体的に実習に取り組みます。学内および臨地でのオリエンテーション後、受け持ち患者とコミュニケーションを図りながら信頼関係を深めて、患者を健康上の問題を抱える生活者として理解することを目指します。	事前に、実習目標と行動計画を考えます。また、看護支援に必要な技術の予習を行い、実習後は実習記録で知識や技術の不足について振り返りましょう。	10時間
			4時間
			4時間
			4時間
			4時間
			4時間
			4時間

授業科目名	**基礎看護学実習Ⅱ**				
担当教員名	吾妻知美・中村美保・貞永千佳生・二十軒温美・阿部真幸・青山桂子・辻野睦子・岩﨑真子・中島一成・久保里香・松井芽衣子・田中弥生・尾崎玲奈・西澤美香・藤本萌美・兼田美代・坂谷麻友				
学年・コース等	2年	開講期間	通年	単位数	2
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	担当する看護教員は臨床現場（病院他）における十分な実務経験を有している。				

授業概要

病院（臨地）に入院している対象者の生活および健康状態を把握します。また、対象者とのコミュニケーション、情報収集、アセスメント、計画立案と実践、評価よいう看護過程の体験を通して。対象者のニーズを理解し。援助を通して、対象者の健康を最大限に回復・維持・促進するための看護の実際を学びます。また、看護学生としての自己の看護実践を振り返り、看護の意味や看護倫理について考え、自己の看護観を醸成することを目指します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2.人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる	対象者とのコミュニケーションを通して、援助を要するニーズの理解と必要な看護援助を学修する。	対象者の健康状態を理解し、着目した対象者のニーズについて看護計画を立案することができる。
汎用的な力		
1. DP3.地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる		対象者の健康を回復・維持・促進するために必要な援助を実施し評価することができる。
2. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自律して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる		看護学生として自己の実践を振り返り、看護における倫理について考えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
実習態度、実習記録、実習後のレポート 100 %	： 左記内容から総合的に評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

既習の授業科目の教科書および資料。

履修上の注意・備考・メッセージ

実習要項を熟読すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　初回授業時に提示します

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**実習** 指定された病院にて、2単位（2週間）の基礎看護学実習Ⅱを行います。実習期間中は日々の実習目標および行動計画を立案し、主体的に実習を進めましょう。実習期間中、患者を受け持ち、既習の知識を活用し、受け持ち対象者に対する看護過程の展開（情報収集、看護計画の立案、実践、評価）を行います。受け持ちへの看護援助を通して、看護援助や看護技術の意味、看護倫理について考え、自己の看護観を醸成します。	実習要項を熟読し、目標達成にむけて準備をしましょう。既習の知識の確認や看護技術の予習、実践後の知識や技術の不足について復習しましょう。	20時間

授業科目名	**成人看護学概論**				
担当教員名	田中登美				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	看護師として病院/がんセンターなどにおいて病棟・外来・緩和ケアチーム・がん相談支援センターなどで勤務あり。 2023年　がん看護専門看護師の認定を受けて活動を続けている。 （全14回担当）				

授業概要

本科目では、成人看護学の基盤となる主要概念と人間のライフサイクル、成人期にある人の特徴、取り巻く環境と健康・疾病との関係を学ぶ。さらに成人期にある人の成長・発達、適応を促す看護の基盤となる諸理論や援助方法を学ぶ。健康に障害をもつ成人期にある人の看護を実践するために、成人期の変動する大人の姿を生涯発達論や他者との相互性、生活や仕事といった概念から捉え、看護専門職としての自己の課題について考察する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自立して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる	健康に障害をもつ成人期にある人の看護を実践するために、成人期の変動する大人の姿を生涯発達論や他者との相互性、生活や仕事といった概念から捉え、看護専門職としての自己の課題について考察する。	成人期の変動する大人の姿を生涯発達論や他者との相互性、生活や仕事といった概念から捉え、看護専門職としての自己の課題を考察する。
2. DP2.人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる	人間のライフサイクル、成人期にある人の特徴、取り巻く環境と健康・疾病との関係、成人期にある人の成長・発達、適応を促す看護の基盤となる諸理論や援助方法を学ぶ。	人間のライフサイクル、成人期にある人の特徴、取り巻く環境と健康・疾病との関係、成人期にある人の成長・発達、適応を促す看護の基盤となる諸理論や援助方法について理解する。
汎用的な力		
1. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自律して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる		看護専門職としての自己の課題について考察する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
課題学習の提出内容等による総合評価	10　%	：　授業後に提示した課題レポートの内容について評価します。
定期試験	90　%	：　テキストと講義資料の範囲の理解について筆記試験で評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
林直子，鈴木久美，他（編）	・看護学テキストNICE　成人看護学　成人看護学概論　改訂第4版	・南江堂	・2022　年

参考文献等

・小松浩子（2024）系統看護学講座　専門分野　成人看護学〔1〕　成人看護学概論，医学書院

・その他、授業中に適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

積極的に授業中の問答について参加し、テキスト及び資料について理解を深めてください。履修後はノート等の整理をして学びを深めましょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　オフィスアワーを活用してください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**成人看護学の定義および理念と目的　成人の生活と健康①人間のライフサイクル** ・成人という言葉の定義について学ぶ。 ・人間のライフサイクルについて学び、成人看護学の対象の理解を深める。	授業資料を見直して、「成人」を包括的にとらえ、人間のライフスタイルの視点からみた成人についてまとめましょう。	4時間
第2回	**成人の生活と健康② 成人期にある人の特徴** ・成人期にある人の特徴について学ぶ。 （心身の特徴と変化、社会との相互作用からみた成人期の特徴）	授業資料を見直して、成人期にある人の特徴についてまとめましょう。	4時間
第3回	**成人の生活と健康③ 成人期にある人を取り巻く環境と健康・疾病との関係（1）** ・成人の健康をとらえる視点を学ぶ。 ・成人の健康に影響を及ぼす要因について学ぶ。 ・生活習慣と健康の関連について学ぶ。 （生活習慣病の進行と1次予防・2次予防・3次予防との関係） ・職業に起因する健康障害や疾病、その要因について学ぶ。	授業資料を見直して、成人期にある人の健康、健康に影響を及ぼす要因についてまとめましょう。	4時間
第4回	**成人の生活と健康④ 成人期にある人を取り巻く環境と健康・疾病との関係（2）** ・成人にとっての病気の体験の意味を学ぶ。 ・成人保健と今日の健康動向について学ぶ。 ・日本における保健・医療・福祉対策と今日の健康課題について学ぶ。	授業資料を見直して、成人期にある人の健康や病気の意味、健康動向と日本における保健・医療・福祉対策と今日の健康課題についてまとめましょう。	4時間
第5回	**適応を促す看護①ストレス・コーピング理論** ・ストレス・コーピング理論の歴史的背景・概要を学ぶ。 ・ラザルスのストレス・コーピング理論の概要を学ぶ。 ・自分のストレス・コーピングについて振り返って考える。	授業資料を見直して、ストレス・コーピング理論の概要、自分のストレスコーピングについてまとめましょう。	4時間
第6回	**適応を促す看護②フィンクの危機理論と危機介入** ・危機理論の歴史的背景を学ぶ。 ・危機の定義・特徴・種類、喪失、悲嘆について学ぶ。 ・主な危機モデルの概要を学び、危機モデルを用いる利点を考える。 ・フィンクの危機モデルの概要、支援の具体的な内容を学ぶ。	授業資料を見直して、危機および危機理論の概要、支援の具体的な内容についてまとめましょう。	4時間
第7回	**適応を促す看護③アギュララとメズイックの危機回避モデル** ・アギュララとメズイックの危機回避モデルの概要、支援の具体的な内容を学ぶ。	授業資料を見直して、危機回避モデルの概要、支援の具体的な内容についてまとめましょう。	4時間
第8回	**大人インタビューから身近な大人の発達段階を探る** 【事前課題　レポート作成】 ・自分の周囲にいる大人1名にインタビューを行う。 ・その人の語りを文章化する。 ・その人の年齢で考えられる発達課題における課題の達成と危機の克服をノートに整理する。 【授業時間内　グループワーク・発表】 ・自分が事前課題で分析したり考えた内容をグループメンバーに伝えて共有する。 ・自分の考えた分析について、メンバーの考えを聴いたりすることで理解を深める。 【事後課題　レポート修正・提出】 ・グループワークでの学びを含めて修正し、レポートを仕上げて提出する。	授業内容参照	4時間
第9回	**健康生活の慢性的な揺らぎと再調整を促す看護　病みの軌跡理論と看護への活用** ・病みの軌跡理論の歴史的背景を学ぶ。 ・ストラウスとコービンの病みの軌跡理論の概要、支援の具体的な内容を学ぶ。	授業資料を見直して、病みの軌跡理論の概要、支援の具体的な内容についてまとめましょう。	4時間
第10回	**成人の発達を促す看護①セルフケア・セルフエフカシー**	授業資料を見直して、セルフケア理論およびセルフエフカシーの概要、支援の具体的な内容についてまとめましょう。	4時間

	・オレムのセルフケア理論の概要、支援の具体的な内容を学ぶ。 ・バンデューラのセルフエフカシーの概要、支援の具体的な内容を学ぶ。		
第11回	**成人の発達を促す看護②成人の学習者の特徴と学習を促す支援** ・成人が学習するということについて学ぶ。 ・ノールズのアンドラゴジー理論の概要、支援の具体的な内容を学ぶ。 （大人の学習者の特徴、大人の学習者への教育方法）	授業資料を見直して、成人の学習者の特徴と学習を促す支援についてまとめましょう。	4時間
第12回	**成人の発達を促す看護③健康信念モデル・トランスセオリカルモデル** ・健康信念モデルの概要、支援の具体的な内容を学ぶ。 ・トランスセオリカルモデルの概要、支援の具体的な内容を学ぶ。	授業資料を見直して、健康信念モデルおよびトランスセオリカルモデルの概要、支援の具体的な内容についてまとめましょう。	4時間
第13回	**人生の最期のときを迎える人を支える看護** ・死への軌跡について学ぶ。 ・最期を迎える人の身体的変化、心の変化について学ぶ。 ・日本人の死生観の変容について学ぶ。 ・最期のときを迎える人および尊厳ある死を支える看護について学ぶ。	授業資料を見直して、人生の最期のときを迎える人をの理解を深め、尊厳ある死を支える看護についてまとめましょう。	4時間
第14回	**成人患者に対する意思決定支援** ・成人期にある人の意思決定支援を支える意味を学ぶ。 ・Shared decision makingについて学ぶ。 ・Advance Care Planningについて学ぶ。	授業資料を見直して、成人期にある人の意思決定支援についてまとめましょう。	4時間

授業科目名	**成人看護学援助論Ⅰ**				
担当教員名	貞永千佳生・原田江梨子				
学年・コース等	2年	開講期間	通年	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	貞永千佳生（看護師として病院勤務経験あり）、原田江梨子（看護師として病院勤務経験あり）				

授業概要

本科目では、成人看護学概論での学びを基盤として、手術を受ける患者および危機的状況にある患者とその家族の特徴を理解し支援するために、基盤となる概念や諸理論を学ぶ。また、健康状態が急変し、生命の危機状態にある成人期の人々の身体・心理・社会的特徴、家族を含めた健康課題やニーズ、手術侵襲による生体反応と術後合併症、周手術期（術前・術中・術後）に必要な基本的な看護援助と麻酔・手術方法に対応した回復・適応を促す看護援助、周手術期における保健・医療・福祉の連携について学ぶ。また、クリティカルな状況にある患者とその家族の特徴およびその看護について学ぶ。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自立して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる	日常生活行動の変更、ボディイメージの変容、生命の危機をもたらす手術を受ける患者を理解し、麻酔・手術侵襲および体験する苦痛や悲嘆・喪失からの回復と適応を促す援助のための理論や方法を学ぶ。	日常生活行動の変更、ボディイメージの変容、生命の危機をもたらす手術を受ける患者を理解し、麻酔・手術侵襲および体験する苦痛や悲嘆・喪失からの回復と適応を促す援助のための理論や方法について理解することができる。
2. DP2.人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる	急激な健康状態の変化により生命の危機状態にある人、あるいは、手術を受ける人とその家族の健康問題の特性および危機状況を乗り越え、生活を再構築できるよう援助するための理論や方法を学ぶ。	急激な健康状態の変化により生命の危機状態にある人、あるいは、手術を受ける人とその家族の健康問題の特性および危機状況を乗り越え、生活を再構築できるよう援助するための理論や方法について理解できる。
汎用的な力		
1. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自律して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる		急激な健康状態の変化により生命の危機状態にある人、あるいは、手術を受ける人とその家族の苦悩を理解し、悲嘆・喪失からの回復と適応を促す援助について理解することができる。
2. DP3.地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる		急激な健康状態の変化により生命の危機状態にある人、あるいは、手術を受ける人とその家族の苦悩を理解し、患者が利用できる社会資源の利用について理解することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
課題学習の提出内容による総合評価	10 %	： 授業後に課題を出したレポート。急性期看護学における専門的知識を基に、急性期看護の役割について述べられているか判断する
定期試験	90 %	： テキストと講義資料の範囲の理解について評価する。急性期看護における基礎的な考え方、援助の基本について修得できているかを判断する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
林直子・佐藤まゆみ	・ 看護学テキストNiCE成人看護学急性期看護Ⅰ概論・周手術期看護 改訂第４版	・ 南江堂	・ 2023　年
野島真由美・林直子・佐藤まゆみ・鈴木久美	・ 看護学テキストNiCE成人看護技術 改訂第３版	・ 南江堂	・ 2022　年
編集　池上徹・ 高橋則子	・ 系統看護学講座　別巻　臨床外科看護総論　第12版	・ 医学書院	・ 2023　年

参考文献等

編集　北川雄光・江川幸二　系統看護学講座　別巻　臨床外科看護各論　医学書院　2023　ISBN978-4-260-04990-0

その他、授業中に適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

積極的に授業中の問答について参加し、テキスト及び資料について理解を深めてください。履修後はノート等の整理をしましょう。まとめたノートは看護学実習に役立てましょう。毎回シラバスを確認して、関連する人体の構造と機能、疾病の成り立ちと回復の促進の科目について復習しておきましょう。

テキストは方法論でも使用します。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　初回授業時に連絡します

場所：　初回授業時に連絡します

備考・注意事項：　オフィスアワーを活用してください

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**周手術期にある患者・家族** 周手術期にある患者とその家族の特徴、麻酔・手術侵襲に伴う生体反応に基づいたアセスメント、手術を受ける患者とその家族への意思決定支援について理解する。	"シラバスを読み、授業の概略をつかみましょう。 周手術期にある患者とその家族の特徴、麻酔・手術侵襲に伴う生体反応に基づいたアセスメント、手術を受ける患者とその家族への意思決定支援についてノートを整理して理解しましょう。"	4時間
第２回	**手術前の看護** 手術を受ける患者とその家族への術前の看護について理解する。	手術を受ける患者とその家族への術前の看護についてノートを整理して理解しましょう。	4時間
第３回	**手術中の看護** 手術を受ける患者への術中の看護について理解する。	手術を受ける患者への術中の看護についてノートを整理して理解しましょう。	4時間
第４回	**手術後の看護①** 術直後の観察と看護、創傷管理、疼痛管理について理解する。	術直後の観察と看護、創傷管理、疼痛管理についてノートを整理して理解しましょう。	4時間
第５回	**手術後の看護②** 術後合併症予防/治療と看護、感染管理について理解する。また回復を促す援助、退院指導、退院後への継続看護についても理解する。	"術後合併症予防/治療と看護、感染管理、回復を促す援助、退院指導、退院後への継続看護についてノートを整理して理解しましょう。 レポート課題①"	4時間
第６回	**日常生活行動に影響を及ぼす手術を受ける患者の看護①** 胃切除術を受ける患者とその家族への看護について理解する。	胃切除術を受ける患者とその家族への看護についてノートを整理して理解しましょう。	4時間
第７回	**日常生活行動に影響を及ぼす手術を受ける患者の看護②** 腹腔鏡下で胆嚢切除術を受ける患者とその家族への看護について理解する。	腹腔鏡下で胆嚢切除術を受ける患者とその家族への看護についてノートを整理して理解しましょう。	4時間
第８回	**日常生活行動に影響を及ぼす手術を受ける患者の看護③** 人工股関節置換術を受ける患者とその家族への看護について理解する。	人工股関節置換術を受ける患者とその家族への看護についてノートを整理して理解しましょう。	4時間
第９回	**ボディイメージを脅かす手術を受ける患者の看護①** 乳房切除術を受ける患者とその家族への看護について理解する。	乳房切除術を受ける患者とその家族への看護についてノートを整理して理解しましょう。	4時間

第10回	**ボディイメージを脅かす手術を受ける患者の看護②** 喉頭摘出術を受ける患者とその家族への看護について理解する。	喉頭摘出術を受ける患者とその家族への看護についてノートを整理して理解しましょう。	4時間
第11回	**生命の危機をもたらす手術を受ける患者の看護①** 肺切除術を受ける患者とその家族への看護について理解する。	肺切除術を受ける患者とその家族への看護についてノートを整理して理解しましょう。	4時間
第12回	**クリティカルな状況にある患者・家族** クリティカルな状況にある患者とその家族の特徴およびその看護について理解する。	クリティカルな状況にある患者とその家族の特徴とその看護についてノートを整理して理解しましょう。	4時間
第13回	**生命の危機をもたらすクリティカルな状況下の患者の看護①** 急性心筋梗塞患者とその家族への看護について理解する。	急性心筋梗塞患者とその家族への看護についてノートを整理して理解しましょう。	4時間
第14回	**生命の危機をもたらすクリティカルな状況下の患者の看護②** 急性呼吸窮迫症候群(ARDS)患者とその家族への看護について理解する。	急性呼吸窮迫症候群(ARDS)患者とその家族への看護についてノートを整理して理解しましょう。	4時間

授業科目名	**成人看護学援助論Ⅱ**				
担当教員名	田中登美・二十軒温美				
学年・コース等	2年	開講期間	通年	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	田中登美（看護師として病院勤務経験あり）全14回のうち6回担当、二十軒温美（看護師として病院勤務経験あり）全14回のうち8回担当				

授業概要

本科目では、成人看護学概論での学びを基盤として、慢性病とともに生きる患者とその家族の特徴を理解し支援するために、基盤となる概念や諸理論を学ぶ。また、患者が病気をマネジマントしながらその人らしく生活するための支援に必要な基礎知識や利用可能な医療・保健・福祉サービスについて学ぶ。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自立して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる	慢性病の動向、慢性病の治療の特徴、慢性期看護の基盤となる概念や理論、慢性病とともに生きる患者の行動変容を促す理論について学ぶ。	慢性病の動向、慢性病の治療の特徴、慢性期看護の基盤となる概念や理論、慢性病とともに生きる患者の行動変容を促す理論について理解することができる。
2. DP2.人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる	慢性病とともに生きる患者とその家族の特徴、対象者を理解するためのアセスメントの視点、患者が病気をマネジマントしながらその人らしく生活するための支援に必要な基礎知識や利用可能な医療・保健・福祉サービスについて学ぶ。	慢性病とともに生きる患者とその家族の特徴、対象者を理解するためのアセスメントの視点、患者が病気をマネジマントしながらその人らしく生活するための支援に必要な基礎知識や利用可能な医療・保健・福祉サービスについて理解することができる。
汎用的な力		
1. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自律して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる		慢性病とともに生きる患者の苦悩を理解し、その人らしく生活するための意思決定支援について理解することができる。
2. DP3.地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる		慢性病とともに生きる患者の苦悩を理解し、患者が利用できる社会資源の利用について理解することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
課題学習の提出内容等による総合評価	10 %	： 授業後に課題を出したミニレポーなどにより、基礎的な知識の修得、看護実践についての考え方や自己課題の明確化ができているか判断する。
定期試験	90 %	： テキストと講義資料の範囲の理解について評価する。知識の修得ができているか判断する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年

編集　鈴木久美・籏持知恵子・佐藤直美	・看護学テキストNiCE　成人看護学　慢性期看護改訂第4版　病気とともに生活する人を支える	・南江堂	・2023　年

参考文献等

編集　三上れつ・小松万喜子　看護学テキストNiCE　ヘルスアセスメント　臨床実践能力を高める　改定第2版　南江堂　2021 ISBN978-4-524-25748-5。
編集　江川隆子　ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断　第6版　ヌーヴェルヒロカワ　2019　ISBN978-4-86174-073-2。

その他、授業中に適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

積極的に授業中の問答について参加し、テキスト及び資料について理解を深めてください。履修後はノート等の整理をしましょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　初回授業時に連絡します。

場所：　看護学部研究室7階

備考・注意事項：　オフィスアワーを活用してください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**慢性病とその治療の特徴 慢性期看護の基盤となる概念・理論** 慢性病の動向、慢性病の治療の特徴について理解する。また、慢性期看護の基盤となる概念や理論、慢性病とともに生きる患者の行動変容を促す理論（病みの軌跡、セルフケア、セルフマネジメント、自己効力感、トランスセオレティカルモデル、アドヒアランスなど）について理解する。	シラバスを読み、授業の概略をつかみましょう。慢性病の動向、慢性病の治療の特徴、慢性期看護の基盤となる概念や理論、慢性病とともに生きる患者の行動変容を促す理論についてノートを整理して理解しましょう。	4時間
第2回	**慢性病とともに生きる患者の特徴とアセスメントの視点** 慢性病とともに生きる患者とその家族の特徴、および対象者を理解するためのアセスメントの視点について理解する。	慢性病とともに生きる患者とその家族の特徴、アセスメントの視点についてノートを整理して理解しましょう。	4時間
第3回	**慢性病とともに生きる患者への支援** 慢性病とともに生きる患者の意思決定支援、セルフマネジマント支援、セルフケア能力を再獲得を促す支援、心理的支援、社会資源の活用について理解する。	意思決定支援、セルフマネジマント支援、セルフケア能力を再獲得を促す支援、心理的支援、社会資源の活用についてノートを整理して理解しましょう。　レポート課題①	4時間
第4回	**糖尿病とともに生きる患者とその家族への支援①** 糖尿病の病態・治療の概要、糖尿病患者の特徴について理解する。	糖尿病の病態・治療の概要、糖尿病患者の特徴についてノートを整理して理解しましょう。	4時間
第5回	**糖尿病とともに生きる患者とその家族への支援②** 糖尿病患者を理解するためのアセスメントの視点、看護の実際、利用可能な社会資源について理解する。	糖尿病患者を理解するためのアセスメントの視点、看護の実際、利用可能な社会資源についてノートを整理して理解しましょう。	4時間
第6回	**慢性心不全（CHF）とともに生きる患者とその家族への支援** CHFの病態・治療の概要、CRF患者の特徴、CRF患者を理解するためのアセスメントの視点、看護の実際、利用可能な社会資源について理解する。	CRFの病態・治療の概要、CRF患者の特徴、CRF患者を理解するためのアセスメントの視点、看護の実際、利用可能な社会資源についてノートを整理して理解しましょう。	4時間
第7回	**慢性腎臓病（CKD）とともに生きる患者とその家族への支援** CKDの病態・治療の概要、CKD患者の特徴、CKD患者を理解するためのアセスメントの視点、看護の実際、利用可能な社会資源について理解する。	CKDの病態・治療の概要、CKD患者の特徴、CKD患者を理解するためのアセスメントの視点、看護の実際、利用可能な社会資源についてノートを整理して理解しましょう。	4時間
第8回	**肝炎・肝不全とともに生きる患者とその家族への支援** 肝炎・肝硬変の病態・治療の概要、肝炎・肝硬変患者の特徴、肝炎・肝硬変患者を理解するためのアセスメントの視点、看護の実際、利用可能な社会資源について理解する。	肝炎・肝硬変の病態・治療の概要、肝炎・肝硬変患者の特徴、肝炎・肝硬変患者を理解するためのアセスメントの視点、看護の実際、利用可能な社会資源についてノートを整理して理解しましょう。	4時間
第9回	**炎症性腸疾患（IBD）とともに生きる患者とその家族への支援** IBD（クローン病・潰瘍性大腸炎）の病態・治療の概要、IBD患者の特徴、IBD患者を理解するためのアセスメントの視点、看護の実際、利用可能な社会資源について理解する。	IBD（クローン病・潰瘍性大腸炎）の病態・治療の概要、IBD患者の特徴、IBD患者を理解するためのアセスメントの視点、看護の実際、利用可能な社会資源についてノートを整理して理解しましょう。	4時間

第10回	**膠原病とともに生きる患者とその家族への支援** 膠原病の病態・治療の概要、膠原病患者の特徴、膠原病患者を理解するためのアセスメントの視点、看護の実際、利用可能な社会資源について理解する。	膠原病の病態・治療の概要、膠原病患者の特徴、膠原病患者を理解するためのアセスメントの視点、看護の実際、利用可能な社会資源についてノートを整理して理解しましょう。	4時間
第11回	**脳梗塞とともに生きる患者とその家族への支援** 脳梗塞の病態・治療の概要、脳梗塞患者の特徴、脳梗塞患者を理解するためのアセスメントの視点、看護の実際、利用可能な社会資源について理解する。	脳梗塞の病態・治療の概要、脳梗塞患者の特徴、脳梗塞患者を理解するためのアセスメントの視点、看護の実際、利用可能な社会資源についてノートを整理して理解しましょう。	4時間
第12回	**筋萎縮性側索硬化症（ALS）とともに生きる患者とその家族への支援** ALSの病態・治療の概要、ALS患者の特徴、ALS患者を理解するためのアセスメントの視点、看護の実際、利用可能な社会資源について理解する。	ALSの病態・治療の概要、ALS患者の特徴、ALS患者を理解するためのアセスメントの視点、看護の実際、利用可能な社会資源についてノートを整理して理解しましょう。	4時間
第13回	**慢性呼吸不全とともに生きる患者とその家族への支援①** 慢性呼吸不全の病態・治療の概要、慢性呼吸不全患者の特徴について理解する。	慢性呼吸不全の病態・治療の概要、慢性呼吸不全患者の特徴についてノートを整理して理解しましょう。	4時間
第14回	**慢性呼吸不全とともに生きる患者とその家族への支援②** 慢性呼吸不全患者を理解するためのアセスメントの視点、看護の実際、利用可能な社会資源について理解する。	慢性呼吸不全患者を理解するためのアセスメントの視点、看護の実際、利用可能な社会資源についてノートを整理して理解しましょう。	4時間

733

授業科目名	**成人看護学方法論Ⅰ**				
担当教員名	貞永千佳生・原田江梨子				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	貞永千佳生・原田江梨子共に看護師実務経験者である				

授業概要

本科目では、成人看護学援助論Ⅰで学んだことを基礎に、演習を通して様々な臨床の状況に応じた知識や看護技術を、看護師役割と患者役割を体験しながら学び、応用できる能力の習得を目指す。本演習では、事前学習課題を提示し、その理解を前提として演習を進める。また事後学習課題も提示し、演習で学んだ知識・技術について定着できるようにする。講義担当教員全員が看護職者の臨床経験を持ち、各演習で学生が具体的なイメージをえがけるよう教育を行う。また、事例検討を通して、手術看護の実践に必要な課題発見力、論理的思考力、問題解決能力を養う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2.人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる	演習を通して様々な臨床の状況に応じた知識や看護技術を、看護師役割と患者役割を体験しながら学び、応用できる能力を習得する。	演習を通して様々な臨床の状況に応じた知識や看護技術を、看護師役割と患者役割を体験しながら学び、応用できる能力を習得することができる。
2. DP2.人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる	模擬患者の事例検討を通して、急性疾患看護の実践に必要な課題発見力、論理的思考力、問題解決能力を養う。	模擬患者の事例検討を通して、急性疾患看護の実践に必要な課題発見力、論理的思考力、問題解決能力を身に養うことができる。
汎用的な力		
1. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自律して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる		模擬患者の事例検討、演習での患者役割を体験することで、看護の対象者の苦痛や思いを理解して看護実践に活かすことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
定期試験 40 %	： テキスト、講義資料、事前課題より試験する

看護過程記録　：　手術事例患者の看護記録で評価する

30　%

技術演習課題　：　事前課題及び事後課題を評価する

30　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

編集　野崎真奈美（2022）成人看護学 成人看護技術 生きた臨床技術を学び看護実践能力を高める，改訂第3版　南江堂
その他、授業中に適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本演習では、事前学習課題を提示し、その理解を前提として演習を進めます。また事後学習課題も期間内に提出することで出席とみなします。
演習開始時刻を厳守し、遅刻をしない。
演習時の服装については事前に指示しますので厳守してください。
成人看護学実習Ⅰでは、演習で学んだ知識・技術が活かせるように復習しましょう。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**事例展開①** 胃切除術を受けた患者の病態・治療を踏まえたアセスメント①	胃切除術を受けた患者の模擬事例について、記録様式に沿って、病態・治療を踏まえたアセスメントを行い、グループワークに参加する。アセスメントについて、グループメンバーで共有して、個人の記録用紙を完成させていく。ワークの中での学びや気が付いたことについては自分の記録に追加・修正していく。	4時間
第２回	**事例展開②** 胃切除術を受けた患者の全体像の把握（関連図の描写）と健康問題の抽出と看護計画	第1回授業で追加修正した胃切除術を受けた患者の模擬事例のアセスメントから、記録様式に沿って関連図を描写して、グループワークに参加する。ワークの中での学びや気が付いたことについては自分の記録に追加・修正していく。グループ内で健康問題を抽出していく。	4時間
第３回	**事例展開③** 胃切除術を受けた患者の看護援助の展開：看護目標、看護計画立案	第2回授業で検討した健康問題について、看護目標および援助を記録様式に沿って記載して、グループワークに参加する。ワークの中での学びや気が付いたことについては自分の記録に追加・修正していく。	4時間
第４回	**技術演習① 術後回復促進のための援助と急変時の気道確保** 手術を受ける患者に対して、術後呼吸器合併症・肺血栓塞栓症・深部静脈血栓症の予防について説明する。また、術後1日目の患者の安全な離床援助を行うことができる。	事前学習課題を行った上で演習に参加する。演習後、看護師役割と患者役割を体験した中での学びをまとめて提出する。	4時間
第５回	**技術演習② 術後患者の観察** 手術を受けた患者に対して、術直後の観察およびドレーンの管理ができる。また、患者に対して、挿入・装着されているドレーン・カテーテル類、医療器具の目的が説明できる。	事前学習課題を行った上で演習に参加する。演習後、看護師役割と患者役割を体験した中での学びをまとめて提出する。	4時間
第６回	**技術演習③ 術後患者の寝衣交換** 術後にライン類が挿入・装着されている患者に対して、安全・安楽を考慮して術後1日目の寝衣交換と弾性ストッキングの着用ができる。	事前学習課題を行った上で演習に参加する。演習後、看護師役割と患者役割を体験した中での学びをまとめて提出する。	4時間
第７回	**技術演習④ 救急蘇生** 事例に基づいて展開した生命の危機状態にある患者への救急看護について、安全・安楽に実施できるよう実施上の注意点を理解し、AEDの使用、心臓マッサージ、気道確保、バック・バルブ・マスクによる人工呼吸などの救急蘇生が実践できる。	事前学習課題を行った上で演習に参加する。演習後、看護師役割と患者役割を体験した中での学びをまとめて提出する。	4時間

733

授業科目名	**成人看護学方法論Ⅱ**				
担当教員名	田中登美・二十軒温美				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	田中登美（看護師として病院勤務経験あり）、二十軒温美（看護師として病院勤務経験あり）				

授業概要

本科目では、成人看護学援助論Ⅱで学んだことを基礎に、演習を通して様々な臨床の状況に応じた知識や看護技術を、看護師役割と患者役割を体験しながら学び、応用できる能力の習得を目指す。本演習では、事前学習課題を提示し、その理解を前提として演習を進める。また事後学習課題も提示し、演習で学んだ知識・技術について定着できるようにする。講義担当教員全員が看護職者の臨床経験を持ち、各演習で学生が具体的なイメージをえがけるよう教育を行う。また、事例検討を通して、慢性疾患看護の実践に必要な課題発見力、論理的思考力、問題解決能力を養う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2.人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる	演習を通して様々な臨床の状況に応じた知識や看護技術を、看護師役割と患者役割を体験しながら学び、応用できる能力の習得する。	演習を通して様々な臨床の状況に応じた知識や看護技術を、看護師役割と患者役割を体験しながら学び、応用できる能力を習得することができる。
2. DP2.人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる	模擬患者の事例検討を通して、慢性疾患看護の実践に必要な課題発見力、論理的思考力、問題解決能力を養う。	模擬患者の事例検討を通して、慢性疾患看護の実践に必要な課題発見力、論理的思考力、問題解決能力を身に養うことができる。
汎用的な力		
1. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自律して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる		模擬患者の事例検討、演習での患者役割を体験することで、看護の対象者の苦痛や思いを理解して看護実践に活かすことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
課題学習の提出内容等による総合評価	30 %	：	各演習内容に沿った課題レポートをルーブリック評価します
定期試験	40 %	：	テキストと講義資料の範囲の理解について評価します
技術に関する評価	30 %	：	技術演習に参加し、事前・事後課題について評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業中に適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本演習では、事前学習課題を提示し、その理解を前提として演習を進めます。また事後学習課題も期間内に提出することで出席とみなします。
演習開始時刻を厳守し、遅刻をしない。
演習時の服装については事前に指示しますので厳守してください。
成人看護学実習Ⅱでは、演習で学んだ知識・技術が活かせるように復習しましょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　オフィスアワーを活用してください。
オフィスアワーの時間・場所については、第1回目の授業で提示します。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**事例展開①** 糖尿病患者の病態・治療を踏まえたアセスメント①：チュートリアル	糖尿病患者の模擬事例について、記録様式に沿って、病態・治療を踏まえたアセスメントを行い、グループワークに参加する。アセスメントについて、グループメンバーで共有して、個人の記録用紙を完成させていく。ワークの中での学びや気が付いたことについては自分の記録に追加・修正していく。	4時間
第2回	**事例展開②** 糖尿病患者の全体像の把握（関連図の描写）と健康問題の抽出：チュートリアル	第1回授業で追加修正した糖尿病患者の模擬事例のアセスメントから、記録様式に沿って関連図を描写して、グループワークに参加する。ワークの中での学びや気が付いたことについては自分の記録に追加・修正していく。グループ内で健康問題を抽出していく。	4時間
第3回	**事例展開③** 糖尿病患者の看護援助の展開①看護目標と援助：チュートリアル	第2回授業で検討した健康問題について、記録様式に沿って、看護目標・援助について記載して、グループワークに参加する。ワークの中での学びや気が付いたことについては自分の記録に追加・修正していく。	4時間
第4回	**技術演習① 患者教育** 糖尿病患者の看護援助の展開： 自分で作成した教育計画に基づき、患者教育のプロセスを展開する。演習では、看護師役割と患者役割を体験しながら学び、応用できる能力の習得を目指す。	第3回授業で看護援助の教育的アプローチについて、記録様式に沿って、教育計画の立案および評価、学習教材を作成して授業に参加する。演習後、看護師役割と患者役割を体験した中での学びをまとめて提出する。	4時間
第5回	**技術演習② 血糖測定・インスリン注射** 事例に基づいて展開した学習指導案を用いて、血糖測定の目的および実施上の注意点を理解し、安全に血糖測定を実施できる。	事前学習課題を行った上で演習に参加する。演習後、看護師役割と患者役割を体験した中での学びをまとめて提出する。	4時間
第6回	**技術演習③肝硬変患者の寝衣交換-1** 事例に基づいて展開した肝硬変患者について、安全・安楽に実施できるよう実施上の注意点を理解し、寝衣交換の方法を説明できる。	事前学習課題を行った上で演習に参加する。演習後、看護師役割と患者役割を体験した中での学びをまとめて提出する。	4時間
第7回	**技術演習④肝硬変患者への寝衣交換-2** 事例に基づいて展開した輸液を受けている肝硬変患者の看護について、安全・安楽に実施できるよう実施上の注意点を理解し、肝硬変患者の寝衣交換ができる。	事前学習課題を行った上で演習に参加する。演習後、看護師役割と患者役割を体験した中での学びをまとめて提出する。	4時間

733

授業科目名	**成人看護学実習Ⅰ**				
担当教員名	田中登美・貞永千佳生・原田江梨子・二十軒温美				
学年・コース等	3年	開講期間	通年	単位数	3
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	担当者全員が看護師実務経験者である。				

授業概要

本科目では、手術を受ける患者・家族が危機状況を乗り越え、治療や症状によってもたらされる心身への侵襲から速やかに回復し、セルフケア能力を発揮できるように援助するための知識・技術、態度を学ぶ。具体的には、患者を受け持ち、看護過程を展開する中で、周術期にある患者およびその家族の発達段階の特徴を踏まえ、身体的・心理的・社会的に統合して理解し、各期に応じた看護を実践していく。患者を受け持ちその方の看護過程を展開しながら学習を深める。十分な事前学習が必要で看護技術の実施を行う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2.人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる	手術を受ける患者を受け持ち、看護過程を展開する中で、周術期にある患者およびその家族の発達段階の特徴を踏まえ、身体的・心理的・社会的に統合して理解し、各期に応じた看護を実践していく。	手術を受ける患者を受け持ち、看護過程を展開する中で、周術期にある患者およびその家族の発達段階の特徴を踏まえ、身体的・心理的・社会的に統合して理解し、各期に応じた看護について理解し、指導のもとで実践できる。
汎用的な力		
1. DP3.地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる		手術を受ける患者に対する地域ケアシステムの必要性、多職種と連携・協働した活動における看護師の役割を理解することができる。
2. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自律して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる		患者および家族に対する看護の質の保証、守秘義務などの情報管理、患者の意思決定支援などについてを理解し、指導のもとで実践できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
参加態度および技術の習得度および実習記録、実習後のレポート等	： 左記内容を総合的に判断する

100 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

成人看護学援助論Ⅰ　野テキスト、成人看護学方法論Ⅰのテキストおよび授業資料を活用
また、実習中に資料の助言をします。

履修上の注意・備考・メッセージ

急性期・周術期にある患者の身体的・心理的・社会的特徴を理解しておくこと。十分な事前学習をして実習に臨んでください。事前学習の内容は別途提示します。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　実習担当教員に適宜相談してください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**成人看護学実習Ⅰ** 大阪府下および近隣府県の病院で、3単位（3週間）の実習を履修する。原則1名以上の患者を受け持ち、対象者を全人的に理解し、看護上の問題を抽出して具体的な支援方法について実践を通して学び、急性期看護について考える。	記録様式に沿って、受け持ち患者の病態・治療を踏まえたアセスメントを行い、関連図の描写、看護上の問題の抽出、看護計画の立案、実施、評価を行う。実習期間中を通して、実践からの学びや気が付いたことについては自分の記録に追加・修正していく。観察のための看護技術、支援に必要な看護技術に関しては、目的・手順・留意事項についてあらかじめ予習して記録して実習に望む。また、実習後は実施の評価を行い、知識や技術の不足点について復習する。	4時間
	大阪府下および近隣府県の病院で、3単位（3週間）の実習を履修する。原則1名以上の患者を受け持ち、対象者を全人的に理解し、看護上の問題を抽出して具体的な支援方法について実践を通して学び、急性期看護について考える。		
	大阪府下および近隣府県の病院で、3単位（3週間）の実習を履修する。原則1名以上の患者を受け持ち、対象者を全人的に理解し、看護上の問題を抽出して具体的な支援方法について実践を通して学び、急性期看護について考える。		
	大阪府下および近隣府県の病院で、3単位（3週間）の実習を履修する。原則1名以上の患者を受け持ち、対象者を全人的に理解し、看護上の問題を抽出して具体的な支援方法について実践を通して学び、急性期看護について考える。		
	大阪府下および近隣府県の病院で、3単位（3週間）の実習を履修する。原則1名以上の患者を受け持ち、対象者を全人的に理解し、看護上の問題を抽出して具体的な支援方法について実践を通して学び、急性期看護について考える。		
	大阪府下および近隣府県の病院で、3単位（3週間）の実習を履修する。原則1名以上の患者を受け持ち、対象者を全人的に理解し、看護上の問題を抽出して具体的な支援方法について実践を通して学び、急性期看護について考える。		
	大阪府下および近隣府県の病院で、3単位（3週間）の実習を履修する。原則1名以上の患者を受け持ち、対象者を全人的に理解し、看護上の問題を抽出して具体的な支援方法について実践を通して学び、急性期看護について考える。		
	大阪府下および近隣府県の病院で、3単位（3週間）の実習を履修する。原則1名以上の患者を受け持ち、対象者を全人的に理解し、看護上の問題を抽出して具体的な支援方法について実践を通して学び、急性期看護について考える。		
	大阪府下および近隣府県の病院で、3単位（3週間）の実習を履修する。原則1名以上の患者を受け持ち、対象者を全人的に理解し、看護上の問題を抽出して具体的な支援方法について実践を通して学び、急性期看護について考える。		
	大阪府下および近隣府県の病院で、3単位（3週間）の実習を履修する。原則1名以上の患者を受け持ち、対象者を全人的に理解し、看護上の問題を抽出して具体的な支援方法について実践を通して学び、急性期看護について考える。		
	大阪府下および近隣府県の病院で、3単位（3週間）の実習を履修する。原則1名以上の患者を受け持ち、対象者を全人的に理解し、看護上の問題を抽出して具体的な支援方法について実践を通して学び、急性期看護について考える。		
	大阪府下および近隣府県の病院で、3単位（3週間）の実習を履修する。原則1名以上の患者を受け持ち、対象者を全人的に理解し、看護上の問題を抽出して具体的な支援方法について実践を通して学び、急性期看護について考える。		
	大阪府下および近隣府県の病院で、3単位（3週間）の実習を履修する。原則1名以上の患者を受け持ち、対象者を全人的に理解し、看護上の問題を抽出して具体的な支援方法について実践を通して学び、急性期看護について考える。		
	大阪府下および近隣府県の病院で、3単位（3週間）の実習を履修する。原則1名以上の患者を受け持ち、対象者を全人的に理解し、看護上の問題を抽出して具体的な支援方法について実践を通して学び、急性期看護について考える。		
	大阪府下および近隣府県の病院で、3単位（3週間）の実習を履修する。原則1名以上の患者を受け持ち、対象者を全人的に理解し、看護上の問題を抽出して具体的な支援方法について実践を通して学び、急性期看護について考える。		

733

授業科目名	**成人看護学実習Ⅱ**				
担当教員名	田中登美・貞永千佳生・原田江梨子・二十軒温美				
学年・コース等	3年	開講期間	通年	単位数	3
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	担当する看護教員は、看護師として臨床現場（病院ほか）における十分な実務経験を有している。				

授業概要

本科目では、急性増悪して入院している慢性病患者、診断・治療を受けるために入院しているがん患者が治療や症状によってもたらされる身体的・心理的・社会的苦痛から速やかに回復し、セルフケア能力を発揮してその人らしく生きることができるように援助するための知識・技術、態度を学ぶ。具体的には、患者を受け持ち、看護過程を展開する中で、慢性病・がんとともに生きる患者およびその家族の発達段階の特徴を踏まえ、身体的・心理的・社会的に統合して理解し、その人らしく生きることができるように、健康レベルに合わせて支援していく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2.人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる	急性増悪して入院している慢性病患者もしくは診断・治療を受けるために入院しているがん患者を受け持ち、看護過程を展開する中で、患者およびその家族の発達段階の特徴を踏まえ、身体的・心理的・社会的に統合して理解し、その人らしく生きることができるように、健康レベルに合わせて支援していく。	急性増悪して入院している慢性病患者もしくは診断・治療を受けるために入院しているがん患者を受け持ち、看護過程を展開する中で、患者およびその家族の発達段階の特徴を踏まえ、身体的・心理的・社会的に統合して理解し、その人らしく生きることができるように、健康レベルに合わせた支援について理解し、指導のもとで実践できる。
汎用的な力		
1. DP3.地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる		急性増悪して入院している慢性病患者もしくは診断・治療を受けるために入院しているがん患者に対する地域ケアシステムの必要性、多職種と連携・協働した活動における看護師の役割を理解することができる。
2. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自律して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる		患者および家族に対する看護の質の保証、守秘義務などの情報管理、患者の意思決定支援などについて理解し、指導のもとで実践できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・その他(以下に概要を記述)

カンファレンスなどでの討議内容、技術習得状況、実習記録、レポートなど、レポート提出後にその評価も加える。

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
参加態度および技術の習得度および実習記録、実習後のレポート等 100 %	： 左記内容を総合的に判断する。※原則として実習は3単位（3週間）実習参加を基本とする。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

これまで学修した成人看護学概論、成人看護学援助論Ⅱ、成人看護学方法論Ⅱ、がん看護学の配布資料やテキスト等。　参考文献等は、実習中に適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

別途配付する実習要項を確認し、実習に臨んでください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　オフィスアワーを活用してください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**成人看護学実習Ⅱ** 大阪府下および近隣府県の病院で、3単位（3週間）の実習を履修する。原則1名以上の患者を受け持ち、対象者を全人的に理解し、看護上の問題を抽出して具体的な支援方法について実践を通して学び、慢性期看護について考える。	記録様式に沿って、受け持ち患者の病態・治療を踏まえたアセスメントを行い、関連図の描写、看護上の問題の抽出、看護計画の立案、実施、評価を行う。実習期間中を通して、実践からの学びや気が付いたことについては自分の記録に追加・修正していく。観察のための看護技術、支援に必要な看護技術に関しては、目的・手順・留意事項についてあらかじめ予習して記録して実習に望む。また、実習後は実施の評価を行い、知識や技術の不足点について復習する。	4時間
	大阪府下および近隣府県の病院で、3単位（3週間）の実習を履修する。原則1名以上の患者を受け持ち、対象者を全人的に理解し、看護上の問題を抽出して具体的な支援方法について実践を通して学び、慢性期看護について考える。		
	大阪府下および近隣府県の病院で、3単位（3週間）の実習を履修する。原則1名以上の患者を受け持ち、対象者を全人的に理解し、看護上の問題を抽出して具体的な支援方法について実践を通して学び、慢性期看護について考える。		
	大阪府下および近隣府県の病院で、3単位（3週間）の実習を履修する。原則1名以上の患者を受け持ち、対象者を全人的に理解し、看護上の問題を抽出して具体的な支援方法について実践を通して学び、慢性期看護について考える。		
	大阪府下および近隣府県の病院で、3単位（3週間）の実習を履修する。原則1名以上の患者を受け持ち、対象者を全人的に理解し、看護上の問題を抽出して具体的な支援方法について実践を通して学び、慢性期看護について考える。		
	大阪府下および近隣府県の病院で、3単位（3週間）の実習を履修する。原則1名以上の患者を受け持ち、対象者を全人的に理解し、看護上の問題を抽出して具体的な支援方法について実践を通して学び、慢性期看護について考える。		
	大阪府下および近隣府県の病院で、3単位（3週間）の実習を履修する。原則1名以上の患者を受け持ち、対象者を全人的に理解し、看護上の問題を抽出して具体的な支援方法について実践を通して学び、慢性期看護について考える。		
	大阪府下および近隣府県の病院で、3単位（3週間）の実習を履修する。原則1名以上の患者を受け持ち、対象者を全人的に理解し、看護上の問題を抽出して具体的な支援方法について実践を通して学び、慢性期看護について考える。		
	大阪府下および近隣府県の病院で、3単位（3週間）の実習を履修する。原則1名以上の患者を受け持ち、対象者を全人的に理解し、看護上の問題を抽出して具体的な支援方法について実践を通して学び、慢性期看護について考える。		
	大阪府下および近隣府県の病院で、3単位（3週間）の実習を履修する。原則1名以上の患者を受け持ち、対象者を全人的に理解し、看護上の問題を抽出して具体的な支援方法について実践を通して学び、慢性期看護について考える。		
	大阪府下および近隣府県の病院で、3単位（3週間）の実習を履修する。原則1名以上の患者を受け持ち、対象者を全人的に理解し、看護上の問題を抽出して具体的な支援方法について実践を通して学び、慢性期看護について考える。		
	大阪府下および近隣府県の病院で、3単位（3週間）の実習を履修する。原則1名以上の患者を受け持ち、対象者を全人的に理解し、看護上の問題を抽出して具体的な支援方法について実践を通して学び、慢性期看護について考える。		
	大阪府下および近隣府県の病院で、3単位（3週間）の実習を履修する。原則1名以上の患者を受け持ち、対象者を全人的に理解し、看護上の問題を抽出して具体的な支援方法について実践を通して学び、慢性期看護について考える。		
	大阪府下および近隣府県の病院で、3単位（3週間）の実習を履修する。原則1名以上の患者を受け持ち、対象者を全人的に理解し、看護上の問題を抽出して具体的な支援方法について実践を通して学び、慢性期看護について考える。		
	大阪府下および近隣府県の病院で、3単位（3週間）の実習を履修する。原則1名以上の患者を受け持ち、対象者を全人的に理解し、看護上の問題を抽出して具体的な支援方法について実践を通して学び、慢性期看護について考える。		

授業科目名	老年看護学概論				
担当教員名	山本純子				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	看護師として病院勤務経験あり				

授業概要

老年看護学の理念や目標を学び、老年看護を実践するうえで必要となる基本的な知識を修得する。また、老年期の特徴、加齢に伴う身体、精神、心理社会的な変化と生活への影響を理解し、高齢者が長年の人生、生活で培った価値観を尊重した個別性のある看護援助の重要性を学修し、自己の倫理観を高める。さらに高齢者を取り巻く社会的な状況や健康を支える保健医療福祉制度、多職種連携、地域包括ケアシステムなどを学修し、老年看護のあり方を考察する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自立して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる	老年看護学の理念と目標を社会的背景や加齢との関連からとらえ、高齢者の健康について考える。	高齢者の生活機能レベルの変化を理解し、高齢者の健康の維持・増進やQOL（Quality of Life）を高める看護活動について考えることができる。
2. DP2.人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる	老年期にある人を身体的、精神的、心理社会的側面から総合的に理解し、老年看護の役割を考える。	高齢者の身体的、精神的、心理社会的な特徴を説明することができる。
汎用的な力		
1. DP3.地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる		高齢者の自立性とQOL（Quality of Life）の維持・向上に向けた関係機関・関係職種との連携・協働の方法を考えることができる。
2. DP3.地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる		地域で生活する高齢者の介護予防、疾病予防、健康生活の支援に向けた地域包括ケアシステムの在り方と看護師の役割を考えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
課題学習の提出内容等による総合評価	20 %	： 授業後に課題を出したレポートの内容について評価します。
定期試験	80 %	： テキストと講義資料の範囲の理解について評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
北川公子他	・ 系統看護学講座専門分野Ⅱ老年看護学改訂版	・ 医学書院	・ 2025 年

参考文献等

小池妙子他　看護学入門11老年看護　メヂカルフレンド社　2020年(ISBN9784839222680)
]堀内ふき他編　老年看護学〈１）高齢者の健康と障害第６版　メディカ出版　2020年(ISBN9784840478403)

履修上の注意・備考・メッセージ

老年期にある人を取り巻く社会の状況や保健医療福祉、介護等に関する出来事に広く興味を持ち、授業に臨んで下さい。毎回、授業での学びや気づきはノート等に整理し、疑問点があれば必ず解決するように心がけましょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 金曜３限

場所： 研究室S 753

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、講義資料アンケート、老いとは？ライフステージにおける老年期** 老年看護学の発展や看護学カリキュラムにおける老年看護教育の変遷、現在の求められる高齢者像、ライフステージにおける老年期と発達課題の理論について学修し、老いの意味を考える。	14回の講義で学修する内容を理解しましょう。	4時間
第2回	**老年看護の基本と役割、老年看護を考えるための理論** 社会における老年看護の役割、老年看護の実践の場、老年看護で身につけてほしい知識、能力や態度を学修する。また、高齢者の心の理解や環境への適応、社会での存在を理解する概念や理論、エイジズム、高齢者のための国連原則等を学修する。高齢者と関わることの大切さを理解するために「ケアリング」についても学修する。	実際に高齢者と話す機会をもち、理解することの切さを学修しましょう。	4時間
第3回	**高齢者の加齢による変化：身体の特徴** 高齢者が加齢によって変化する身体の全体的な変化や脳神経系、脳血血管系、感覚器，消化器、腎臓・泌尿器、循環器、代謝、免疫系等の各器官の特徴について学修する。	1年次の人体の構造と機能の講義を復習し、高齢者の身体的特徴を理解しましょう。	4時間
第4回	**高齢者の加齢による変化：精神的、心理社会的な特徴** 記憶力や知能の変化などの精神機能が加齢によって変化することを学修する。また、老いと心理的特性、社会的な変化を学修する。	高齢者の心理が書かれている書籍を読んで理解しましょう。	4時間
第5回	**高齢者の現在：人口、家族、経済、就業** 高齢者の人口学的な特徴や家族との同居や付き合い方、暮らし向きや所得、貯蓄等の経済状況、雇用状態、高齢社会対策等を学修する。	高齢社会白書を参考にして高齢者の現在を確認しましょう。	4時間
第6回	**高齢者の現在：健康、生活環境、社会参加、今後の課題** 高齢者の健康観、受療率、特徴的な疾患、住居や生活する上での環境、ボランティアや学習等を学修する。また、高齢者社会の問題として高齢者虐待や倫理をとりあげ、現在の状況を踏まえ、今後の高齢社会の課題を考察する。	高齢者が住んでいる地域の住環境について調べてみましょう。	4時間
第7回	**高齢者の健康と生活を支える制度：保健、医療、福祉制度の変遷と現在** 高齢者人口の増加や社会の変化による老人医療費の増加や保健医療福祉の連携と在宅サービスなどの歴史的な変遷、現在の医療制度と医療費負担等を学修する。	高齢者の保険や医療費、介護保険等のニュースに注目して学修の参考にして下さい。	4時間
第8回	**高齢者の健康と生活を支える制度：介護保険** 介護保険制度が創設された理由や介護保険の基本的な仕組み、サービスの種類や利用者負担、改正の経緯等を学修する。	介護保険の基本をしっかり復習しましょう。	4時間
第9回	**高齢者の健康な日常生活と習慣：コミュニケーション、セクシュアリティ** 地域で健康に暮らす高齢者のコミュニケーションの特徴やコミュニケーションに影響する要因、加齢が原因となる老人性難聴の特徴、高齢者とのコミュニケーションのとりかた、意思疎通の困難な高齢者とのコミュニケーション等について学修する。また、高齢者のセクシュアリティの特徴や援助について学修する。	地域で暮らす高齢者の話し方を観察し、講義の理解を深めましょう。	4時間
第10回	**高齢者の健康な日常生活と習慣：活動、休息、睡眠、楽しみ** 地域で健康に暮らす高齢者の外出や外出手段、日常の活動、睡眠の特徴や睡眠への援助、日常生活の楽しみなどを学修する。	高齢者の健康的な活動、休息の必要性、睡眠と日常生活への影響などを理解しましょう。	4時間
第11回	**高齢者の健康の健康な日常生活：身だしなみ、排泄** 地域で健康に暮らす高齢者の清潔を保つ必要性、光老化、入浴方法や留意事項、フットケア（足の清潔）加齢と排尿、排便への影響を学修する。また、高齢者にとってのおしゃれについて考察する。	加齢による皮膚や爪、排泄の特徴を理解し、看護の援助を考えてみましょう。	4時間
第12回	**高齢者の健康な日常生活と習慣：栄養と食生活** 高齢者の栄養素のとりかた、栄養状態に影響する要因、低栄養やBMI、サルコペニアを学修し、要介助の高齢者への食事の援助について学修する。	地域のレストランやコンビニのメニューが高齢者に適しているのか調べてみましょう。	4時間

第13回	**高齢者の健康課題とアセスメント** 高齢者の健康をアセスメントするときの視点、アセスメントの手段、加齢により変化する検査値、Physical examination、高齢者総合機能評価（ＣＧＡ）や日常生活の自立度測定に使用するＡＤＬ，ＩＡＤＬ，ＦＩＭについて学修する。また、アセスメントするときの質問の要点について考察する。	日常生活の自立度測定と測定方法、測定結果の意味を分析しましょう。	4時間
第14回	**入院した高齢者の特徴と看護、施設へ入院した高齢者の特徴と看護** 入院が高齢者に及ぼす影響と看護、薬物療法への看護、介護施設へ入院した高齢者の看護、医療施設と介護施設の違い、介護施設の看護師の役割を学修します。	病院と介護施設の役割の違いを理解しましょう。	4時間

授業科目名	老年看護学援助論				
担当教員名	山本純子・阿部真幸				
学年・コース等	2年	開講期間	通年	単位数	1
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	山本純子（看護師として病院勤務経験あり）、阿部真幸（看護師として病院勤務経験あり）				

授業概要

老年看護学概論で学んだ高齢者の身体、精神、心理社会的な特徴と健康な高齢者の生活、健康課題のアセスメントを踏まえ、老年期に起こりやすい健康課題と看護について学修する。高齢者に特有な症状や認知症などの疾病が高齢者の生活に与える影響を理解し、多様な背景をもつ高齢者のQOL（Quality of Life、生活の質）を考慮した看護について学修する。また、介護予防や疾病予防の視点や自立支援を中心においた看護を考察する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自立して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる	高齢者を取り巻く環境や心身の変化を踏まえ、老年期に起こりやすい代表的な健康課題について学修する。	老年期の加齢に伴う身体、精神、心理社会的な特性を理解し、老年期特有の健康問題を説明することができる。
2. DP2.人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる	老年期特有の健康問題が日常生活に及ぼす影響を理解し、健康問題をもつ高齢者と家族への看護援助について学修する。	老年期特有の健康問題や加齢に伴うADL低下と、高齢者の自立した生活の援助に向けた看護について説明することができる。
汎用的な力		
1. DP3.地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる		老年期特有の健康問題のアセスメントと生活機能を整えていく予防的な看護援助を導きだすことができる。
2. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自律して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる		高齢者の自立支援や老年看護における倫理的課題と高齢者の権利擁護について説明することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
課題学習の提出内容等による総合評価	20 %	：	授業後に課題を出したレポートの内容について評価します。
定期試験	80 %	：	テキストと講義資料の範囲の理解について評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
北川公子他	・ 系統看護学講座専門分野Ⅱ老年看護学改訂版	・ 医学書院	・ 2025　年

参考文献等

鳥羽研二他　系統看護学講座　老年看護病態・疾患編第5版　医学書院　2018年ISBN978426003172Ⅰ
真田弘美他編　老年看護学技術改訂第3版　南江堂　2020年　ISBN9784524227112
小池妙子他　老年看護第5版　メヂカルフレンド社2019年　ISBN9784839222680

履修上の注意・備考・メッセージ

老年看護学概論の復習を十分に行って授業に臨んで下さい。
毎回、授業での学びや気づきはノート等に整理し、疑問点があれば必ず解決するように心がけましょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　濱畑：金３限　阿部：金3限

場所：　濱畑（S753 ）阿部（S 771 ）

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**高齢者の健康課題と看護：認知症の動向、種類、症状、診断** 認知症高齢者の増加の現状、政策、定義や症状、BPSD、原因疾患の特徴（４大認知症：アルツハイマー型認知症、血管性認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症）、MCI（軽度認知障害）、認知症の評価尺度（HDS-R,MMSE等）検査と治療について学修します。	認知症に関するニュースを検索して現在の問題を理解しましょう。	4時間
第２回	**高齢者の健康課題と看護：認知症の人へのケアの視点、症状への対応** 痴呆から認知症への言葉の変遷とその意味、パーソンセンタードケアの考え方、認知症の人のその人らしさを支えるケアの原則、中核症状と対応、BPSD（認知症の行動・心理症状）と対応を学修します。	認知症の人への対応例を参考にパーソンセンタードケアの意味を理解しましょう。	4時間
第３回	**高齢者の健康課題と看護：認知症の人の家族への支援、高齢者のEnd of Lifeの看護** 認知症の人の家族が認知をを理解できるように認知症の自立度の変化やアルツハイマー型認知症の自然経過、認知症を持つ人と家族を支える社会資源、利用できる制度を学修します。また、高齢者のEnd of Lifeの看護を学修します。	認知症の人の家族の心理を学修しましょう。また、自己の死生観を考え、看護者としての役割を考えましょう。	4時間
第4回	**高齢者の健康課題と看護：脱水、嚥下障害、熱中症** 脱水の講義では、高齢者が脱水を起こしやすい理由、脱水の種類と症状、高齢者の脱水の特徴、予防や脱水のある人への看護を学修します。また、高齢者が嚥下障害を起こしやすい理由、誤嚥、嚥下障害の看護、高齢者が熱中症を起こしやすい理由や熱中症の予防について学修します。	老年看護学概論の加齢による身体的な変化を復習し、脱水を理解しましょう。	4時間
第5回	**高齢者の健康課題と看護：排泄障害、皮膚トラブル、腰痛、生活不活発病** 高齢者によくみられる夜間頻尿や機能性尿失禁、過活動膀胱と看護、高齢者の皮膚の老化、老人性乾皮症、老人性皮膚掻痒症と対応、変形性膝関節症、腰痛に対する看護を学修します。また、生活不活発病（廃用症候群）の予防について学修します。	老年看護学概論の加齢による身体的な変化を復習し、講義を理解しましょう。	4時間
第6回	**高齢者の健康課題と看護：脳血管障害、パーキンソン病** 高齢者の脳血管障害の特徴と起こしやすい理由、脳梗塞の症状と看護、パーキンソン病の特徴や症状、重症度分類、生活機能の分類、治療、日常生活の自立を目指した看護について学修します。	解剖生理や疾病治療論と関連づけて病態を理解しましょう。	4時間
第7回	**高齢者の健康課題と看護：肺炎、感染症、大腿骨頸部骨折** 高齢者に起こりやすい肺炎の種類と症状、予防と看護、高齢者に特有な感染症の種類と予防、看護、高齢者の４大骨折、大腿骨頸部骨折の特徴と手術前、手術後の看護等について学修します。	解剖生理や疾病治療論と関連づけて病態を理解しましょう。	4時間

授業科目名	**老年看護学援助方法論**				
担当教員名	**山本純子・阿部真幸・久保里香・中島一成**				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	山本純子（看護師として病院勤務経験あり）、阿部真幸（看護師として病院勤務経験あり）、久保里香（看護師として病院および老人介護保険施設で勤務経験あり）、中島一成（看護師として病院勤務経験あり）				

授業概要

老年看護学概論や援助論の講義を踏まえ、臨地実習の前段階として老年看護の実践に必要な看護過程や実践方法を身に着けるため、個人ワーク、グループワークを学修する。高齢者の身体の変化を理解するために高齢者疑似体験を行い、看護過程は高齢者に特有な疾患をもつ紙上事例を用いて情報の整理、分析、アセスメント、看護計画を立案する。また、高齢者の状況を設定して移乗や認知症のある人とのコミュニケーションんのとりかたを学修する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自立して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる	高齢者の看護に必要な既習の知識と技術を統合し、紙上事例を用いて個別性のある看護過程を展開する。	個人及びクループでの演習を通して紙上事例に提示された事実から健康問題のアセスメント、看護計画を立案することができる。
2. DP2.人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる	認知症をもつ高齢者やその家族への看護援助を実施するための基本的なコミュニケーション技術の方法や看護技術を修得する。	個人やグループでの演習を通して認知症を持つ高齢者への個別性のあるコミュニケーション技術や基本的な看護技術を修得し、安全・安楽な看護を提供することができる。
汎用的な力		
1. DP3.地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる		紙上事例中の保健医療福祉施設で暮らす高齢者や病院で治療を受ける高齢者について、地域ケアシステムの中でとらえ、多職種連携を基にして看護過程を展開することができる。
2. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自律して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる		高齢者の健康な状態から病院や施設での生活、在宅に戻った生活について他者と意見交換しながら自身の看護観を考察する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
授業態度	20 %	:	課題の取り組み状況、授業への参加度（グループワークでの話合い参加状況、発言など）に基づき評価します。
課題学習の提出内容等による総合評価	50 %	:	授業後に課題を出したレポートの内容について評価します。
小テスト	30 %	:	毎回授業の最後に行う小テスト。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
北川公子他	・系統看護学講座専門分野Ⅱ老年看護学改訂版	・医学書院	・2025　年

参考文献等

小池妙子他　老年看護第５版　メヂカルフレンド社　2019年　ISBN9784839222680
真田弘美他演習　老年看護学技術改訂第3版　南江堂　2020年　ISBN9784524227112

履修上の注意・備考・メッセージ

個人及びグループでの学修が中心となります。各回のテーマ、演習内容、時間外学修の内容を十分に理解したうえで計画的に積極的に学修を進めることが必要です。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　濱畑：金3限　阿部：金3限　久保：火1限　丹羽：火曜1限

場所：　濱畑S753　阿部S771　久保S782　丹羽S 778

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**演習全体オリエンテーション、看護過程：情報の整理** 演習の種類、目的、臨む姿勢についてオリエンテーションする。 また、演習の事前準備、老年看護学既習の確認、老年看護の視点を入れた看護過程と看護過程を展開する意味等を学修する。また、事例の重要事項を説明する。	紙上事例にある病態や専門用語等のわからない情報について調べましょう。	4時間
第２回	**看護過程：情報の整理、重要事項のレポート作成** 紙上事例にある「誤嚥性肺炎の高齢者の看護」について情報を整理し、病態、肺の解剖生理、要因となった生活習慣、治療、検査、本人の病気への理解と治療への期待、退院後の生活の希望について整理する。事例にでてくる看護の専門用語や医療用語等を自分で調べてレポートにまとめる。	人体の構造と機能、老年看護学援助論、疾病治療論等から事例を理解しましょう。	4時間
	紙上事例にある「誤嚥性肺炎の高齢者の看護」について情報を整理したものを再確認して事例の理解を進める。事例にでてくる看護の専門用語や医療用語等を自分で調べてレポートにまとめる。		
第4回	**看護過程：情報の整理、重要項目のレポート作成** 紙上事例にある「誤嚥性肺炎の高齢者の看護」について情報を整理したものを再確認して事例の全体像の理解に向けて整理する。その後、事例の看護に向けてアセスメントする。アセスメントするときは確実な根拠に基づき、身体、精神、心理社会面からアセスメントすることを学修する。アセスメントは文章にまとめる。	事例の全体像をよく考え、個別性について理解しましょう。	4時間
第5回	**看護過程：情報分析、アセスメント** 第４回に続き、紙上事例にある「誤嚥性肺炎の高齢者の看護」について情報の整理とアセスメントします。アセスメントは文章にまとめながら、事例の情報を再確認し、全体像を明確にすることを学修します。	事例の全体像をよく考え、個別性について理解しましょう。	4時間
	事例の情報を分析し、アセスメントします。アセスメントするときは事例の身体、精神、心理社会面を広く考察して看護計画を立案します。課題と患者目標を具体的に決定して、事例の情報やアセスメントについて関連づけられているのか確認して進めます。看護計画はより具体的に観察計画（OP）、ケア計画（CP）、教育計画（EP）を作成します。		
第7回	**看護過程：看護の方向性と課題の明確化、看護計画立案** 事例のアセスメントをしたあと、実際に看護計画を立案します。看護計画はより具体的に観察計画（OP）、ケア計画（CP）、教育計画（EP）に分けて立案し、事例の個別性が反映されているのか学修します。	看護過程：看護の方向性と課題の明確化、看護計画立案	4時間
	事例の内容やアセスメントが関連づけられているのか確認しながら看護計画を確認しましょう。看護計画はより具体的に観察計画（OP）、ケア計画（CP）、教育計画（EP）に分けて立案し、事例の個別性が反映されているのか学修します。		
	事例の内容やアセスメントが関連づけられているのか確認しながら看護計画を確認しましょう。看護計画はより具体的に観察計画（OP）、ケア計画（CP）、教育計画（EP）に分けて立案し、事例の個別性が反映されているのか学修します。		
第10回	**看護計画まとめ：グループ発表、看護計画の提出（個人）** 個人で作成した看護計画をグループで共有し、発表します。他者の発表をよく聞き、質問や意見を自身の看護計画に反映させる。グループ討議では、それぞれの意見からクループで特に話合った点や共通な点、異なる意見などをまとめる。	参考書を学修し、グループで提案された事柄を理解しましょう。	4時間
第11回	**高齢者疑似体験と片麻痺の人の車椅子からベッド、ベッドから車椅子への移乗**	片麻痺のある人の自立について理解しましょう。	4時間

	高齢者体験装具を付けて疑似体験を演習します。状況設置を簡単に説明した課題を理解し、高齢者役と看護師役の２名でペアを組み、交代して課題を学修します。また、片麻痺の人の移乗を演習します。		
	高齢者体験装具を付けて疑似体験を演習します。状況設置を簡単に説明した課題を理解し、高齢者役と看護師役の２名でペアを組み、交代して課題を学修します。また、片麻痺の人の移乗を演習します。		
第13回	**認知症をもつ人とのコミュニケーション：水分摂取、レクリェーション** 「認知症を持つ人で水分をとるのを嫌がる方」と事例設定します。コミュニケーションをとりながら水分摂取を進める方法を学修します。高齢者役、看護師役の２名でペアを組み、交代して課題を学修します。また、認知症を持つ人へのレクリェーションについて調べて、計画したものを演習します。人数、認知症の程度、レクリェーションの種類、実施時間等を考えて実施しましょう。	介護施設で行うレクリェーションの種類を調べてみましょう。	4時間
第14回	**高齢者の時代背景調査レポート作成と発表** 高齢者が生きてきた過去の時代背景を調べることで、高齢者の過去と現在への連続性、未来への希望や存在することの大切さを理解する。レポート作成と発表を実施します。	昭和、平成、令和の時代の出来事を調べて高齢者の生きてきた世界を考えましょう。	4時間

733

授業科目名	**老年看護学実習**				
担当教員名	**山本純子・阿部真幸・久保里香・中島一成**				
学年・コース等	3年	開講期間	通年	単位数	3
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	山本純子（看護師として病院勤務経験あり）、阿部真幸（看護師として病院勤務経験あり）、久保里香（看護師として病院および老人介護保険施設で勤務経験あり）、中島一成（看護師として病院勤務経験あり）				

授業概要

老年看護学実習は病院の実習２単位、２週間は受け持ち高齢者に看護過程を展開する実習である。実習へのレディネスとして既習の科目の復習と課題をレポートを作成する。実習中は受け持ち高齢者から情報収集し、看護実践は指導者、教員の指導の下で行い、カンファレンスでは実習の学びを深める。
介護老人保健施設は１単位、１週間の実習であり、介護老人保健施設の利用者の日常生活支援を学ぶ。看護師の臨地実習 指導者の指導の下でケアを実施する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自立して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる	高齢者の看護に必要な既習の知識と技術を統合し、病院や施設の高齢者に個別性のある看護を提供する。	高齢者の個別性に基づいた看護を看護過程に基づいたり、多職種と協働してや提供する。
2. DP2.人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる	受け持ちの入院する高齢者や施設の入居者の看護を安全、安楽に実践する。	根拠に基づく考えと倫理観をもち入院、入居する高齢者の看護を実践する。
汎用的な力		
1. DP3.地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる		入院したり、施設入居する高齢者に対し、生活拝見や価値観を尊重し、多職種と協働し、看護を提供する。
2. DP2.人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる		入院、施設入居の高齢者に対し、価値観や意思を尊重し、高い倫理と確実な看護を実践する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業態度	30 %	： 実習への取り組み状況や高齢者に対する姿勢、態度などに基づき評価します。
課題学習の提出内容等による総合評価	70 %	： 毎日の実習記録、看護過程、レポートの内容について評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

北側公子他　系統看護学講座専門分野Ⅱ老年看護学第９版　医学書院　2018年
令和7年度大阪成蹊大学老年看護学実習要項

履修上の注意・備考・メッセージ

臨地実習では、入院する受け持ち高齢者や施設入居高齢者に対し、学ばせていただく姿勢をもち、高齢者の立場を尊重し、高齢者の視点から看護を計画する。具体的には病院実習は入院した高齢者を受け持ちさせていただき、2週間の看護計画を展開する。介護老人保健施設では入居されている高齢者やデイケアを利用している高齢者と日常を過ごさせていただき、施設における高齢者の看護について学修する。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　濱畑章子：金曜、3限　阿部真幸：金3限　久保：火1限

場所：　濱畑S753　阿部S771　久保S782　丹羽S 778

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**病院での臨地実習の学内オリエンテーション** 令和７年度老年看護学実習要項に基づき、学内において実習オリエンテーションを実施する。老年看護学全体（病院、介護老人保健施設）の目的、目標、高齢者の視点に沿う実習等をこれまで老年看護学概論、老年看護学援助論、老年看護学援助方法論を振り返って説明する。令和７年度老年看護学実習要項（病院）は実習の教科書となり、実習する上で必要不可欠な要項であり、必ず実習に携帯する。また、病院に入院している高齢者の病気について身体、精神、心理社会面の特徴をとらえたレポートを作成する。	既習の老年看護学概論、援助論、演習を復習、実習記録の作成	4時間
第２回	**病院での臨地実習、初日** 病院の臨地実習指導者から病院全体の概要と入院高齢者の特徴、病棟の特徴などのオリエンテーションを受ける。受け持ち高齢者の特徴を踏まえ、コミュニケーションをとらせていただく。また、看護過程の展開のために適切な情報収集を行い、明日の実習計画を立案する。効果的に実習ができるようにミニカンファレンスを実施する。	情報収集で理解できないことを調べる、実習記録の作成	4時間
第３回	**病院での臨地実習、２日目** 受け持ち高齢者の特徴を踏まえ、コミュニケーションをとらせていただく。また、看護過程の展開のために適切な情報収集を行い、明日の実習計画を立案する。効果的に実習ができるようにミニカンファレンスを実施する。	情報収集で理解できないことを調べる	4時間
第４回	**病院での臨地実習、３日目** 受け持ち高齢者の特徴を踏まえ、コミュニケーションをとらせていただく。また、看護過程の展開のために適切な情報収集を行い、明日の実習計画を立案する。看護計画立案にあたり、受け持ち高齢者の看護の方向性を確認する。中間カンファレンスを実施し、指導者のアドバイスを受け、看護過程の作成に向けて検討する。	情報収集で理解できないことを調べる、実習記録の作成	4時間
第５回	**病院での臨地実習４日目（学内日）受け持ち高齢者の看護計画の立案** 受け持ち高齢者の生活背景、生活習慣、信条、入院に至った理由など情報収集したことを参考に、また、高齢者の病気の特徴や受け持ち高齢者の病態、治療等の方針等を考え、看護過程を立案する。既習の知識を活用して個別性のある看護計画を立案する。看護計画は老年看護学援助方法論で紙面上の患者に関して作成したことを参考にする。情報、アセスメント、課題、看護介入を記載する。	看護計画の立案、実習記録の作成	4時間
第６回	**病院での臨地実習５日目、看護計画に沿って実習する** 立案した看護計画に沿って、受け持ち高齢者の看護を実施する。実習開始前の一日の実習計画は看護過程の考えが入ったものである。看護の実施と振り返りを行い、立案した看護計画を見直し、常に受け持ち患者の側に立った、個別性があるのか、看護介入は適切であるのか検討する。ミニカンファレンスでは看護介入に関し、受け持ちや他学生からの情報を参考にする。	看護計画の立案、実習記録の作成	4時間
第７回	**病院での臨地実習６日目、看護計画に沿って実習する** 立案した看護計画に沿って、受け持ち高齢者の看護を実施する。実習開始前の一日の実習計画は看護過程の考えが入ったものである。看護の実施と振り返りを行い、立案した看護計画を見直し、常に受け持ち患者の側に立った、個別性があるのか、看護介入は適切であるのか検討する。ミニカンファレンスでは看護介入に関し、受け持ちや他学生からの情報を参考にする。	看護計画の見直し、実習記録の作成	4時間
第８回	**病院での臨地実習７日目、看護計画に沿って実習する** 立案した看護計画に沿って、受け持ち高齢者の看護を実施する。実習開始前の一日の実習計画は看護過程の考えが入ったものである。看護の実施と振り返りを行い、立案した看護計画を見直し、常に受け持ち患者の側に立った、個別性があるのか、看護介入は適切であるのか検討する。ミニカンファレンスでは看護介入に関し、受け持ちや他学生からの情報を参考にする。	看護計画の見直し、実習記録の作成	4時間
第９回	**病院での臨地実習８日目、看護計画に沿って実習する**	実習記録の作成	4時間

	立案した看護計画に沿って、受け持ち高齢者の看護を実施する。実習開始前の一日の実習計画は看護過程の考えが入ったものである。看護の実施と振り返りを行い、立案した看護計画を見直し、常に受け持ち患者の側に立った、個別性があるのか、看護介入は適切であるのか検討する。実習の最終カンファレンスを実施するので、指導者の意見やアドバイスを受け、自身の老年看護について考えを深める機会とする。		
第10回	**病院での臨地実習の振り返りと最終レポートの作成（学内）** 病院２週間の臨地実習について学んだこと、入院している高齢者を理解したこと、高齢者の健康と入院生活の影響等を考える。２週間のまとめのカンファレンスを行う。また、最終レポート課題を作成して指導教員に提出する。	実習記録の作成	4時間
第11回	**介護老人保健施設実習、学内オリエンテーション** 介護老人保健施設実習の開始にあたり、学内にて施設の特徴、利用者の特徴、多職種協働等のオリエンテーションを実施する。令和７年度老年看護学実習要項（介護老人保健施設）を使用する。老年看護学概論、老年看護学援助論、老年看護学援助方法論を復習して理解を深める。介護老人保健施設を多く利用している認知症について、特に既存の知識を見直し、理解できるようにレポート作成しておく。	介護老人保健施設の特徴を復習	4時間
第12回	**介護老人保健施設実習、臨地実習１日目** 実際の介護老人保健施設の構造、施設の目的、特徴、利用者の特徴、介護の方針、多職種等について施設の実習指導者からオリエンテーションを受ける。施設における高齢者の生活支援について、どのように看護職が介入しているのか理解する。また、施設の年間行事、週間行事、日課などを踏まえ、自身の実習目標を作成する。	介護老人保健施設の特徴を復習	4時間
第13回	**介護老人保健施設実習、臨地実習２日目** 介護老人保健施設で看護師、介護士等と行動を共にして高齢者の生活支援について学ぶ。利用者の施設での生活、入居前の生活との違い、健康状態、日常生活行動の自立度などを理解しながらコミュニケーションをとったり、生活支援を学ぶ。カンファレンスでは指導者のアドバイス、他学生の意見などを参考にして自身の学びを深めるようにする。入居者と自宅から通う高齢者の生活や考え方、生活の自立度などを理解するために、デイケアで半日の実習を行う。	実習記録の作成、情報収集で理解できないことを調べる	4時間
第14回	**介護老人保健施設実習、臨地実習３日目** 介護老人保健施設で看護師、介護士等と行動を共にして高齢者の生活支援について学ぶ。利用者の施設での生活、入居前の生活との違い、健康状態、日常生活行動の自立度などを理解しながらコミュニケーションをとったり、生活支援を学ぶ。カンファレンスでは指導者のアドバイス、他学生の意見などを参考にして自身の学びを深めるようにする。入居者と自宅から通う高齢者の生活や考え方、生活の自立度などを理解するために、デイケアで半日の実習を行う。実習最終となるので、最終カンファレンスを実施する。介護老人保健施設での学びを確認する。	実習記録の作成、実習中に理解できないことを調べる	4時間
第15回	**介護老人保健施設実習、学内実習** 介護老人保健施設における臨地実習を踏まえ、入居している高齢者と自宅から施設を利用する高齢者の違いについて学びを振り返る。施設ごとのカンファレンスを実施し、より多くの情報を整理し、介護老人保健施設における老年看護について自身の考えを明確にする。最終レポート課題は参考文献を利用しながら作成する。	介護老人保健施設の特徴を再度、学修する	4時間

授業科目名	地域・在宅看護学概論				
担当教員名	山本純子				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	看護師として病院勤務経験あり				

授業概要

地域の様々な場で疾病や障害をもちながら暮らす在宅療養者とその家族を生活者としてとらえ、対象者の自己決定、自立・自律支援に基づくQOLの維持・向上のための地域・在宅看護の展開方法について学修する。地域・在宅看護の歴史、地域・在宅での看護が必要とされる社会的な背景をふまえ、地域・在宅看護の概念、目標、対象者・活動の場、活動方法・内容及びその特徴について理解する。さらに、人生100年時代に在宅療養者とその家族の生活を支えるために必要となる法律・制度・社会資源について理解を深め、多職種連携・協働、ケアマネジメントをとおして看護を学修する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自立して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる	地域の様々な場で疾病や障害をもちながら暮らす在宅療養者とその家族の自己決定、自立・自律支援に基づくQOLの維持・向上のための地域・在宅看護の展開方法を学ぶ。	在宅療養者とその家族の自己決定、自立・自律支援に基づくQOLの維持・向上のための在宅看護のあり方を考えることができる。
2. DP2.人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる	地域・在宅での看護が必要とされる社会的な背景を理解し、地域・在宅看護の概念、目標、対象者・活動の場、活動方法・内容及びその特徴を学ぶ。	高齢社会や医療の「病院完結型」から「在宅完結型」への変化をふまえ、地域・在宅看護の概念、目標、対象者・活動の場、活動方法・内容等を理解することができる。
汎用的な力		
1. DP3.地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる		在宅療養者とその家族の生活を支えるために必要となる法律・制度・社会資源を理解し、地域・在宅での多職種連携・協働、ケアマネジメントをとおして看護の役割を理解できる。
2. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自律して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる		在宅療養者とその家族を生活者としてとらえ、対象者の意思を尊重した看護の内容や方法を考えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
課題学習の提出内容等による総合評価	20 %	： 授業後に課題を出したレポートの内容について評価します。
定期試験	80 %	： テキストと講義資料の範囲の理解について評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年

臺有桂・石田千絵・山下 留理子 編	・地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア 第７版」	・メディカ出版	・2022 年
臺有桂・石田千絵・山下 留理子 編	・地域・在宅看護論② 在宅療養を支える技術 第2版	・メディカ出版	・2022 年

参考文献等

・篠崎惠美子著：事例から学ぶ地域・在宅看護論: 訪問時のお作法から実習のポイントまで, 医学書院, 2021年(ISBN：978-4-260-04618-3)
・中村順子・本田彰子・炭谷靖子他 編：家族看護を基盤とした地域・在宅看護論 第6版, 日本看護協会出版会, 2022年 (ISBN-13：978-4818025387)
・その他授業中に適宜紹介します

履修上の注意・備考・メッセージ

・老年看護学概論、老年看護学援助論、社会福祉と社会保障などの授業内容を復習して、授業に臨みましょう。
・毎回、授業での学びや気づきはノート等に整理し、疑問点があれば必ず解決するように心がけましょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　初回授業時に連絡します。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**地域・在宅看護の概念①社会背景と歴史的変遷、地域・在宅看護の目的・目標、対象者** 地域・在宅看護が必要とされる社会的背景や歴史的変遷、今後の課題を学修し、地域・在宅看護の目的・目標、対象者、活動の場・方法について理解する。	シラバスを読み授業の概略をつかみましょう。本時の学修内容をノートに整理しましょう。	4時間
第2回	**地域・在宅看護の概念②地域・在宅看護の役割と機能、基本的理念** 地域・在宅での療養生活支えるため自立・自律支援と病状・病態の予測及び予防を重視した看護の重要性を学修する。また、看護を展開する際に必要なアドボカシー、エンパワメント、パートナーシップ等の基本理念を理解する。	看護の展開に必要な基本理念をノートに整理しましょう。	4時間
第3回	**地域・在宅看護の対象と実施主体** 地域・在宅看護の対象は、地域の様々な場で疾病や障害をもちながら暮らす在宅療養者とその家族であることを理解し、在宅療養の成立条件やサービス提供体制について学修する。	地域・在宅療養を支えるサービスにはどのようなものがあるかを予習して授業に臨みましょう。	4時間
第4回	**地域・在宅療養者の家族への看護** 在宅療養における家族介護の現状と課題、家族看護の必要性を理解し、在宅ケアにおける看護師の役割を考える。	家族介護の現状と課題について予習して授業に臨みましょう。	4時間
第5回	**在宅療養を支える地域包括ケアシステム①地域包括ケアシステムの目的と構成要素** 地域包括ケアシステムの定義や目的、構成要素について理解し、地域包括ケアシステムにおける地域包括支援センターを中心とした多職種・多機関連携のあり方を学修する。	地域包括ケアシステムの定義や目的、構成要素と多職種・多機関連携について理解しましょう。	4時間
第6回	**在宅療養を支える地域包括ケアシステム②地域・在宅看護におけるケアマネジメント** 地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関連携の意義を理解し、看護師が担うケアマネジメントの方法や留意点について学修する。	看護師が担うケアマネジメントの方法や留意点をノートに整理しましょう。	4時間
第7回	**地域・在宅療養を支える法律・制度と看護①介護保険制度、医療保険制度、後期高齢者医療制度、生活保護制度等** 地域・在宅で生活する療養者とその家族の療養生活を支えるための主な法律・制度を理解し、制度活用時の看護師の役割について考える。	１年次に履修した「「社会福祉と社会保障」の内容を復習して授業に臨みましょう。	4時間
第8回	**地域・在宅療養を支える法律・制度と看護②障害者に関連する法律、難病、子どもの在宅療養を支える制度と社会資源** 地域・在宅で療養生活をする障害者や難病患者、小児とその家族を支える法律や制度を理解し、制度活用時の看護師の役割について考える。	第７回、８回で学修した法律・制度の要点をノートに整理しましょう。	4時間
第9回	**地域・在宅での療養を支える訪問看護①訪問看護制度と訪問看護ステーション** 訪問看護制度について理解し、訪問看護の目的・目標、訪問看護活動の拠点である訪問看護ステーションの役割・機能を学修する。	訪問看護制度及び訪問看護ステーションの機能・役割をノートに整理しましょう。	4時間
第10回	**地域・在宅での療養を支える訪問看護②訪問看護サービス** 訪問看護における看護過程の特徴を理解し、訪問看護過程の展開方法について学修する。	既習の看護過程の展開について、復習して授業に臨みましょう。	4時間
第11回	**地域・在宅での療養を支える訪問看護③訪問看護の方法、訪問看護記録** 訪問看護師が行う家庭訪問の方法と留意点を理解する。併せて、訪問看護記録の種類や作成方法、記録時の留意点について学修する。	訪問看護師が行う家庭訪問の方法と留意点について理解しましょう。	4時間
第12回	**療養の場の移行に伴う地域・在宅看護**	医療施設と介護施設の種類や機能をノートに整理しましょう。	4時間

	対象者の療養の場の移行に伴って必要となる医療施設と介護施設との連携、退院支援・退院調整と継続看護、多職種連携・地域連携等における看護師の役割について学修する。		
第13回	**地域・在宅看護における安全と健康危機管理** 在宅療養の場で起こり得る事故の内容や特徴を理解し、事故予防にむけた日常生活における安全管理の方法や留意点を学修する。また、災害時の健康危機管理と看護師の役割について考える。	日常生活で起こり得る事故の内容について事前学習して授業に臨みましょう。	4時間
第14回	**地域・在宅看護で起こる得る倫理的問題と権利擁護** 地域・在宅の場で起こり得る倫理的問題の内容や傾向を知り、療養者や家族の意思や権利を擁護する法律・制度を学修する。	地域・在宅療養者と家族の権利を擁護する法律や制度についてノートに整理しましょう。	4時間

授業科目名	**地域・在宅看護学援助論**				
担当教員名	阿部真幸				
学年・コース等	2年	開講期間	通年	単位数	1
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大学病院にて看護師として勤務				

授業概要

地域・在宅看護の対象者である在宅療養者・要介護者等とその家族に対する理解を深め、対象者の生活の質（Quality of Life）の維持・向上のためのアセスメントおよび社会資源の活用を含む基本的な知識と支援技術を修得する。特に食事・栄養、排泄、清潔・整容、移動等の日常生活行動の支援と、服薬管理、在宅酸素療法、経管栄養、ストーマ等の医療的ケアに必要な看護技術について学修し、在宅療養者・要介護者等とその家族の望みや希望を捉えたうえで、対象者の強みを活用した看護援助について考える能力を養う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自立して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる	在宅療養者・要介護者等とその家族の理解を深め、対象者の生活の質（Quality of Life）の維持・向上のためのアセスメントおよび社会資源の活用を含む基本的な知識と支援技術を学修する	在宅療養者・要介護者等とその家族の生活の質（Quality of Life）の維持・向上のためのアセスメントを行い、基本的な知識と対象者に適した支援技術について考えることができる
2. DP2.人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる	食事、排泄、清潔・移動等の日常生活行動の支援と、服薬管理、在宅酸素療法、ストーマ等の医療的ケアに必要な看護技術を学修する	学生同士やモデル人形での演習をとおして、在宅療養者・要介護者等日常生活行動の支援と医療的ケアに必要な看護技術を実施することができる。
汎用的な力		
1. DP3.地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる		在宅療養者・要介護者等とその家族の健康課題を理解し、対象者の療養生活を支えるために必要な社会資源を考え、活用方法を理解することができる
2. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自律して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる		在宅療養者・要介護者等とその家族の望みや希望を捉えたうえで、対象者の尊厳と生命を尊重し、高い倫理観に基づいた看護を提供することの重要性を述べることができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
課題学習の提出内容等による総合評価	20 %	： 授業後に課題を出したレポートの内容について評価します。
定期試験	80 %	： テキストと講義資料の範囲の理解について評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
臺有桂・石田千絵・山下 留理子	・ 地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア　第７版	・ メディカ出版	・ 2022　年
臺有桂・石田千絵・山下 留理子	・ 地域・在宅看護論②在宅療養を支える技術　　第2版	・ メディカ出版	・ 2022　年
押川真喜子	・ 新訂第2版 写真でわかる　訪問看護アドバンスー訪問看護の世界を写真と動画で学ぶ	・ インターメディカル	・ 2023　年

参考文献等

河野あゆみ編:強みと弱みからみた　在宅看護過程+総合的機能関連図　第2版，医学書院，2023年（ISBN：978-4-260-05082-1）
角田直枝著：よくわかる在宅看護　改訂第３版，学研メディカル秀潤社，2020年（SBN-13：978-4-7809-1396-5）
中村順子・本田彰子・炭谷靖子他編：家族看護を基盤とした地域・在宅看護論 第６版，日本看護協会出版会，2022年（ISBN-13：978-4818025387）

履修上の注意・備考・メッセージ

地域・在宅看護学概論、老年看護学概論、老年看護学援助論など科目の学びと関連づけて、学修をしましょう。
毎回、授業での学びや気づきはノート等に整理し、疑問点があれば必ず解決するように心がけましょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　初回授業時に連絡します。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**地域・在宅での療養を支える基本的な看護技術①コミュニケーション、訪問看護のマナー** 在宅療養者・要介護者等とその家族との円滑な関係を構築するためのコミュニケーションの方法、訪問看護のマナーと訪問時の留意点を学修する。	シラバスを読み、授業の概略をつかみましょう。本時の学修内容をノートに整理しましょう。	4時間
第２回	**地域・在宅での療養を支える基本的な看護技術②感染予防、フィジカルアセスメント、環境整備** 在宅療養者・要介護者等とその家族の健康を守るための感染対策の重要性を理解する。さらに、訪問看護師が訪問時に行うフィジカルアセスメント、環境整備の方法と留意点について学修する。	第2回～４回では、基本的な看護技術の学びを深めるために基礎看護学方法論の復習をして授業に臨みましょう。	4時間
第３回	**地域・在宅看護における食事・栄養の支援と看護** 在宅療養者・要介護者等にとっての食事・栄養行動の意味と重要性を理解し、在宅生活での食事・栄養に関するアセスメントの方法と留意点について学修する。	在宅生活での食事・栄養行動の意味と重要性を理解し、食事・栄養に関するアセスメントの方法と留意点についてノートに整理しましょう。	4時間
第４回	**地域・在宅看護における排泄、清潔・整容、移動の支援と看護** 地域・在宅看護における排泄、清潔・整容、移動の特徴と在宅生活でのアセスメントの方法と留意点について学修する。排泄や清潔・整容、移動の支援をする際の多職種・多機関との連携のあり方について考える。	寝たきりの療養者や認知症高齢者の排泄や清潔・整容、移動を支援する際の問題点や課題を考えてみましょう。	4時間
第５回	**地域・在宅看護における医療的ケアの援助①服薬管理、在宅酸素療法** 地域・在宅看護における医療的ケアの原則を理解する。在宅での服薬管理や在宅酸素療法で呼吸管理を行っている場合におこりやすい問題を理解し、その対応と看護師の役割を学修する。	在宅での服薬管理や在宅酸素療法時の看護の留意点をノートに整理しましょう。	4時間
第６回	**地域・在宅看護における医療的ケアの援助②経管栄養、ストーマ** 生活の場で経管栄養やストーマケアが必要な療養者に生じやすい問題・課題とその看護をテキストやDVD資料で理解する。	経管栄養やストーマ造設をしている療養者にとってのボディーイメージの変化について考えてみましょう。	4時間
第７回	**地域・在宅看護における家族に関連した問題と家族支援** 地域・在宅で起こっている老老介護、認認介護、呼び寄せ介護等に代表される家族介護に関連する問題を理解する。家族の生活と心身の健康を維持のための家族支援と看護師の学修する。	家族を支援するうえで必要となる社会資源についてノートに整理しましょう。	4時間

授業科目名	**地域・在宅看護学援助方法論**				
担当教員名	**山本純子・阿部真幸・久保里香・中島一成**				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	山本純子（看護師として病院勤務）、阿部真幸（大学病院にて看護師として勤務）、久保里香（病院および老人介護保健施設にて看護師として勤務）、中島一成（看護師として病院勤務）				

授業概要

在宅療養者・要介護者等とその家族の特性をふまえ、対象者の生活の場で必要となる在宅看護の知識・技術、看護過程の展開について講義・演習をとおして学修する。在宅療養者とその家族の尊厳を守り、自立・自律を促すとともにQOL（Quality of Life）の維持・向上に向けた具体的な社会資源の活用と多職種連携における看護の役割を学ぶ。また、対象別の紙上事例を用い、個人及びグループワークによって実践的な援助方法を修得する。さらに、在宅療養者・要介護者とその家族の望みや希望を捉えたうえで健康問題をアセスメントし、対象者の強みを活かした援助を考える能力を養う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自立して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる	疾病や障害とともに生きながら在宅療養を行う対象者とその家族が自立・自律した自分らしい生活を送り、QOLの維持・向上を図ることができるよう看護技術を修得する	疾病や障害をもちながら在宅で療養する対象者の個別性に合わせた方法で看護技術の実践ができる
2. DP2.人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる	既習の看護知識と看護技術に加え、在宅看護に必要な知識と技術を修得し、紙上事例を用いて看護過程を展開する	個人及びグループでの演習をとおして、紙上事例中に提示された事実から健康問題のアセスメントを行い、看護計画を立案することができる
汎用的な力		
1. DP3.地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる		在宅療養者とその家族を支えるために多職種連携の必要性と看護師の役割を理解することができる
2. DP3.地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる		在宅療養者とその家族の生活を支えるために活用可能な社会資源を把握し、具体的な活用方法について説明することができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業態度	20 %	： 課題の取り組み状況、授業への参加度（グループワークでの話し合いの参加状況、発言など）に基づき評価します。
課題学習の提出内容等による総合評価	50 %	： 授業後に課題を出したレポートの内容について評価します。
小テスト		： 毎回授業の最後に行う小テスト。

30　%

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
臺有桂・石田千絵・山下 留理子 編	・地域・在宅看護論(1)：地域療養を支えるケア　第７版	・メディカ出版	・2020　年
臺有桂・石田千絵・山下 留理子 編	・地域・在宅看護論(２)：在宅療養を支える技術　第2版	・メディカ出版	・2022　年
尾崎章子・蒔田寛子　編	・療養者が望む暮らしを支える　地域・在宅看護過程	・医歯薬出版株式会社	・2023　年

参考文献等

河野あゆみ編：強みと弱みからみた在宅看護過程+総合的機能関連図 第2版，医学書院，2023年（ISBN：978-4-260-05082-1）
正野逸子・本田明子著：関連図で理解する在宅看護過程 第2版，メヂカルフレンド社，2018年（SBN：978-4-8392-1629-0）
中村順子・本田彰子・炭谷靖子・他編：家族看護を基盤とした地域・在宅看護論 第6版，日本看護協会出版会，2022年（ISBN978-4-8180-2538-7）
その他授業中に適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は個人およびグループでの学修が中心となります。
各回のテーマ、授業内容、時間外学修の内容を十分に理解したうえで、計画的かつ積極的に学修を進めることが必要です。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　初回授業時に連絡します。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**地域・在宅での療養を支える仕組み①多職種連携および医療施設と訪問看護ステーションの連携** （講義） 地域・在宅療養における多職種連携の必要性、連携の実際について、事例を用いて学修する。また、医療施設と訪問看護ステーションの連携、関わる職種について学修する。	シラバスを読み、授業の概略をつかみましょう。医療施設に所属する医療従事者の職種や連携について復習して講義に臨みましょう。	4時間
第２回	**地域・在宅での療養を支える仕組み②災害時の対応と看護** （講義） 地域・在宅療養において医療的ケアを必要とする対象における災害時の対応と対象とその家族への指導についてテキストやDVD資料で理解する。	地域・在宅療養における災害時の対応や看護師として必要な情報提供についてノートに整理しましょう。	4時間
第３回	**地域・在宅での療養を支える看護技術①呼吸に関する援助技術** （演習） 地域・在宅療養における呼吸管理に必要な援助技術を修得する。吸引（口腔内、鼻腔内、気管内）、在宅酸素療法など在宅療養で用いる呼吸管理方法について技術演習を行う。	第3～6回で学修する技術は、学生同士で練習し、修得しましょう。　・基礎看護技術で学修している呼吸管理方法について復習し、授業に臨みましょう。	4時間
第４回	**地域・在宅療養を支える看護技術②食事・栄養摂取に関する看護技術** （演習） 地域・在宅療養における栄養管理に必要な援助技術を修得する。経口摂取、経管栄養、中心静脈栄養など在宅療養で用いる栄養摂取方法について技術演習を行う。	基礎看護技術で学修している食事・栄養摂取方法について復習し、授業に臨みましょう。	4時間
第５回	**地域・在宅療養を支える看護技術③排泄に関する看護技術** （演習） 地域・在宅での療養における排泄管理に必要な援助技術を修得する。ストマ管理、ウロストミー、自己導尿など在宅療養で用いる排泄方法について技術演習を行う。	基礎看護技術で学修している排泄の援助方法について復習し、演習に臨みましょう。	4時間
第６回	**地域・在宅療養を支える看護技術④清潔・整容に関する看護技術** （演習） 地域・在宅での療養における清潔・整容管理に必要な援助技術を修得する。訪問入浴などの社会資源を利用して清潔援助を提供する仕組みや褥瘡予防について技術演習を行う。	基礎看護技術で学修している清潔・整容の援助方法について復習し、演習に臨みましょう。	4時間
第７回	**地域・在宅での療養で使用する物品の工夫・開発** （演習） 在宅療養で使用する物品について、対象とその家族の自己負担を考慮し、再利用可能な物品や身近な物品等を活用して代用品を作成し、試用してみる。	工夫・開発した物品の実際の使用感、改善点をノートに整理しましょう。	4時間
第８回	**在宅看護過程の展開①筋萎縮性側索硬化症（ALS）の患者の看護**	筋萎縮性側索硬化症（ALS）の病態と必要な看護について事前学習をして授業に臨みましょう。	4時間

	（演習） 進行性の難病では、障害の進行に伴い対象に必要な援助が変化していくことを理解し、多職種連携を図り、社会資源を活用しながら対象者が自分らしい生活を送ることができるような看護援助について学修する。		
第９回	**在宅看護過程の展開②小児期の患者の看護** （演習） 疾患の重症度に加えて、対象の発達段階に応じた支援内容と在り方について学修する。また、家族も含めた在宅療養支援の実際について学修する。	小児で在宅療養が必要となる疾患について事前学習をして授業に臨みましょう。	4時間
第10回	**在宅看護過程の展開③精神疾患の患者の看護** （演習） 精神疾患を持ちながら在宅療養を行う対象に必要な看護について学修する。服薬管理や生活リズムを整えることにも目を向けた在宅療養支援の実際について学修する。	代表的な精神疾患について事前学習をして授業に臨みましょう。	4時間
第11回	**在宅看護過程の展開④在宅で終末期を迎える患者の看護** （演習） 在宅で終末期を迎える患者に必要な看護について学ぶ。対象が最期まで安楽で自分らしく生を全うすることができるために必要な看護について学修する。また、対象を支える家族支援における看護の役割を学修する。	緩和ケアについて事前学習をして授業に臨みましょう。	4時間
第12回	**グループワークと発表準備** （演習） 在宅看護過程の展開①から④で学んだ事例をもとにグループごとにディスカッションを行いながら、紙上事例に対する看護過程の展開を行う。次回の看護展開の発表に向けてグループの意見をまとめる。	グループ発表に向けてPower Pointで発表資料を作成し、プレゼンテーションの練習をしましょう。	4時間
第13回	**グループ発表とディスカッション** （演習） 第12回でまとめた看護過程の展開をグループごとに発表する。発表後はディスカッションを行い、意見交換を行う。	ディスカッションから学んだ他学生の意見や教員の助言をまとめ、ノートに整理しましょう。	4時間
第14回	**在宅看護過程のまとめ** 在宅看護における看護過程の展開の要点を理解する。	在宅看護過程の展開について、これまで学んだことを実習で活用できるようノートに整理しておきましょう。	4時間

733

授業科目名	地域・在宅看護学実習				
担当教員名	阿部真幸・久保里香・中島一成・坂谷麻有				
学年・コース等	3年	開講期間	通年	単位数	3
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	阿部真幸（大学病院にて看護師として勤務）、久保里香（病院および老人介護保健施設にて看護師として勤務）、中島一成（看護師として病院勤務）、坂谷麻有（病院にて看護師として勤務）				

授業概要

訪問看護ステーションでの実習を通して、地域で生活している在宅療養者・要介護者とその家族に対する理解を深める。対象者を包括的にアセスメントし対象者の特性に応じた看護計画を立案・実施することにより、看護実践に必要な能力と態度を養う。また、対象者が生活している地域のケアシステムや保健医療福祉の社会資源について理解を深め、関係機関・職種と連携・協働した看護実践の方法を学ぶ。さらに、学生が担当した対象者が地域で生活し続けるために必要となるケアシステムや社会資源、看護師の役割・機能について考察する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自立して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる	訪問看護ステーションの実習をとおして、在宅療養者・家族の療養生活の実態や訪問看護特性を理解し、今後の在宅看護のあり方を考える	在宅療養者・家族の多用性と生活状状況を理解し、地域に終える在宅療養上の課題を考察することができる
2. DP2.人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる	対象者を包括的にアセスメントし対象者の特性に応じた看護計画を立案・実施する	在宅療養者・家族を包括的にアセスメントし、対象者の特性に応じた看護計画を立案し、指導のもとで看護実践することができる
汎用的な力		
1. DP3.地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる		多様なニーズをもつ在宅療養者・家族に対する保険・医療・福祉・介護分野の多職種連携と在宅看護の役割を理解できる
2. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自律して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる		在宅療養者・家族に対して、人権や尊厳を遵守した謙虚な態度で対応でき、適切な行動をとることができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

カンファレンスでの討議内容、技術習得状況、実習記録、レポートなども評価に加える。

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
参加態度・技術習得度、実習記録および実習後のレポート	： 左記の内容を総合的に判断する。 ※原則として実習は3単位（3週間）の実習参加を基本とする。

100 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

篠崎惠美子著「事例から学ぶ地域・在宅看護論：訪問時のお作法から実習のポイントまで」医学書院　2021年
山田律子編著「生活機能からみた老年看護過程　第4版：病態・機能関連図」医学書院　2020年
加盟智子編「根拠と事故防止からみた老年看護技術　第3版」医学書院　2020年

履修上の注意・備考・メッセージ

別途配布する実習要項を確認し、実習に臨んでください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　初回授業時に連絡します。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**臨地実習** 訪問看護ステーションでの3単位（3週間）の実習を履修する。実習先の訪問看護ステーションの概要と特徴、訪問看護が行われる地域の社会資源（フォーマル、インフォーマル）の状況等のオリエンテーションを受けた後、訪問看護師に同行し、指導のもとで在宅療養者・家族に対する看護ケアの見学・実施を行う。また、実習期間中に臨地実習指導者、教員の指導のもとで、在宅療養者1名を受け持ち看護過程を展開し、実習の中間及び最終日に実施結果および評価等を報告する。	・在宅療養者に多く見られる症状や疾病の理解には、疾病治療論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの復習をする。・在宅療養者の多くが高齢者であるため、高齢者看護学について十分に復習して実習に臨む。・実習中に実施・見学したケアについては各自で振り返りを行い、教科書や授業資料の該当部分を読んで復習する。	60時間

授業科目名	**精神看護学概論**				
担当教員名	北島謙吾・近田真美子				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	北島謙吾（看護師として精神専門病院の勤務経験あり）、近田真美子（看護師として病院の精神科病棟勤務経験あり）				

授業概要

精神看護学をとりまく環境と社会的・医療的課題とニーズ、精神保健福祉制度と地域の精神保健福祉活動について理解を深める。自我の成長発達と心の仕組み・自我機能を理解し、人の心理社会的反応の主要概念を学習する。精神看護の主な理論とモデル、人間関係における主要概念を理解し、精神看護の役割と機能を考える。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2.人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる	精神看護学をとりまく環境と社会的・医療的課題とニーズ、精神保健福祉制度と地域の精神保健福祉活動について理解を深める。自我の成長発達と心の仕組み・自我機能を理解し、人の心理社会的反応の主要概念を学習する。	精神看護学をとりまく環境と社会的・医療的課題とニーズについて学修し、自我の成長発達と心の仕組み・自我機能および人の心理社会的反応の主要概念を理解することができる。
汎用的な力		
1. DP3.地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる		社会的・医療的課題とニーズ、精神保健福祉制度と地域の精神保健福祉活動について理解し、精神看護の主な理論とモデル、人間関係における主要概念を理解し、精神看護の役割と機能を考えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・問答法・コメントを求める

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験	80 %	： 授業の理解度を定期試験にて評価する。
授業参加状況およびミニレポート	20 %	： 授業参加の様子とミニレポート内容を評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
萱間真美/稲垣中	・ 精神看護学I こころの健康と地域包括ケア改訂第3版 現代に生きる人々のこころの健康を支える	・ 南江堂	・ 2022 年
萱間真美/稲垣中	・ 精神看護学II 地域・臨床で活かすケア改訂第3版 対象者の力を引き出し支える	・ 南江堂	・ 2022 年

参考文献等

萱間真美/リカバリー・退院支援・地域連携のためのストレングスモデル実践活用術/医学書院　ISBN：9784260027984

履修上の注意・備考・メッセージ

講義やグループワークでは積極的に参加してください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　オフィスアワー（木曜日4限）を活用してください。オフィスアワーに変更が有る場合は初回授業にてお伝えします。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**4/12 精神看護学の対象者についての理解** 精神看護学の目標と科目概要 精神看護の対象が全ての健康レベルの人・一般住民のメンタルヘルス教育、患者・家族、災害被災者等である事を学ぶ。	シラバスを参考にして、授業の目的と概略をつかみましょう。	4時間
第2回	**4/19 ライフサイクルと成長・発達** ﾊﾟｰｿﾅﾘﾃｨの発達と適応/自我の構造と機能 こころの仕組みと自我機能・意識・無意識の世界をフロイト・ユング・マーラー・ボウルビーなどから学び、人の成長発達の理解を深める。	講義内容についてノートを整理し、理解しましょう。	4時間
第3回	**4/26 ライフサイクルと危機** ﾗｲﾌｻｲｸﾙ各期の発達と健康障害、危機と対象喪失 エリクソンの発達課題と発達危機、リンデマン・ボウルビー・キューブラロスらの対象喪失と危機理論から発達的・状況的に遭遇する各々の危機を学ぶ。	講義内容についてノートを整理し、理解しましょう。	4時間
第4回	**5/10 各期の危機と支援** ライフステージ各期の危機、虐待被害と支援 近年社会問題として予防と支援が求められている、児童虐待による健康被害・健康障害、そして保健医療・福祉・司法・親権制度など多面的なサポートを学ぶ。	講義内容についてノートを整理し、理解しましょう。	4時間
第5回	**5/17 災害看護** 災害看護・心的外傷と反応 昔から地震や風水害など自然災害が多発している日本において、被災地における重要な災害支援・被災者ケアを、近年の災害看護の視聴覚教材と調査報告から詳しく学ぶ。	講義内容についてノートを整理し、理解しましょう。	4時間
第6回	**5/24 ストレスと適応** ストレスと適応 ストレス研究をセリエの生理学的実験研究から心理社会的生活事件ストレス・身近な日常生活ストレスへとその変遷を学習し、学生自らが自己のストレッサーや対処方法について演習から気付く。	講義内容についてノートを整理し、理解しましょう。	4時間
第7回	**5/31 依存と自立** 依存と自立 健康的な依存・不健康・病的依存について、依存対象や内容を人の成長発達および心理・文化社会的背景からも理解する。アルコール・薬物依存症、近年のWHOでの依存症への動向も学習する。	講義内容についてノートを整理し、理解しましょう。	4時間
第8回	**6/7 精神看護の理論・対人関係論** 精神看護の理論とモデル(1)　対人関係論 近代看護の変遷としてペプロウ、トラベルビー、リディアホールらの理論モデルを学び、それらの理論的根拠となったサリバン、フランクル、ロジャーズを理解する。	対人関係論についてノートを整理し、理解しましょう。	4時間
第9回	**6/14 精神看護の理論・セルフケア看護論** 精神看護の理論とモデル(2)　セルフケア看護論 欧米の契約社会の歴史文化背景、オレムのセルフケア欠如の看護理論を学び、日本の精神看護現場への適応例を疾患病態生理、病院環境から理解する。	セルフケア看護論についてノートを整理し、理解しましょう。	4時間
第10回	**6/21 人間関係の理解（1）自己概念と自尊感情** 人間関係の理解(1)　自己概念と自尊感情 患者・他者を理解する前提としての自己理解・自己受容を、自己概念・自己受容などをスーパービジョン・アサーティブ訓練等の理解を通して学ぶ。	自己概念と自尊感情についてノートを整理し、理解しましょう。	4時間
第11回	**6/28 人間関係の理解（2）コミュニケーションと自己開示** 人間関係の理解(2)　コミュニケーションと自己開示 コミュニケーションプロセスについて、言語・非言語メッセージ、対面位置・対人距離から効果的な意思伝達方法を学び、看護援助場面への効果的活用を考察する。	コミュニケーションと自己開示講義内容についてノートを整理し、理解しましょう。	4時間

第12回	**7/5 人間関係の理解（３）社会的役割と健康逸脱** 人間関係の理解（３）　社会的役割と健康逸脱 人間社会での役割理論と役割行動を学び、人が病気になったり回復した際に社会や家庭でどの様にサポートを受け、QOLを高め、自立に寄与するのか考察する。	健康逸脱と役割理論についてノートを整理し、理解しましょう。	4時間
第13回	**7/12 概論のまとめ** 精神看護概論まとめ 精神看護をとりまく環境と社会的・医療的課題とニーズについて理解を深め、精神看護の主な理論とモデル、人間関係における主要概念を理解し、精神看護の役割と機能を考察する。	講義内容についてノートを整理し、理解しましょう。	4時間
第14回	**7/19 全体まとめ** 総まとめ 精神看護をとりまく環境と社会的・医療的課題とニーズについて理解を深め、精神看護の主な理論とモデル、人間関係における主要概念を理解し、精神看護の役割と機能を考察する。	講義内容についてノートを整理し、理解しましょう。	4時間

授業科目名	**精神看護学援助論**				
担当教員名	北島謙吾・近田真美子				
学年・コース等	2年	開講期間	通年	単位数	1
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	北島謙吾（看護師として精神専門病院の勤務経験あり）、近田真美子（看護師として病院の精神科病棟勤務経験あり）				

授業概要

人を援助する根拠となる理論と人間関係における主要概念を理解し、臨地における精神看護援助の基礎を学習する。特に人間関係における自己理解と他者理解、援助関係における看護師の基本姿勢と態度について学習を深める。さらに、疾患が患者および家族に及ぼす影響を理解し、信頼関係や治療的関係の形成に必要な受容・共感的コミュニケーションを講義演習を通して学習する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2.人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる	人を援助する根拠となる理論と人間関係における主要概念を理解し、人間関係における自己理解と他者理解、援助関係における看護師の基本姿勢と態度について学習を深める。	人を援助する根拠となる理論と人間関係における主要概念を理解し、人間関係における自己理解と他者理解、援助関係における看護師の基本姿勢と態度について考察することができる。
汎用的な力		
1. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自律して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる		臨地における精神看護援助の基礎を学ぶために、人間関係における自己理解と他者理解、援助関係における看護師の基本姿勢と態度について学習を深めることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験	80 %	： 授業の理解度を定期試験にて評価する。
授業参加状況およびミニレポート	20 %	： 授業参加の様子とミニレポート内容を評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
萱間真美/稲垣中	・ 精神看護学I こころの健康と地域包括ケア改訂第3版 現代に生きる人々のこころの健康を支える	・ 南江堂	・ 2022 年
萱間真美/稲垣中	・ 精神看護学II 地域・臨床で活かすケア改訂第3版 対象者の力を引き出し支える	・ 南江堂	・ 2022 年

参考文献等

北島謙吾他　「看護カウンセリング論」　学術研究出版　2017年　ISBN：9784865842159

履修上の注意・備考・メッセージ

講義やグループワークでは積極的に参加してください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項： オフィスアワー（木曜日4限）を活用してください。オフィスアワーに変更が有る場合は初回授業にてお伝えします。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**人間と環境の理解** 看護師自身のメンタルヘルス、リエゾン精神看護、人権尊重と看護師の倫理観、早期発見・早期加入、危機介入、リスクマネージメントを学ぶ。	シラバスを参考にして、授業の目的と概略をつかみましょう。人間と環境の理解についてノートを整理しましょう。	4時間
第2回	**看護における自己と他者理解** 自己理解と他者理解について 看護の先達であるペプロウ、オーランド、ウイーデンバックから患者・看護師の相互作用の再構成法を学ぶ。	看護における自己理解と他者理解について、整理し理解しましょう。	4時間
第3回	**自己の感情と態度** 自己開示と自己受容、感情と言動について 援助過程を、言語・非言語メッセージ、対人位置・対人距離からもその効果や影響を知り、感情と言動が患者・看護師関係に及ぼす意味について学ぶ。	自己開示と自己受容について、ノートを整理し理解しましょう。	4時間
第4回	**看護での対話の基本** 傾聴と感情の反映、共感と自己一致について プロセスレコードの演習を通して、自己の思い・感情と言動の一致・不一致を振り返る。相手の思いや感情への共感的態度・感情の反映を体験的に学ぶ。	傾聴と感情の反映、共感と自己一致について、ノートを整理し理解しましょう。	4時間
第5回	**対人援助方法** カウンセリングとコーチング、コンサルテーション 近年コーチング、コンサルテーションが注目されつつあり、看護におけるカウンセリングとそれらの違いについて、自己学習を通してまとめて理解する。	カウンセリングとコーチング、コンサルテーションについて、ノートを整理し理解しましょう。	4時間
第6回	**看護への活用** 看護師が行うカウンセリング援助について 精神看護におけるカウンセラーの役割について、ペプロウが「対人関係の看護論」で唱えた意図を考察し、自分の考えをまとめる。	カウンセリング援助について、ノートを整理し理解しましょう。	4時間
第7回	**精神看護学まとめ** 援助論のまとめ 精神看護援助論を振り返って、臨地における精神看護援助の基礎、特に人間関係における自己理解と他者理解、援助関係における看護師の基本姿勢と態度についてまとめる。	援助論を振り返って、ノートを整理、理解しましょう。	4時間

授業科目名	**精神看護学援助方法論**				
担当教員名	北島謙吾・近田真美子・松井芽衣子				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	北島謙吾（看護師として精神専門病院の勤務経験あり）、近田真美子（看護師として病院の精神科病棟勤務経験あり）、松井芽衣子（看護師として病院の心療内科病棟勤務経験あり）				

授業概要

精神障害の経過（急性期、入院・退院、回復期、慢性期）に伴う看護を学ぶと共に、精神科における主な治療法と看護の役割について学習を深める。また、精神障害者の社会参加支援と精神科リハビリテーションについて、精神保健医療福祉の法制度の変遷から理解する。さらに、精神障害者のケーススタディ（看護過程展開）を適宜視聴覚機器を用いて実施する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2.人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる	精神障害の経過（急性期、入院・退院、回復期、慢性期）に伴う看護を学ぶと共に、精神科における主な治療法と看護の役割について学習を深める。	精神障害の経過（急性期、入院・退院、回復期、慢性期）に伴う看護について学修し、精神科における主な治療法と看護の役割について理解することができる。
汎用的な力		
1. DP3.地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる		精神障害者の社会参加支援と精神科リハビリテーションについて、精神保健医療福祉の法制度の変遷から学修し、その必要性と看護師の役割を理解できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・その他(以下に概要を記述)

既修の主関連科目(疾病治療論Ⅲ、精神看護学概論、精神看護学援助論)の知識と連動させて、問答・コメントを求める。臨地実習を想定した個人ワークの実施と共に、事前学習および授業後の復習を求める。

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験	80 %	： 授業の理解度を定期試験にて評価する。
演習参加状況およびミニレポート	20 %	： 演習参加の様子とミニレポート内容を評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
萱間真美/稲垣中	・ 精神看護学I こころの健康と地域包括ケア改訂第3版 現代に生きる人々のこころの健康を支える	・ 南江堂	・ 2022 年

萱間真美/稲垣中	・ 精神看護学II 地域・臨床で活かすケア改訂第3版 対象者の力を引き出し支える	・ 南江堂	・ 2022　年

参考文献等

木戸芳史編著/クライエントとともに創るコプロダクション型精神看護過程 基礎知識・事例＆計画シートで実践に活かす/中央法規
ISBN；9784805889374
萱間真美/リカバリー・退院支援・地域連携のためのストレングスモデル実践活用術/医学書院
ISBN；9784260027984

履修上の注意・備考・メッセージ

講義やグループワークでは積極的に参加してください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　オフィスアワーは開講時にお伝えします。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**精神障がいを知る(1)　発病～急性期** 精神障害の経過と治療・看護 ①　発病～急性期 精神科入院制度（精神保健福祉法）、薬物療法の動向・アドヒアランス・コンコーダンスモデルを学ぶ。	シラバスを参考にして、授業の目的と概略をつかみましょう。 発病～急性期について、ノートを整理し理解しましょう。	4時間
第2回	**精神障がいを知る(2)　通院治療・入院治療** 精神障害の経過と治療・看護②　通院治療・入院治療 病院・地域の個別・集団援助（OT/SST/自助グループ・オープンダイアローグ）・多職種連携、発達障害・メンタルヘルス支援（家庭・学校・職場）を学ぶ。	通院治療・入院治療について、ノートを整理し理解しましょう。	4時間
第3回	**精神障がいを知る(3)　回復期～寛解・退院** 精神障害の経過と治療・看護③　回復期～寛解・退院 障害の概念WHO・ノーマライゼーション、就労支援、通リハ事業、リワークプログラム、ジョブコーチ、ハローワーク、人権擁護、後見人制度他を学ぶ。	回復期～寛解・退院について、ノートを整理し理解しましょう。	4時間
第4回	**精神科の看護とケア技法(1) 傾聴と感情の反映、共感と自己一致** ① 傾聴と感情の反映、共感と自己一致 プロセスレコードの演習を通して、自己の思い・感情と言動の一致・不一致を振り返る。相手の思いや感情への共感的態度・感情の反映を体験的に学ぶ。	傾聴と感情の反映、共感と自己一致について、ノートを整理し理解しましょう。	4時間
第5回	**精神科の看護とケア技法(2)主な精神療法と看護** ②主な精神療法と看護 近代精神療法の変遷を、フロイト・ユングの精神分析、ロジャーズの人間性心理学、スキナーの実験・学習心理学、日本独自の森田療法などを理解し、看護との接点を学ぶ。	主な精神療法と看護について、ノートを整理し理解しましょう。	4時間
第6回	**精神科の看護とケア技法(3)生活療法・活動療法と看護** ③生活療法・活動療法と看護 フランス・ピネル～ピュサンの精神病者の道徳療法、京都岩倉の寺院・家庭看護、ベルギーゲール民家ケア、呉秀三の作業療法から今日への軌跡を理解し看護に繋げる。	生活療法・活動療法と看護について、ノートを整理し理解しましょう。	4時間
第7回	**精神障害者への社会参加支援(1)精神保健医療福祉における法制度の変遷** ①精神保健医療福祉における法制度の変遷 精神病者監護法、精神衛生法、精神保健法（福祉法）、障害者基本法、心身喪失者医療観察法、障害者自立支援法、障害者総合支援法の変遷を学ぶ。	精神保健医療福祉における法制度の変遷について、ノートを整理し理解しましょう。	4時間
第8回	**精神障害者への社会参加支援(2)在宅ケアを支える社会資源のネットワーク** ②在宅ケアを支える社会資源のネットワーク 精神保健医療福祉の動向（統計・現状・課題）、精神科訪問看護、デイケア・就労支援A・B型事業所 、日本の現状と課題、欧米（イタリア・アメリカ）の動向と現状。	在宅ケアを支える社会資源のネットワークについて、ノートを整理し理解しましょう。	4時間
第9回	**精神看護過程の理論モデル** セルフケア看護モデル、リカバリーモデル、ストレングスモデル、臨床判断モデルの講義、演習①	精神看護過程の理論モデル について、ノートを整理し理解しましょう。	4時間
第10回	**精神看護モデルと事例展開(1)急性期事例** 急性期事例における看護過程の展開　演習②	急性期事例における看護過程の展開について、ノートを整理し理解しましょう。	4時間
第11回	**精神看護モデルと事例展開(2)慢性期事例** 慢性期事例における看護過程の展開　演習③	慢性期事例における看護過程の展開について、ノートを整理し理解しましょう。	4時間
第12回	**精神看護モデルと事例展開(3)回復（寛解）期事例** 回復（寛解）期事例における看護過程の展開　演習④	回復（寛解）期事例における看護過程の展開について、ノートを整理し理解しましょう。	4時間

第13回	**精神看護モデルと事例展開(4)在宅事例** 在宅事例への地域ケア・訪問看護の展開　演習⑤	在宅事例への地域ケア・訪問看護の展開について、ノートを整理し理解しましょう。	4時間
第14回	**援助論の総まとめ** 精神看護援助論まとめ 精神障害者の社会参加支援と精神看護援助について、精神保健医療福祉の法制度の変遷から学修し、その必要性と看護師の果たすべき役割と責務について理解を深める。	演習と講義内容を振り返って、ノートを整理し理解しましょう。	4時間

733

授業科目名	精神看護学実習				
担当教員名	北島謙吾・近田真美子・松井芽衣子				
学年・コース等	3年	開講期間	通年	単位数	2
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	担当する看護教員は、すべて臨床現場（病院ほか）における実務経験を有している。				

授業概要

精神看護学で学んだ知識、技術と看護師の態度を統合させて、精神機能に障がいを持つ人と家族を理解し、個別的な看護を実践できる基礎的能力を養うために、実習を通して体験的に学習する。精神健康上の困難を抱える患者を1名受け持ち、日常生活支援にかかわりながら、対象者及び家族をとりまく環境を理解し、援助計画を立案する。計画に基づき、ケアを実践していく。また対象者との関係性の構築を通して、自己理解を深めていく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2.人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる	精神健康上の困難を抱える患者を1名受け持ち、日常生活支援にかかわりながら、対象者及び家族をとりまく環境を理解し、援助計画を立案、計画に基づき、ケアを実践する。	精神健康上の困難を抱える患者の日常生活支援にかかわりながら、対象者及び家族をとりまく環境を理解し、援助計画を立案、計画にに基づき、ケアの実践ができる。
汎用的な力		
1. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自律して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる		精神健康上の困難を抱える患者との関係性の構築を通じて、自己理解を深めることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
参加態度、技術の習得度、実習記録、実習後レポート	： 左記内容を総合的に判断する ※原則として実習は1単位（1週間）実習参加を基本とする

100 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜、紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

別途配付する実習要項を確認し、実習に臨んでください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　授業開始時に提示します。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**実習** 実習の進め方　・1グループ5～6名に編成し、原則として1グループに1名の教員がたんとうして指導を行う。　精神健康上の困難を抱える患者を1名受け持ち、日常生活支援にかかわりながら、対象者及び家族をとりまく環境を理解し、援助計画を立案する。計画に基づき、ケアを実践していく。また、対象者との関係性の構築を通じて、自己理解を深めていく。 1）事前学習　学生は自身の実習体験をより深めるために、①実習施設の概要や特徴について② 代表的な疾患や援助方法、社会資源について各自で予習・復習してから実習に臨む 2）オリエンテーション　病院・病棟オリエンテーションを受け、病院・病棟の概要・特性、構造の特徴などを理解する。病棟配置およびグループ編成は教員が行い、実習初日のオリエンテーションで発表する。 3）実習最終日には実習成果のまとめを行い、グループでの学びを発表・討議して学習を深める。1日目：臨地にて精神看護学実習のオリエンテーションを受け、治療的環境について理解する。受け持ち患者を決定し、実習の同意を得る。　2日目：対象者の情報収集を行いセルフケアなどについて把握する。カンファレンスにおいて、プロセスレコードの検討を行い、自身のコミュニケーションの特徴に気づく。　3日目：対象者の情報収集を行い、セルフケアの視点から対象を把握する。患者との関係を形成する。4日目：対象者の情報収集を行うと共に、対象者の希望や思いを理解する。　5日目・6日目：(次週)以降の看護の方向性について考える。中間カンファレンスにて、来週からの看護展開について発表し助言をを得る。　6日目～9日目：看護計画に基づいて、看護実践と振り返りを行う。　10日目：対象者にお礼を伝え（感情の共有）、関係の終結を行う。最終カンファレンスにて、実習で学んだことを発表する。	当日の実習記録及び翌日の実習計画など	2時間
			2時間
			2時間
			2時間
			2時間
			2時間
			2時間

授業科目名	**母性看護学概論**				
担当教員名	飯尾祐加				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	助産師として病院および助産院で勤務経験あり				

授業概要

周産期の対象とその家族の生活・健康・安全、看護の概念について考え、母性看護ケアを提供することの意味を探究する。また、母性看護学の歴史・役割・機能・責務とこれからの可能性について考え、保健医療福祉分野の性と生殖の課題について看護職の果たす役割の理解を深める。周産期の対象の身体的・心理社会的変化、その取り巻く環境について理解し、母子を中心とした子育てへの看護援助について理解する。更に、リプロダクティブヘスス／ライツについても理解する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自立して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる	母性看護の基盤となる生命倫理や母子関係、ヘルスプロモーション等の概念を学ぶ。	女性の健康を考える上で必要な概念を理解し、説明できる。
2. DP2.人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる	母子保健の変遷と現状の背景を学ぶ。	女性の健康に影響す社会システム・環境を政策や統計、歴史から学び、説明できる。
汎用的な力		
1. DP3.地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる		子どもを産み育てることへの看護支援と専門職の役割について理解できる。
2. DP3.地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる		妊産褥婦とその家族にとっての、子どもを産み育てることの意味を理解できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
課題学習の提出内容等による総合評価	20 %	： 授業後に提出するミニレポート
定期試験	80 %	： テキストと講義資料の範囲の理解について評価

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
中込さと子・小林康江・荒木奈緒編	・ナーシンググラフィカ 概論・リプロダクティブヘルスと看護	・メディカ出版	・2024 年

参考文献等

適宜授業中に提示

履修上の注意・備考・メッセージ

授業中のグループワーク、問答について積極的に参加し、テキスト・講義資料の理解を深めてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項： 初日に提示する。アポイントを取ってオフィスアワーを活用してください。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**母子保健の動向** 母性看護学の対象について理解する。 女性とその家族を取り巻く環境と健康問題を母子保健統計から理解する。また諸外国と比較し考察する。	日本の母子保健統計から日本の特徴をつかみましょう	4時間
第2回	**日本における子育て** 日本における子育ての現状を分析し、諸外国と比較し考察する。	社会における母子保健の現状に目を向ける習慣をつけましょう。	4時間
第3回	**母子保健の変遷** 日本における出産の歴史、女性の歴史、看護師・助産師の歴史を学修する。そしてそれらの変遷による法律や施策について学修する。	法律とその経緯・目的を整理しましょう。	4時間
第4回	**母子保健と社会資源** 母子保健にかかわる法律と憲章、ならびに社会資源について学修する。	社会福祉と社会保障を復習しましょう。	4時間
第5回	**母性看護学の基本となる概念と理論** 母性看護学で用いる概念と理論を学修する。	母子保健の現状と理論の関係を考察しましょう。	4時間
第6回	**母性看護学と家族看護学** 母性における家族の役割と家族の発達課題について学修する。	発達心理を復習しましょう。	4時間
第7回	**性と生殖に関わる器官と機能** 妊娠成立のための生体の解剖生理と機能、妊娠成立のための要件について学修する。	人体の構造と機能を復習しましょう。	4時間
第8回	**性と生殖に関わる健康課題** 性分化、ジェンダー、遺伝等々性に関わる健康課題について学修する。	人体の構造と機能を復習しましょう。	4時間
第9回	**女性を取り巻く社会と健康問題** 女性のライフサイクル各期における健康課題と看護援助について学修する。	発達心理を復習しましょう。	4時間
第10回	**母性・父性の発達** 母性・父性の発達を、看護・心理・教育・社会等々の視点で学修する。	発達心理を復習しましょう。	4時間
第11回	**リプロダクティブヘルスにおける健康問題①　性に関する健康** リプロダクティブヘルスの課題について理解を深める。 性感染症、人工妊娠中絶	自身の性について考えましょう。	4時間
第12回	**リプロダクティブヘルスにおける健康問題②　不妊症** リプロダクティブヘルスの課題について理解を深める。 不妊症の理解と取り巻く背景を学修する。	自身の性について考えましょう。	4時間
第13回	**地域母子保健①　地域における家族を取り巻く健康課題** 社会で生じている母子や家族間の健康問題について理解を深める。	社会で生じている母性看護領域の課題について確認しましょう。	4時間
第14回	**地域母子保健②　地域における専門職の役割** 地域における助産所の役割、母子保健の国際的協力について学修する。	世界における日本の母子保健を再確認しましょう。	4時間

授業科目名	**母性看護学援助論**				
担当教員名	飯尾祐加・青山桂子				
学年・コース等	2年	開講期間	通年	単位数	1
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	飯尾祐加（助産師として病院および助産院で勤務経験あり）、青山桂子（看護師として病院勤務および助産師として病院・助産院で勤務経験あり）				

授業概要

周産期の女性と子ども、そのパートナーを中心とした家族の健康が焦点となることを理解する。対象となる女性の妊娠・出産・産褥・育児期の身体的変化や心理社会的変化、新生児の特徴的な生理を理解し、それに伴う生活への適応過程を学修する。また、母子の健康に影響を及ぼすハイリスク妊娠についても学修する。
母性看護学の対象における健康課題の解決や健康増進に向けた看護援助、健康の逸脱を早期に発見し予防的看護援助を展開できるための根拠となる基礎的な知識を学修する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自立して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる	妊娠・出産・産褥期における女性の変化や胎児の成長発達、新生児の子宮外生活適応過程を学ぶ。	妊娠期・分娩期・産褥期に生じる心身の変化、新生児の生理を説明できる
2. DP2.人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる	妊娠・出産・産褥期における女性の心理社会的変化について学ぶ。	妊娠・出産・産褥期における女性の心理社会的変化を理解し援助できる。
汎用的な力		
1. DP3.地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる		正常過程の観察から正常からの逸脱を予防するための援助を考えることができる。
2. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自律して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる		女性が自らの能力を生かして健康を維持・増進するために必要な看護方法を学び、実践できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
課題学習の提出内容等による総合評価	20 %	： 授業中に示した課題のミニレポート
定期試験	80 %	： テキストと講義資料の範囲の理解について評価

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
小林康江・中込聡子、荒木奈緒編	・ ナーシンググラフィカ 母性看護の実践	・ メディカ出版	・ 2024 年

参考文献等

適宜、授業中に提示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

授業中の問答やグループワークに積極的に参加し、テキストや講義資料について理解を深めてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項： 初日に提示します。アポイントを取って、オフィスアワーを活用してください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**妊娠期の生理と胎児の成長発達** 妊娠に関する定義、妊娠の成立・経過・生理について学修する。 妊娠の経過とそれに伴う胎児の成長発達について学修する。	母性看護学における理論を復習しましょう。	4時間
第2回	**妊娠が母子に及ぼす影響** 妊娠が母子に及ぼす身体的心理社会的変化を学修する。	人体の構造と機能の復習と正常値を整理しておきましょう。	4時間
第3回	**妊娠期のハイリスク** 妊娠期におけるハイリスクについて理解し、母子に及ぼす影響を学修する。	人体の構造と機能の復習と正常値を整理しておきましょう。	4時間
第4回	**分娩期の生理と母子に及ぼす影響** 分娩のメカニズムと正常な分娩経過を学修する。更に、分娩が母子に及ぼす身体的心理社会的影響について学修する。	人体の構造と機能の復習と正常値を整理しておきましょう。	4時間
第5回	**産褥期の生理と女性に及ぼす影響** 産褥期の身体的正常経過を学修する。さらに、女性の心理社会的背景を学修する。	人体の構造と機能の復習と正常値を整理しておきましょう。	4時間
第6回	**新生児の生理** 子宮外生活の適応過程について学修する。	人体の構造と機能の復習と正常値を整理しておきましょう。	4時間
第7回	**母乳育児支援と新生児の生理機能との関連** 褥婦の乳房の変化と新生児の栄養への関連について、母乳育児を中心に学修する。	新生児の生理の復習と正常値を整理しておきましょう。	4時間

授業科目名	**母性看護学援助方法論**				
担当教員名	飯尾祐加・青山桂子・田中弥生				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	飯尾祐加（助産師として病院および助産院で勤務経験あり）、青山桂子（看護師として病院勤務および助産師として病院・助産院で勤務経験あり）、田中弥生（助産師として病院勤務経験あり）				

授業概要

妊産褥婦と新生児の身体的心理社会的特徴を基本とした上で、対象を個別的に理解するために必要な基本的な母性看護技術（妊婦健康診査、胎児のwell-being評価、産後健康診査、新生児健康診査、新生児の日常生活援助等）を学修する。また事例に寄り添った健康課題の分析、それに基づく援助の立案とそれに対する評価方法について学修する。妊娠・分娩・産褥期各期の女性、新生児の正常からの逸脱とその援助について学修する。授業は、講義、技術演習、事例展開（正常経過事例、正常からの逸脱事例等）で行う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自立して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる	対象を理解するための周産期の臨床で展開される看護支援方法に学ぶ。	周産期にある対象を理解するための情報を安全に的確に収集できる。
2. DP2.人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる	周産期にある対象をアセスメントする方法を学ぶ。	周産期の臨床場面で必要とされる特有の看護技術を実施、評価できる。
汎用的な力		
1. DP3.地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる		正常からの逸脱時の健康問題と看護援助を展開できる。
2. DP3.地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる		周産期にある女性や家族がより健康に生活するための看護援助を説明できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
課題学習の提出内容等による総合評価 70 %	： 授業中に提示した課題のレポート

定期試験　　：　テキストと講義資料の範囲の理解について評価

30　%

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
荒木奈緒・中込さと子・小林康江編	・ナーシンググラフィカ 母性看護技術	・メディカ出版	・2024　年

参考文献等

適宜、授業中に提示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

母性看護学概論、母性看護学援助論の理解が前提の授業です。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　初日に提示する。アポイントを取って、オフィスアワーを活用してください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**妊娠期の看護援助①　妊婦・胎児の健康診査** 妊婦の健康、胎児のwell-beingをアセスメントするための情報収集方法と評価、援助について理解する。	正常値を整理しておきましょう。	4時間
第2回	**妊娠期の看護援助②　妊婦の日常生活援助** 妊婦の日常生活をアセスメントするための情報収集方法と評価、援助について理解する。 更に、事例を用いてアセスメントプロセスを学修する。	正常値を整理しておきましょう。	4時間
第3回	**分娩期の看護援助** 産婦の健康と分娩進行状態をアセスメントする情報集方法と評価、援助について理解する。	正常値を整理しておきましょう。	4時間
第4回	**産褥期の看護** 褥婦の健康をアセスメントするための情報収集方法と評価、援助について理解する。また、授乳支援における基本的な援助について理解する。	正常値を整理しておきましょう。	4時間
第5回	**新生児への援助** 新生児の健康と成長発達をアセスメントする情報集方法と評価、援助について理解する。	正常値を整理しておきましょう。	4時間
第6回	**産褥期・新生児期の健康逸脱** 褥婦や新生児の健康状態の逸脱に対しての以上の早期発見や、逸脱時における処置やケアを理解できる。	正常値を整理しておきましょう。	4時間
第7回	**母性看護学における看護技術演習①　妊婦・産婦・褥婦・新生児への看護技術** 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の母性看護後術を学修する。	正常値を整理しておきましょう。	4時間
第8回	**母性看護学における看護技術演習②　妊婦・産婦・褥婦・新生児への看護技術** 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の母性看護技術を学修する。	正常値を整理しておきましょう。	4時間
第9回	**母性看護学における看護技術演習③　妊婦・産婦・褥婦・新生児への看護技術** 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の母性看護技術を学修する。	正常値を整理しておきましょう。	4時間
第10回	**妊娠期・分娩期の看護過程展開①** 妊娠期・分娩期の事例を用いて、アセスメント過程について学修する。	正常値を整理しておきましょう。	4時間
第11回	**産褥期・新生児期の看護過程展開①** 第10回における事例の妊娠期・分娩期のアセスメントを踏まえて、産褥期・新生児期のアセスメント課程を学修する。	妊娠期のアセスメントを復習して臨みましょう。	4時間
第12回	**産褥期・新生児期の看護過程展開②** 第10・11回における事例のアセスメント過程を踏まえて、看護計画の立案を学修する。	産褥期・新生児期のアセスメントを復習して臨みましょう。	4時間
第13回	**母性看護学事例のシナリオ演習①** 産褥期・新生児期における看護技術をモデルを使用してシナリオ演習を実施する。学生個々の学びをデブリーフィングで理解を深める。	12回までの講義を復習して臨みましょう、	4時間
第14回	**母性看護学事例のシナリオ演習②**	母性看護学の各科目を復習して臨みましょう。	4時間

分娩期における看護技術を、モデルを使用しシナリオ演習を実施する。学生個々の学びをデブリーフィングで理解を深める。		

733

授業科目名	**母性看護学実習**				
担当教員名	飯尾祐加・青山桂子・田中弥生				
学年・コース等	3年	開講期間	通年	単位数	2
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	飯尾祐加（助産師として病院および助産院で勤務経験あり）、青山桂子（看護師として病院勤務および助産師として病院・助産院で勤務経験あり）、田中弥生（助産師として病院勤務経験あり）				

授業概要

周産期にある事例を受け持ち、妊娠・分娩・産褥期にある母親・子ども・父親/パートナーとその家族の健康問題を、ライフサイクルの視点と社会生活を営む人としての視点から理解する。その理解に基づき対象の価値観を尊重し、安全なケアとなる根拠を示すと共に保証し、対象のセルフケア能力をより高める個別的な援助を実施、評価し考察する。また、地域で生活している母子に対する健康課題についても同様に考察する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自立して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる	母性看護の対象者の個別性やウエルネスの視点を踏まえた看護過程を展開、実践し、更にその実践を評価する。	妊産褥婦とその家族の健康課題・問題を、生活と関連させて理解し判断できる。
2. DP2.人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる	母子とその家族への援助に関わる他職種や地域社会との連携及び保健医療チームの一員として看護職者の役割について学ぶ。	母子とその家族への援助に関わる他職種や地域社会との連携及び保健医療チームの一員として看護職者の役割について述べることができる。
汎用的な力		
1. DP3.地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる		看護援助を提供する上で、必要な看護技術を習得できる。
2. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自律して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる		看護実践上の課題を明確にして、自らの母性または父性について述べることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
実習記録、実習後のレポート等	60 %	： 左記内容を総合的に判断する
参加態度および知識の習得度	20 %	： 左記内容を総合的に判断する

個人面接　　：　左記内容を総合的に判断する

20　％

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

これまで学修した母性看護学、母性看護学援助論、母性看護学援助方法論の配布資料やテキスト等

履修上の注意・備考・メッセージ

※原則として実習は2単位（2週間）の実習参加を基本とする。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**臨地実習** ″京阪神の産科病棟や助産院、育児支援施設で、２単位（２週間）の実習を履修する。 母性看護の対象者の身体的心理社会的変化を理解し、健康課題をエビデンスを元に分析すると共に、具体的な援助方法を立案して実施し看護師の役割について考える。 ・入院中の妊婦あるいは産婦・褥婦を継続して受け持ち、必要な看護を提供する。 ・地域の周産期にある母性看護学の対象への支援を見学し、関連領域における専門職との連携について考える。″	対象者の健康課題を抽出するために、事前のデータ収集と分析を行い、支援に必要な技術を予習し、実習後は知識や技術の不足点について復習する。	4時間

授業科目名	小児看護学概論				
担当教員名	矢野芳美				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	看護師として病院の小児病棟勤務経験あり（14回）				

授業概要

子どもを取り巻く急速な環境変化の中で,次世代を担う子どもが健やかに心と身体を育むことができるよう，看護の視点から支援するために基礎となる考え方を学修する。子どもの権利，子どもの身体的・心理的・社会的特徴を理解し，子どもの全体像を捉える。また，病気・障害をもつ子どもや家族の特徴，看護の役割を学ぶ。さらに，入院・外来・在宅など，子どもを取り巻く環境や生活の場，小児保健の在り方や社会資源を活用することの理解を深める。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2.人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる	小児看護の対象である子どもと家族，小児看護の理念について考える。	小児看護の対象として子どもと家族を理解することができる。
2. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自立して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる	成長・発達の概念，小児期の特徴やその評価方法について学修する。	子どもの権利，子どもの身体的・心理的・社会的特徴を理解し，病気・障害をもつ子どもや家族の特徴，看護の役割を考えることができる。
汎用的な力		
1. DP3.地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる		現代の子どもと家族の健康問題について社会の変化から捉え，小児看護の役割について考えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験	70 %	： 講義した学習内容の理解度を評価します。
小テスト （3回） 小テスト （3回）	30 %	： 成長・発達の理解について，授業開始時に実施します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
二宮啓子，今野美紀	・小児看護学Ⅰ 小児看護技術 小児看護学概論・改訂第4版	・南江堂	・2023 年

参考文献等

授業中に適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

講義を中心に自己学習や演習を組み合わせた授業を展開していきます。
積極的な参加態度を期待します。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： オフィスアワーは初回授業時に連絡します

場所： 研究室S758

備考・注意事項： 授業の前後以外で質問したい場合は、事前にメールをくださると対応しやすいです。
矢野：yano-y@osaka-seikei.ac.jp

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**小児看護とは** 小児看護の対象を理解するため，子どもの範囲と区分，子どもの成長発達を支える家族と発達の理解を深める。	シラバスを読み，授業の概要をつかみましょう。	4時間
第２回	**小児看護の変遷　小児看護の意義と課題** 小児看護の変遷を学び，小児看護の意義を理解する。 現代社会の中で子どもを取り巻く環境を理解する。	小児看護の変遷について，教科書を読み理解を深めましょう。	4時間
第３回	**子どもの権利と看護** 子どもに対する倫理的配慮を学習し，子どもの最善の利益にかなう医療と看護について理解する。	子どもの権利について，社会状況を含めて理解し，講義を踏まえてノートに整理しましょう。	4時間
第４回	**小児看護と法律・施策** 母子保健の動向を学習し，子どもの健康を支える社会資源，制度について理解する。	母子保健に関する法律や施策について，講義を踏まえてノートに整理しましょう。	4時間
第５回	**子どもの成長・発達** 子どもの成長・発達の原理原則を学習し，子どもの成長・発達の影響要因について理解する。	子どもの成長・発達の原理原則について，講義を踏まえてノートに整理しましょう。	4時間
第６回	**乳児期の子どもの成長・発達①　新生児期・乳児期の形態的・機能的・心理的発達について** 新生児期・乳児期の子どもの形態的・機能的発達，心理社会的発達を理解する。	新生児期・乳児期の子どもの形態的・機能的発達，心理社会的発達について，講義を踏まえてノートを整理しましょう。	4時間
第７回	**乳児期の子どもの成長・発達②　乳児期の生活と家族への看護について** 乳児期の子どもの生活，家族への看護について学習し，乳児期によくみられる健康問題について理解する。	乳児期の子どもによくみられる健康問題について，ノートに整理しましょう。	4時間
第８回	**幼児期の子どもの成長・発達①　幼児期の形態的・機能的発達について** 幼児期の子どもの形態的・機能的発達を理解する。	幼児期の子どもの形態的・機能的発達について，ノートに整理しましょう。	4時間
第９回	**幼児期の子どもの成長・発達②　幼児期の心理社会的発達について** 幼児期の子どもの心理社会的発達を理解する。	幼児期の子どもの心理社会的発達について，ノートに整理しましょう。	4時間
第10回	**幼児期の子どもの成長・発達③　幼児期の生活行動の発達と看護について** 幼児期の子どもの生活行動の発達と看護，遊びの意義や家族への看護について学習し，幼児期によくみられる健康問題について理解する。	幼児期の子どもによくみられる健康問題について，ノートに整理しましょう。	4時間
第11回	**学童期の子どもの成長・発達①　学童期の形態的・機能的・心理社会的発達について** 学童期の子どもの形態的・機能的・心理社会的発達を理解する。	学童期の子どもの形態的・機能的・心理社会的発達について，ノートに整理しましょう。	4時間
第12回	**学童期の子どもの成長・発達②　学童期のセルフケアの発達と看護について** 学童期の子どものセルフケアの発達と看護について学習し，学童期によくみられる健康問題について理解する。	学童期の子どもによくみられる健康問題について，ノートに整理しましょう。	4時間
第13回	**思春期の子どもの成長・発達** 思春期の子どもの成長・発達と看護について学習し，思春期によくみられる健康問題について理解する。	思春期の子どもによくみられる健康問題について，ノートに整理しましょう。	4時間
第14回	**子どもの発達の評価** 子どもの形態的成長の評価，心理社会的発達の評価について理解する。	子どもの形態的成長の評価，心理社会的発達の評価の活用について理解しましょう。	4時間

授業科目名	**小児看護学援助論**				
担当教員名	**矢野芳美・辻野睦子**				
学年・コース等	2年	開講期間	通年	単位数	1
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	矢野芳美（看護師として病院の小児病棟勤務経験あり）（4回） 辻野睦子（看護師として小児専門病院の勤務経験あり）（3回）				

授業概要

健康課題・障害および入院が、子どもと家族に及ぼす身体的・心理的・社会的影響を理解する。また、発達段階により子どもが陥りやすい健康課題（症状）・障害の経過の特徴を踏まえたアセスメントの視点、発達段階に応じた看護の方法、診療に伴う援助技術を学修する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自立して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる	健康課題・障害および入院が，子どもと家族に及ぼす身体的・心理的・社会的影響について考える。	健康課題・障害および入院が，子どもと家族に及ぼす身体的・心理的・社会的影響を理解し，援助の必要性を考えることができる。
2. DP2.人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる	子どもの特徴を踏まえたアセスメントの視点，発達段階に応じた看護の方法，診療に伴う援助技術を学修する。	子どもの特徴を踏まえたアセスメントの視点，発達段階に応じた看護の方法，診療に伴う援助技術が理解できる。
汎用的な力		
1. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自律して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる		子どもや家族の置かれている状況を理解し，安全・安楽な生活を送るための援助を考えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験	80 %	： 講義した学習内容の理解度を評価します。
課題レポート	20 %	： 課題学習の提出内容を評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年

二宮啓子，今野美紀	・小児看護学Ⅰ 小児看護技術	小児看護学概論・改訂第4版	・南江堂	・2023 年
今野美紀，二宮啓子	・小児看護学Ⅱ 改訂第4版	小児看護支援論	・南江堂	・2023 年

参考文献等

授業中に適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

積極的な参加態度を期待します。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： オフィスアワーは初回授業時に連絡します

場所： 矢野：研究室S758、辻野：研究室S772

備考・注意事項： 授業の前後以外で質問したい場合は、事前にメールをくださると対応しやすいです。
矢野：yano-y@osaka-seikei.ac.jp
辻野：tsujino@osaka-seikei.ac.jp

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**病気・障害をもつ子どもと家族の看護** 病気・障害が子どもと家族に与える影響と子どもの健康問題について理解する。	病気・障害をもつ子どもと家族の健康問題，その看護について，ノートに整理しましょう。	4時間
第2回	**子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護** 入院中や外来受診中，在宅療養中，被災時の子どもと家族の状況を学習し，看護について理解する。	入院中や外来受診中，在宅療養中，被災時の子どもと家族看護について、ノートに整理しましょう。	4時間
第3回	**子どもにおける疾病の経過と看護①慢性期にある子どもと家族の看護** 子どもの慢性期の特徴や慢性状態が子どもに与える影響について学習し，慢性期にある子どもと家族の看護について理解する。	慢性期にある子どもと家族の看護について，ノートに整理しましょう。	4時間
第4回	**子どもにおける疾病の経過と看護②急性期にある子どもと家族の看護（急性期の特徴）** 子どもの急性期の特徴を学習し，急性期にある子どもと家族の看護について理解する。	急性期にある子どもと家族の看護について，ノートに整理しましょう。	4時間
第5回	**子どもにおける疾病の経過と看護③急性期にある子どもと家族の看護（症状別看護）** 一般状態，痛み，呼吸困難，発熱，脱水，腹部症状，発疹等の症状を学習し，症状がある子どもと家族の看護について理解する。	症状がある子どもと家族の看護について，ノートに整理しましょう。	4時間
第6回	**子どもにおける疾病の経過と看護④終末期にある子どもと家族の看護** 終末期の特徴を学習し，終末期にある子どもと家族の看護について理解する。	終末期にある子どもと家族の看護について，ノートに整理しましょう。	4時間
第7回	**子どもにおける疾病の経過と看護⑤周手術期にある子どもと家族の看護** 子どもの周手術期の特徴を学習し，周手術期にある子どもと家族の看護について理解する。	周手術期にある子どもと家族の看護について，ノートに整理しましょう。	4時間

授業科目名	**小児看護学援助方法論**				
担当教員名	矢野芳美・辻野睦子・尾崎玲奈				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	矢野芳美（看護師として病院の小児病棟勤務経験あり）（14回） 辻野睦子（看護師として小児専門病院の勤務経験あり）（14回） 尾崎玲奈（看護師として病院の小児病棟，NICU勤務経験あり）（14回）				

授業概要

成長・発達途上である子どもが,健康課題や障害を抱えることの身体的・心理的・社会的な影響を踏まえ,小児とその家族の尊厳および子どもの個性と発達段階に応じた看護援助を行うための方法を学修する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自立して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる	子どもによくみられる疾患・状況の事例を用いて，アセスメントし，看護問題を抽出，看護計画を立案する。	健康課題や障害をもつ子どもと家族への看護展開技術を習得できる。
2. DP2.人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる	子どもに特有な生活援助技術，診療に伴う援助技術について学修する。	子どもに特有の看護技術について習得できる。
汎用的な力		
1. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自律して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる		子どもの発達段階に応じた説明やプレパレーションを用いた看護援助の提供が必要であることを理解できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
筆記試験	60 %	： 講義した学習内容の理解度を評価します。
看護過程	30 %	： 看護過程は個人で取り組みます。個人ワークの内容を評価します。
プレパレーション	10 %	： プレパレーション，小児看護技術についてはグループ演習で進めます。グループ演習は協力して積極的に取り組むことを期待しています。自己学習も重要です。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
二宮啓子，今野美紀	・小児看護学Ⅰ　小児看護学概論・小児看護技術　改訂第4版	・南江堂	・2023　年
今野美紀，二宮啓子	・小児看護学Ⅱ　小児看護支援論　改訂第4版	・南江堂	・2023　年

参考文献等

授業中に適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

プレパレーション，小児看護技術についてはグループ演習で進めます。グループ演習は協力して積極的に取り組むことを期待しています。看護過程については個人で取り組んでもらいます。演習については自己学習が重要です。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　オフィスアワーは初回授業時に連絡します

場所：　矢野：研究室S758、辻野：研究室S772、尾崎：S781

備考・注意事項：　授業前後以外で質問したい場合は、事前にメールをくださると対応しやすいです。
矢野：yano-y@osaka-seikei.ac.jp
辻野：tsujino@osaka-seikei.ac.jp
尾崎：ozaki@osaka-seikei.ac.jp

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**検査・処置・手術を受ける子どものプレパレーション** プレパレーションの意義・目的・方法を理解し，入院治療を受ける幼児と家族の事例についてグループで話し合い，プレパレーションの作成ができる。	事例に関する病態や治療について，　復習しておきましょう。	4時間
第2回	**手術を受ける幼児と家族のプレパレーションの作成** 手術を受ける幼児と家族の事例についてグループで話し合い，プレパレーションの作成と発表の準備ができる。	プレパレーションの作成と発表の準備をグループで調整しましょう。	4時間
第3回	**小児と家族の看護過程の考え方** 子どもと家族の看護過程の考え方(情報の整理・分析，問題の明確化，看護計画立案，評価の視点）について学習し，入院が必要な疾患をもつ子どもと家族の事例の展開に取り組むことができる。	入院が必要な疾患をもつ子どもと家族の事例の展開に必要な病態知識や看護を復習しましょう。	4時間
第4回	**小児看護技術演習(環境整備，V.S測定)** 子どもや家族が安全・安楽に過ごせる環境について学習し、環境整備をすることができる。子どもの症状や生体機能に関する基礎的知識を理解し，V.S測定の技術，援助方法を習得することができる。	子どもや家族が安全安楽に過ごせる環境，子どものV.S測定について復習しましょう。子どもの症状や生体機能に関する基礎的知識を復習し，V.S測定の技術，援助方法を教科書や資料を使い想起できるようにしましょう。	4時間
第5回	**看護過程の展開　事例の情報整理** 第3回で提示した事例について，必要な情報を整理し，看護過程の展開を個人ワークで進めることができる。	看護過程の事例に取り組みましょう。	4時間
第6回	**小児看護技術演習(身体計測，検体採取)** 子どもの症状や生体機能に関する基礎的知識を理解し，身体計測，検体採取を行う技術，援助方法を習得することができる。子どもの発達段階に応じた計測や検査の方法を選択することができる。	子どもの症状や生体機能に関する基礎的知識を復習し，身体計測，検体採取を行う技術，援助方法を教科書や資料を使い想起できるようにしましょう。	4時間
第7回	**看護過程の展開　事例のアセスメント** 第3回で提示した事例について，整理した情報をアセスメントし，看護過程の展開を個人ワークで進めることができる。	看護過程の事例に取り組みましょう。	4時間
第8回	**小児看護技術演習(内服介助)** 内服投与の目的・技術が理解できる。子どもの発達段階に応じ，子どもが内服を理解し，参加できるための援助を習得することができる。	子どもの発達段階に応じた，安全な内服介助を教科書や資料を使い想起できるようにしましょう。	4時間
第９回	**看護過程の展開　事例の看護問題** 第3回で提示した事例について，アセスメントの結果を踏まえ，看護問題を明確化し，看護過程の展開を個人ワークで進めることができる。	看護過程の事例に取り組みましょう。	4時間
第10回	**小児看護技術演習(末梢点滴刺入部固定)** 子どもへの点滴・注射の技術を理解する。発達段階に応じた安全な点滴刺入部固定の技術を習得することができる。子どもの点滴・注射についての理解を助け，安全に処置が受けられるよう，発達段階に応じた関わりを習得することができる。	子どもの発達段階に応じた点滴刺入部固定や，安全な点滴管理を教科書や資料を使い想起できるようにしましょう。	4時間

第11回	**看護過程の展開　事例の看護計画** 第3回で提示した事例について，看護問題に基づき，看護計画を立案し，看護過程を個人ワークで進めることができる。	看護過程の事例について看護問題を明確化し、看護計画の立案に取り組みましょう。	4時間
第12回	**手術を受ける幼児と家族のプレパレーション　ロールプレーイング** 手術を受ける幼児と家族の事例について，グループでプレパレーションの実践，発表ができる。	プレパレーションの作成と発表の準備をグループで調整しておきましょう。	4時間
第13回	**看護過程の展開　入院が必要な疾患をもつ小児と家族の看護　まとめ** 入院が必要な疾患をもつ子どもと家族の事例を通して，看護過程展開を振り返ることができる。	入院が必要な疾患をもつ子どもと家族の事例の展開について振り返り、小児看護学実習に向けて自己の課題を明確にしましょう。	4時間
第14回	**小児看護技術演習　子どもの一次救命処置，窒息の解除** 子どもの一次救命処置についての基礎知識を学習し，演習を通して，一次救命処置技術を体験・理解することができる。	子どもの救命救急処置について教科書や資料を使い復習しましょう。	4時間

733

授業科目名	**小児看護学実習**				
担当教員名	**矢野芳美・辻野睦子・尾崎玲奈**				
学年・コース等	3年	開講期間	通年	単位数	2
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	矢野芳美（看護師として病院の小児病棟勤務経験あり） 辻野睦子（看護師として小児専門病院の勤務経験あり） 尾崎玲奈（看護師として病院の小児病棟、NICU勤務経験あり）				

授業概要

健康課題や障害により入院を余儀なくされている子どもを受け持ち、小児とその家族の尊厳および子どもの特徴と発達段階に応じた看護を学修する。これまで学修した内容を基に、小児と家族に関するアセスメントによりケアプランの立案、安全な看護の実施、ケアの評価を行い看護実践を学ぶ。また、小児やその家族を支援する医療チームの連携を学び、多職種連携の重要性と看護師の役割を学修する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2.人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる	健康な子どもと関わり、保育施設での日常生活を通して、子どもの特徴と発達段階を理解する。	保育施設での実習を通して、健康な子どもの特徴と発達段階を理解し、応じた関わりを考えることができる。
2. DP2.人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる	健康課題や障害により入院を余儀なくされている子どもを受け持ち、子どもと家族に関するアセスメントにより、ケアプランの立案、安全な看護の実施、ケアの評価を実践的に学修する。	健康課題や障害により入院を余儀なくされている子どもと家族に関するアセスメントにより、ケアプランの立案、安全な看護の実施、ケアの評価ができる。
汎用的な力		
1. DP3.地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる		子どもや家族を支援する医療チームの連携を学び、多職種連携の重要性と看護師の役割が理解できる。
2. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自律して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる		健康課題や障害により入院を余儀なくされている子どもと家族の尊厳を守る必要があることを理解できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・その他(以下に概要を記述)

カンファレンスなどの討議姿勢、技術習得状況、実習記録、レポートなども評価に含みます。

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
実習態度、看護過程、小児看護技術の習得度および実習記録、レポート等 100 %	： 左記内容を総合的に判断する。原則として実習は2単位（2週間）の実習参加を基本とする。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

これまで学修した小児看護学概論・小児看護学援助論・小児看護学援助方法論で使用した教科書、配布資料等を使用します。参考文献は、オリエンテーション時などに、適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

別途配付する実習要項を確認し、実習に臨んでください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 適宜連絡をください

場所： 各研究室

備考・注意事項： 矢野：yano-y@osaka-seikei.ac.jp
辻野：tsujino@osaka-seikei.ac.jp
尾崎：ozaki@osaka-seikei.ac.jp

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第-回	**保育施設実習** （実習1日目） ・保育施設の管理者からオリエンテーションを受け、健康な子どもの成長・発達、生活活動をする場としての施設の環境について理解する。 （実習2～3日目） ・学生は保育施設の指示のもと各クラスに入る。 ・保育施設のデイリープログラム（遊び・食事・昼寝等）に合わせて、担当保育士の指導のもと積極的に様々な年齢の子どもと接する。 ・行動計画・実習日誌は毎朝、保育施設の実習指導者に提出し、指導・助言を受ける。 ・保育施設実習最終日に振り返りと学びの共有のため、カンファレンスを行う。 (実習4日目) ・学内で保育施設実習の振り返り、記録を行う。 ※グループによっては、保育施設実習と病棟実習の順序が逆になる場合がある。	机上で学んだ子どもの特徴と発達段階、疾患の知識、その看護について復習する。小児看護学援助方法論で学習した小児看護に必要な技術について予習する。	10時間
第-回	**病院実習** （実習5日目） ・学内で小児看護技術の知識確認、技術練習を行う。 （実習6日目） ・病棟の管理者からオリエンテーションを受け、子どもが療養する場としての施設の環境について理解する。 ・原則として患児1名を受け持つ。 （実習6～10日目） ・受け持ち患児・家族との信頼関係を築き、援助の提供につなげる。 ・受け持ち患児を通して、看護過程を展開する。 ・実習内容の記録を行う。 （7～10日目） ・子どもとその家族から情報を収集し、アセスメントを行う。 ・看護目標、看護計画を立案し、看護実践を行う。 ・子どもや家族の反応をとらえて、評価を行う。 ・チームの一員としての報告・連絡・相談をする。 ・受け持ち以外でも、子どもの看護について、可能な限り見学や、体験をし、看護師の役割を理解する。 ・看護師が多職種と協働している場面を見学する。 ・毎日カンファレンスを行い、学びの共有、課題の解決のためにグループで話し合う。 ・病棟実習終了日に学びの共有と実践の振り返りのため、カンファレンスを行う。 ※グループによっては、保育施設実習と病棟実習の順序が逆になる場合がある。	机上で学んだ子どもの特徴と発達段階、疾患の知識、その看護について復習する。小児看護学援助方法論で学習した小児看護に必要な技術について予習する。	10時間
第-回	**－** －	－	4時間
	－		
	－		
	－		
	－		
	－		
	－		
	－		
	－		
	－		
	－		
	－		
	－		
	－		
	－		

授業科目名	**公衆衛生看護学概論**				
担当教員名	近藤純子				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	看護師として病院勤務、保健師として企業にて勤務経験あり				

授業概要

本科目では、健康の概念を学ぶとともに、公衆衛生看護の歴史と現状の課題と保健師の役割について学ぶ。対象となる地域で生活する人々（個人、家族、集団、地域）の特徴と健康の維持・増進、在宅で疾病を持つ様々な世代の人々の生活と支援体制について学修する。他に、活動の場（学校、産業）の健康課題を考え、その支援について学修する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自立して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる	公衆衛生学における健康の維持増進と予防の概念をもとに健康について考える。	生活環境と健康との関連を理解し、地域の人々の健康課題について考えることができる。
2. DP2.人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる	在宅で疾病を持つ様々な世代の人々の生活と支援方法について学修する。	地域で疾病を持つ各世代の人々の健康の維持と疾病予防の支援について理解できる。
汎用的な力		
1. DP3.地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる		地域の様々な世代の人々の生活と健康課題を結びつけて考えることができる。
2. DP3.地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる		地域の人々の健康課題を解決する方法やプランについて考えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
課題学習の提出内容等による総合評価	20 %	： 授業後に課題を出したミニレポート
定期試験	80 %	： テキストと講義資料の範囲の理解について評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
標　美奈子編	・ 標準保健師講座1　公衆衛生看護学概論第６版	・ 医学書院	・ 2023　年

参考文献等

授業中に適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

授業中の問答について積極的に参加し、テキスト及び資料について理解を深めてください。履修後はノート等の整理をしましょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　初回の授業時にお伝えします

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**公衆衛生看護学の定義および理念と目的** 公衆衛生看護学の定義、理念、目的を理解し、概念と活動を関連づけて理解を深める。	授業予定の概略を理解し、公衆衛生看護学の定義、理念、目的について復習しましょう。	4時間
第2回	**日本の保健師活動の変遷と、疾病構造の変化①** 日本の保健師活動の変遷と、疾病構造の変化およびその背景にある社会・経済との関係について理解を深める。	疾病構造の変遷と背景についてノートを整理し、概念や用語について理解しましょう	4時間
第3回	**日本の保健師活動の変遷と、疾病構造の変化②―健康課題の変遷と支援の方向性―** 日本の保健師活動の変遷と、疾病構造の変化およびその背景にある社会・経済との関係について理解を深め、健康課題の変遷と今後の課題および支援の方向性について考える。	日本の保健師活動と疾病構造の変化との関連についてノートを整理しましょう。	4時間
第4回	**公衆衛生看護学活動の対象①（個人、家族）** 地域看護学活動の対象を捉える。対象としての個人、家族についてその特徴について学修し理解する。	対象としての個人、家族の特徴を理解し、講義を踏まえてノートを整理しましょう。	4時間
第5回	**公衆衛生看護学活動の対象②（集団、地域）** 地域看護学活動の対象を捉える。対象としての集団、地域、およびその特徴と健康のとらえ方について理解する。	対象としての地域・集団についてノートを整理し、理解しましょう。	4時間
第6回	**公衆衛生看護活動の場①（学校）** 公衆衛生看護活動の場のひとつ、学校の特性（対象と健康課題）を理解し、保健活動の構造および養護教諭の役割について理解する。	学校の特性（対象と健康課題）を理解し、保健活動の構造および養護教諭の役割についてノートに整理しましょう。	4時間
第7回	**公衆衛生看護活動の場②（産業）** 公衆衛生看護活動の場のひとつ、産業の特性（対象と健康課題）を理解し、組織体制および保健師または看護師の役割について理解する。	産業の特性（対象と健康課題）を理解し、組織体制および保健師または看護師の役割についてノートに整理しましょう。	4時間
第8回	**公衆衛生看護学の理論と概念①－プライマリーヘルスケアー** 公衆衛生学及び公衆衛生看護学の健康の定義の基礎となる「権利としての健康」について理解し、プライマリーヘルスケアの概念を学習する。	公衆衛生看護学の健康の定義、「権利としての健康」、プライマリーヘルスケアについて理解しましょう。	4時間
第9回	**公衆衛生看護学の理論と概念②－コミュニティ・アズ・パートナー モデルー** 地域看護学の特徴である地域看護診断の背景となる理論 コミュニティ・アズ・パートナーモデルとその活用について学習する。	地域看護診断の背景となる理論　コミュニティ・アズ・パートナーモデルとその活用について理解しましょう。	4時間
第10回	**公衆衛生看護学の理論と概念③－プリシード・プロシードモデルー** 地域看護の特徴をもとに、地域看護診断の背景となる理論 プリシード・プロシード モデルとその活用について学習する。	地域看護診断の背景となる理論　プリシード・プロシード モデルとその活用について理解しましょう。	4時間
第11回	**公衆衛生看護の支援方法①－保健指導－** 地域における公衆衛生看護学の支援方法として、保健指導の定義とその目的及び必要性について理解し、保健師の保健指導技術と対象や方法について学習する。	公衆衛生看護学の支援方法として、保健指導の定義とその目的及び必要性についてノートに整理しましょう。	4時間
第12回	**公衆衛生看護の支援方法②－地域診断モデルー**	9－10回で学んだ理論をもとにした地域診断と、公衆衛生看護活動の関連について考えましょう。	4時間

	地域における公衆衛生看護学の支援方法として、一定の地域・地区（住地域を同じくする集団・Community）を対象とする地域診断を用いた公衆衛生看護活動について理解する。		
第13回	**公衆衛生看護の支援方法③－地域診断と地区活動－** 地域における公衆衛生看護学の支援として、その地域の住民やグループ・組織の持つ解決能力や環境をアセスメントする地区診断・地域診断と具体的な地区活動の展開との関連を理解する。	地域診断と、公衆衛生看護活動の関連と、その有用性を考察しましょう。	4時間
第14回	**公衆衛生看護学概論のまとめ** 公衆衛生看護学概論での学びを振り返りまとめる。健康の定義と人々の健康支援する方法についての学習を元に、各ライフサイクルの健康課題と疾病予防および健康増進について考察を深める。	講義を踏まえてノートを整理し、これまで学修した、概念や用語について復習しましょう。	4時間

授業科目名	**健康教育論**				
担当教員名	近藤純子				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	看護師として病院勤務、保健師として企業にて勤務経験あり				

授業概要

公衆衛生看護の目的・目標を実現するために、保健師が地域で生活する個人・家族・集団を対象に用いる技術について学修する。具体的には、地域の特定集団を対象に展開する健康教育について、対象把握から支援の計画・実施・評価の一連のプロセスと方法を理解する。具体的な事例の展開について演習を行い、保健師が地域で生活する個人・家族・集団を対象に用いる技術の特徴と方法について考察する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2.人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる	あらゆる健康レベルの様々な世代の人々の生活環境と健康との関連を理解し、支援方法について学修する	地域の健康課題と地域特性に基づいた保健指導方法の選択について検討することができる
2. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自立して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる	健康課題の改善に効果的な健康教育の評価方法について学修する	対象集団の健康課題やその背景を踏まえ、家族や地域社会も視野に入れた健康課題の改善に効果的な健康教育の計画と評価方法について検討することができる
汎用的な力		
1. DP3.地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる		グループのメンバーと協働し、各メンバーの強みを活かして課題を達成することができる
2. DP3.地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる		地域の様々な世代の人々の生活と健康課題を結びつけて考えることができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
筆記試験	80 %	： 試験を評価します
グループ演習・レポート他	20 %	： グループ演習およびレポートの内容を評価する

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

参考文献は授業時に適宜紹介する

履修上の注意・備考・メッセージ

１．グループワークを中心として演習により授業を展開するため、積極的な態度で臨みましょう。
２．グループメンバーとは、密に連絡・相談をし合い、課題の進め方等について共通理解を図りましょう。
３．メンバー各自が役割を果たすとともに、各メンバー間で助け合って目標を達成するプロセスを大切にしましょう。
４．母子、成人、高齢者、精神、感染症など各領域における疾患の病態生理および生活を支える制度、発達段階など既習の科目で修得した知識や技術を最大限に活用しましょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　初回授業時に連絡します

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	ガイダンス　保健指導とは 公衆衛生看護の基盤となる理論や保健指導の目的と定義、各接近技法・技術について理解を深めます。	予習：教科書①第3章　公衆衛生看護活動の展開方法論　教科書②第1章　公衆衛生看護における機能と技術　復習：科目の目標と学修範囲	4時間
第2回	健康教育の理論（１）健康教育の考え方 健康教育と保健師の役割、能力の形成について理解する。また「教育」と「学習」の違いを理解し、地域保健活動としての健康教育について学修します。	予習：教科書①第3章　公衆衛生看護活動の展開方法論　教科書②第2章　公衆衛生看護における対象の理解、第3章　公衆衛生看護活動の基盤となる理論　復習：講義資料を基に内容を確認しましょう。	4時間
第3回	健康教育の理論（２）事例を通した理解 健康教育の実践について、ＤＶＤ等の視覚教材を用いて具体的な住民学習の事例を通して計画化と準備の理解を深める。	予習：教科書②第4章　対人支援活動の展開、第6章　健康教育の展開　復習：講義資料を基に内容を確認しましょう。	4時間
第4回	健康教育計画の企画　実施と評価 講義により、健康教育の枠組みについて学び、企画実施と評価のプロセスおよびＰＤＣＡサイクルについて学修し、理解を深めます。	予習：教科書②第6章　健康教育の展開　復習：講義資料を基に内容を確認しましょう。	4時間
第5回	健康教育の展開　企画書の作成 講義により、モデル地域の事例を紹介し、地域の健康課題の抽出について学修します。	復習：講義資料を基に内容を確認しましょう。	4時間
第6回	健康教育の方法と媒体 健康教育の方法と特徴を理解し、健康教育における教育技術や話し合いによる学習方法、教育媒体（教材）について理解を深めます。	予習：前回の講義資料の確認をしましょう。　復習：講義資料を基に健康教育の方法について整理しましょう。	4時間
第7回	健康教育の展開　企画書・指導案の作成（一部演習を含む） 講義により、企画書・指導案の作成について押さえます。グループ演習についてガイダンスします。グループワークにより、抽出した健康課題を基に、健康教育の企画書を作成する。	予習：前回の講義資料の確認をしましょう。　復習：講義資料を基に健康教育の展開方法について整理しましょう。	4時間
第8回	健康教育の展開　－演習－　企画書の発表・修正 グループワークにより、健康教育の展開をする。健康教育の企画書を発表し、企画の内容について評価する。評価を基に企画書を修正し、指導案を作成する。	健康教育のプロセス、ＰＤＣＡの講義資料を確認しましょう。	4時間
第9回	健康教育の展開　－演習－　指導案の発表・修正 グループワークにより、抽出した健康課題を基に、健康教育の企画書・指導案を作成します。教員の助言とグループの検討をし、評価を基に指導案を修正します。	健康教育のプロセス、ＰＤＣＡの講義資料を確認しましょう。	4時間
第10回	健康教育の展開　－演習－　健康教育の媒体 グループワークにより、健康教育の展開をする。指導案を基に、効果的な教育媒体（教材）を検討の上選定し、健康教育を実施するためのシナリオを作成する。	健康教育のプロセス、ＰＤＣＡおよびシナリオと媒体についての講義資料を確認しましょう。	4時間
第11回	健康教育の展開　－演習－　シナリオの作成 グループワークにより、健康教育の展開をする。指導案を基に、効果的な教育媒体（教材）を検討の上選定し、健康教育を実施するためのシナリオを作成する。	健康教育のプロセス、ＰＤＣＡおよびシナリオと媒体についての講義資料を確認しましょう。	4時間
第12回	健康教育の発表前半　健康教育の実施・評価前半	他のグループ発表内容と自身の発表内容について比較し、検討しましょう。	4時間

	講義により、再度評価に使用するデータ収集と目標設定について学修し確認します。グループごとの健康教育についての企画・評価計画、媒体の一部を発表し紹介します。		
第13回	**健康教育の発表後半　健康教育の実施・評価後半** 健康教育の計画および評価、シナリオと媒体の一部を発表し紹介します。教員よりグループごとに助言します。	他のグループ発表内容と自身の発表内容について比較し、検討しましょう。	4時間
第14回	**健康教育　まとめ** 講義により、健康教育での学びを振り返りまとめます。健康の定義と人びとの健康を支援する方法についての学修を基に、各ライフサイクルの健康課題と疾病予防および健康増進について考察を深めます。	復習：前回までの発表および講義資料を基に健康教育プロセスとＰＤＣＡについて復習しましょう。	4時間

733

授業科目名	家族相談援助論				
担当教員名	近藤純子				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	看護師として病院勤務、保健師として企業にて勤務経験あり				

授業概要

家族をひとつのケアの対象として援助する家族看護では、家族一人ひとりの生活の質の向上を目指すことを学修する。家族自らが健康問題を解決し、健康的な家族生活を送ることができるように介入する。具体的には、家族看護の歴史や家族の概念、家族と文 化・社会的背景等を学修し、家族の構造的アプローチをはじめ、家族アセスメント、家族ストレス理論などの諸理論を基に、家族の看護過程を事例をもとに展開し、家族看護に必要な支援方法を学修する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自立して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる	家族をひとつのケアの対象として、家族看護に必要な支援方法を学修する。	家族アセスメントの基盤となる理論について説明することができる
2. DP2.人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる	家族をひとつのケアの対象として、諸理論を基に家族の看護過程を学修する。	家族を単位とした看護過程について理解できる
汎用的な力		
1. DP3.地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる		看護における家族のとらえ方について理解できる
2. DP3.地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる		地域の人々と家族、地域における個人と家族の支援についえt説明することができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験	80 %	： テキスト及び講義資料で学んだ歯にの理解について評価します。
課題レポート	20 %	： レポート内容で評価します

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
山崎あけみ、原礼子	・ 家族看護学　19の臨床場面と実践例から考える	・ 南江堂	・ 2022　年

参考文献等

鈴木和子、和種部裕子著：「家族看護理論と実際」日本看護協会出版会　2012
ISBN:978-4-8180-1697-2

履修上の注意・備考・メッセージ

講義内容に関連した文献、新聞記事、報道等に関心を持ち、自ら学びを深める努力をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　初回の授業時にお伝えします

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**家族とは（形態と機能）** 看護の対象として家族を理解し、家族の健康を支援することについて理解を深めます。	予習：これまでの体験から家族について考えをまとめておきましょう。復習：授業資料とテキストの関連場所を読み、確認しましょう。	4時間
第2回	**看護における家族のとらえ方（発達する家族）** 健康な家族についての考え方を家族の機能、家族のストレスへの対処、家族の価値体系や役割・勢力の構造から理解しましょう。	予習：健康な家族のライフステージ事の変化についてのテキスト関連部分を読みましょう。復習：：第Ⅰ章「家族看護学における対象理解」を読み理解を深めましょう。	4時間
第3回	**日本人と家族（歴史的背景と現代の家族）** 日本人と家族について、文化的背景を理解する。現代の家族を統計的データとともに理解する。世代間における文化や価値観の違いを理解しましょう。	予習：日本の家族の形態や厚生、価値観について歴史的な背景と合わせて理解しましょう。復習：授業 教科書：第Ⅲ章「家族を取り巻く社会的・文化的背景」を読み、考えをまとめましょう	4時間
第4回	**家族と地域社会** 家族と地域社会の関連を地域社会、家族、家族員の観点から理解する。また家族が生活する地域特性を把握する必要性を理解しましょう。	予習：家族と地域社会との関係について該当箇所を読みましょう。復習：テキストの第Ⅲ章「家族を取り巻く社会的・文化的背景」について講義と合わせて振り返りましょう。	4時間
第5回	**家族看護学における諸理論** 家族を理解する方法として、ジェノグラム・エコマップの書き方を理解する。患者中心ないし家族中心の捉え方について理解する。家族を理解する場とその特徴を理解しましょう。	予習：テキストの第Ⅰ章「家族看護学における対象理解」、第Ⅵ章「代表的なアセスメントモデル」を読んでおきましょう。復習：諸理論を元に家族の特徴や違いなどについて考えましょう。	4時間
第6回	**システムとしての家族の理解** システムとしての家族の特徴や発達と課題を理解する。システムとして機能的な時と、そうでない時の家族の特徴を理解しましょう。	予習：テキストの第Ⅰ章「家族看護学における対象理解」を熟読、参考テキストの関連個所も読みましょう。復習：家族システムを用いた家族の理解について授業内容を元に復習しましょう。	4時間
第7回	**家族看護学における看護過程** 家族の健康を引き出す看護過程の特性や必要な概念について理解しましょう。	予習：テキストの該当箇所：第Ⅱ章「家族看護学における目標・看護過程・評価」、第Ⅳ章「看護実践に役立つ考え方」を読みましょう。復習：授業内容を振り返り、家族支援の看護過程について理解を深めましょう。	4時間

授業科目名	公衆衛生看護活動論				
担当教員名	近藤純子				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	看護師として病院勤務、保健師として企業にて勤務経験あり				

授業概要

地域に生活する個人・家族・集団・組織の諸条件を踏まえ、乳幼児から高齢期に至る発達段階に応じた母子および成人・高齢者への保健福祉活動や障害者から精神保健、難病保健、感染症保健等の健康課題の特性に応じたそれぞれの保健活動について学修し、方法論を学ぶ。それぞれの活動における保健師の役割について考察する。また、地域の健康活動に必要な職種間連携や健康支援に必要な制度や社会資源について学修する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2.人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる	母子および成人・高齢者への保健福祉活動や障害者から精神保健、難病保健、感染症保健等の健康課題の特性に応じたそれぞれの保健活動と方法について学修する。	母子および成人・高齢者への保健福祉活動や障害者から精神保健、難病保健、感染症保健等の健康課題の特性に応じた各保健活動と方法について理解し、考えることができる。
汎用的な力		
1. DP3.地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる		地域の健康活動に必要な職種間連携や健康支援に必要な制度や社会資源について理解し、各世代を対象とした保健師の役割について考察できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験	80 %	： テキストおよび講義資料の学んだ範囲の理解について評価します。
課題・レポート	20 %	： レポート内容を理解します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
	・ 標準保健師講座３　対象別公衆衛生看護活動　第5版	・ 医学書院	・ 2024　年

参考文献等

授業中に適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

１．公衆衛生看護活動の対象は、あらゆる健康段階、発達段階で私たちと同じ生活の場で暮らす方々である。普段から時事問題やニュース等にも関心を持つことで理解を深めて臨むこと。
２．2年生後期で学ぶ「公衆衛生看護学概論」の内容について、十分復習して授業に臨むこと。

３．予習と復習は必ず行って授業に臨むこと。
４．学習課題は計画的に取り組むこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項： 初回授業時に連絡します

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス　保健師による保健指導・健康相談とは** 保健師による保健指導・健康相談の意義と目的について学びます。	シラバスを読み、授業の概略をつかみましょう	4時間
第2回	**母子（親子）保健活動①　母子保健施策** 母子保健施策と保健師活動のうち、乳幼児の成長発達課題と母子への支援について学びます。	予習：教科書第1章　Ａ母子保健（親子保健）の動向、Ｃ乳幼児期の成長・発達と健康課題への支援を熟読すること　復習：配布資料と教科書の該当のところを再読・整理し提示した課題を行うこと	4時間
第3回	**母子（親子）保健活動②　親子の健康課題** 支援ニーズの高い親子の健康課題と支援について学修します。	予習：教科書第1章　Ｄ支援のニーズが高い親子の健康課題と支援を熟読すること　復習：配布資料と教科書の該当のところを再読・整理し提示した課題を行うこと	4時間
第4回	**成人保健活動①　成人保健施策** 成人保健の離縁および成人保健施策の動向と健康問題の特徴について学修します。	予習：教科書第2章　Ａ成人保健の動向を熟読すること　復習：配布資料と教科書の該当のところを再読・整理し提示した課題を行うこと	4時間
第5回	**成人保健活動②　成人期の健康課題** 成人期における健康課題をとらえて、特定健診・特定保健指導等の意味と支援方法について学びます。	予習：教科書第2章　Ａ成人期の保健活動を熟読すること　復習：配布資料と教科書の該当のところを再読・整理し提示した課題を行うこと	4時間
第6回	**高齢者保健活動** 高齢者の健康課題を基に、高齢者への保健活動の理念と実際、高齢者を対象とした介護予防活動について学修します。	予習：教科書第3章　Ａ高齢者保健医療福祉の動向、Ｂ高齢者の健康課題と支援を熟読すること 復習：配布資料と教科書の該当のところを再読・整理し提示した課題を行うこと	4時間
第7回	**障がい者（児）保健活動①　障がい者（児）の健康課題** 障がい者（児）の健康課題を基に、保健活動の理念と実際について学修します。また、障がい者（児）支援について考えます。	予習：教科書第5章　Ａ障害者（児）保健医療福祉の動向、Ｂ障害者保健活動を熟読すること　復習：配布資料と教科書の該当のところを再読・整理し提示した課題を行うこと	4時間
第8回	**障がい者（児）保健活動②　障がい者（児）の支援体制** 障がい者（児）支援について、地域における支援体制づくりと環境整備の必要性について考察します。	予習：教科書第5章　Ａ障害者（児）保健医療福祉の動向、Ｂ障害者保健活動を熟読すること　復習：配布資料と教科書の該当のところを再読・整理し提示した課題を行うこと	4時間
第9回	**難病保健活動** 難病保健の理念および保健施策の動向と健康問題の特徴について学修します。また、難病患者および家族への具体的な支援について考えます。	予習：教科書第6章　Ａ難病対策の動向、Ｂ難病患者への支援・保健活動を熟読すること　復習：配布資料と教科書の該当のところを再読・整理し提示した課題を行うこと	4時間
第10回	**感染症保健活動①　感染症対策の動向** 感染症対策の動向と課題について学びます。	予習：教科書第7章　Ａ感染症保健の動向を熟読すること　復習：配布資料と教科書の該当のところを再読・整理し提示した課題を行うこと	4時間
第11回	**感染症保健活動②　予防的支援と予防支援体制** 感染症対策における保健活動、予防的支援と予防支援体制の構築と課題について学びます。	予習：教科書第7章　Ｂ感染症保健施策と保健師活動を熟読すること　復習：配布資料と教科書の該当のところを再読・整理し提示した課題を行うこと	4時間
第12回	**学校保健** 学校保健・学校看護の基本 学校保健における健康課題への対策	予習：教科書第9章　Ａ学校保健・学校看護基本、Ｂ学校保健における健康課題への対策を熟読すること　復習：配布資料と教科書の該当のところを再読・整理し提示した課題を行うこと	4時間
第13回	**産業保健**	予習：教科書第10章　Ａ産業保健の基本、Ｂ産業保健における健康代への対策と支援を熟読すること　復習：配布資料と教科書の該当のところを再読・整理し提示した課題を行うこと	4時間

	産業保健の基本 産業保健における健康課題への対策と支援		
第14回	**まとめ** 公衆衛生看護学概論の学びを振り返りまとめます。	予習：教科書全体を再読・整理し提示した課題を行うこと	4時間

733

授業科目名	**地域看護診断学Ⅰ**				
担当教員名	近藤純子				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	看護師として病院勤務、保健師として企業にて勤務経験あり				

授業概要

公衆衛生看護活動における対象を地域とした場合の健康のとらえ方について学修します。地域の健康課題を見出すための情報とは何かを理解し、量的情報と質的情報を集める方法を理解し整理して、健康課題を抽出する方法を学びます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自立して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる	公衆衛生看護活動における対象を地域とした場合の健康のとらえ方について学修する。	公衆衛生看護活動における対象を地域とした場合の健康について捉えることができる。
2. DP2.人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる	地域の健康課題を見出すための情報とは何かを理解し、量的情報と質的情報を集める方法を理解し整理して、健康課題を抽出する方法を学ぶ。	地域の健康課題を見出すための情報について理解し、それらの情報を使って地域の概要を理解することができる。
汎用的な力		
1. DP3.地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる		地域の健康課題を見出すための情報について理解し、それらの情報を使って健康課題を抽出する方法を理解することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
グループレポートの作成と発表	10 %	:	グループワークへの参加と発表内容について評価します。
グループレポート	20 %	:	グループレポート内容を評価します。
個人レポート	70 %	:	地域と健康課題の理解についてレポートを評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
岸恵美子編	・保健学講座2　公衆衛生看護支援技術	・メジカルフレンド社	・2022　年

参考文献等

授業中に適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

グループワークには積極的に参加し、発表課題に貢献してください。履修後はノート等の整理をしましょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　初回の授業でお知らせします。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス 公衆衛生看護活動とは** 地域看護診断Ⅰで行う学修内容と目的について理解しましょう。公衆衛生看護活動と保健師の専門性について学びます。	シラバスを参考にして、授業の目的と概略をつかみましょう。	4時間
第2回	**公衆衛生活動と保健師活動地域及び対象集団** 公衆衛生看護活動にとっての対象集団とは何か？看護活動にとっての対象集団とは何か？について、学びましょう。対象の規模や多様性について理解しましょう。	対象としての地域・集団についてノートを整理し、理解しましょう。	4時間
第3回	**地区（地域）診断とは①** 対象集団である地域をどのようにとらえるのか？地域診断・地区診断について学修します。	地区診断についてノートを整理しましょう。	4時間
第4回	**地区（地域）診断とは②ープリシード・プロシードモデルー** 地区診断展開課程と関連するモデル（プリシード・プロシードモデル他）を学び、分析に必要な情報とは何かについて考えます。	地区診断についてノートを整理しましょう。	4時間
第5回	**地区（地域）診断とは③ーコミュニティ・アズ・パートナーモデルー** 地区診断展開課程と関連するモデル（コミュニティ・アズ・パートナーモデル）について学び、分析に必要な情報について考えます。	地区診断についてノートを整理しましょう。	4時間
第6回	**地区診断の実際①** 地区診断展開課程に関連するモデル（プリシード、プロシードモデル、コミュニティ・アズ・パートナーモデル）をもとに、必要な情報を集めましょう。	地区診断についてノートを整理しましょう。	4時間
第7回	**地区診断の実際② ー地区踏査演習ⅰー** 地区の情報を整理して、特徴をまとめましょう。コミュニティ・アズ・パートナーモデルの枠組をもとに、地区踏査をしましょう。	地区診断についてノートを整理しましょう。	4時間
第8回	**地区診断の実際③ ー地区踏査演習ⅱー** 進捗状況を確認し、教員の講義と助言を行います。特徴をもとに、実際の現場をフィールドワークしましょう。	地区診断についてノートを整理しましょう。	4時間
第9回	**地区診断の実際④** 講義により、フィールドワークで得られた質的情報と他のデータと合わせた検討方法について学びます。 フィールドワークの成果をグループメンバーで共有し、既存データの情報を入れて、世代別の健康課題を考えます。	協力して、人に伝えるための資料データの準備をしましょう。	4時間
第10回	**地区診断の実際⑤ ー演習ⅲー** 地域診断における健康課題を考えて、グループワークの成果をどのように伝えるかについて検討し、発表用の作業をしましょう。	協力して、人に伝えるための資料データの準備をしましょう。	4時間
第11回	**地区診断の実際⑥ ー演習ⅳー** グループワークの成果をどのように伝えるかについて検討し、成果を伝えるための発表作業をしましょう。	協力して、人に伝えるための資料データの準備をしましょう。	4時間
第12回	**地区診断の実際⑦** 教員の講義と助言を行い進捗状況を確認します。グループワークの成果をどのように伝えるかについて検討しましょう。	発表時の役割を果たすための準備をしましょう。	4時間
第13回	**地区診断の実際⑧ （グループ発表）** 各グループの発表を聞いて、自身のグループと比較して考えましょう。	地区診断について、自分のグループとの比較を検討しましょう。	4時間
第14回	**地区診断の実際⑨ （まとめ）**	地区診断について、自分のグループとの比較を検討しましょう。	4時間

講義によって地区診断の理論と方法についてまとめます。		

733

授業科目名	**地域看護診断学Ⅱ**				
担当教員名	近藤純子				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	看護師として病院勤務、保健師として企業にて勤務経験あり				

授業概要

公衆衛生看護活動における地域を対象とした健康について学修します。地域の健康課題を見出すための情報（量的情報と質的情報）を整理して健康課題を抽出し、公衆衛生看護活動の計画立案、展開、評価のプロセスとPDCAサイクルについて学修します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2.人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる	地域看護診断学Ⅰで学んだ地域の健康課題を見出すための情報を分析し、公衆衛生看護活動の計画立案、展開、評価について学ぶ。	地域の健康課題を見出すための情報を分析し、公衆衛生看護活動の計画立案、展開、評価について理解することができる。
汎用的な力		
1. DP3.地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる		地域の健康課題を見出すための情報を分析し、公衆衛生看護活動の計画立案、展開、評価について理解し、実施されている公衆衛生看護活動と結び付けて考えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
グループレポートの作成と発表	10 %	:	グループワークへの積極的参加と発表内容について評価します
グループレポート	20 %	:	グループレポート内容を評価します
個人レポート	70 %	:	地域看護診断モデルの理解と応用について評価します

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
岸恵美子編	・保健学講座2　公衆衛生看護支援技術	・メジカルフレンド社	・2022　年

参考文献等

授業中に適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

グループワークには積極的に参加し発表課題に貢献してください。履修後はノート等の整理をしましょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　初回の授業でお知らせします。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	ガイダンス 公衆衛生看護活動の計画立案① 地域看護診断学Ⅱのガイダンス 公衆衛生看護活動の計画と計画策定の基本的な考え方について学びましょう。	シラバスを参考にして、授業の目的と概略をつかみましょう。	4時間
第2回	公衆衛生看護活動の計画立案②ー理論と基本的な考え方ー 公衆衛生看護活動の計画立案について、プリシード・プロシードモデルを用いて基本的な考え方を整理します。	地区診断と計画立案についての具体的プロセスをノートに整理しましょう。	4時間
第3回	公衆衛生看護活動の計画立案③ー実践例①ー 実践例① 公衆衛生看護活動の計画立案について、実践例を用いて理解を深めましょう。	公衆衛生看護活動の計画立案について、学びをノートに整理しま しょう。	4時間
第4回	公衆衛生看護活動の計画立案④ 実践例② 公衆衛生看護活動の計画立案について、実践例を用いて理解を深めましょう。	公衆衛生看護活動の計画立案について、学びをノートに整理しま しょう。	4時間
第5回	公衆衛生看護活動における事業評価と方法① 公衆衛生看護活動の事業評価とは何か、またその方法について考えます。	公衆衛生看護活動の計画立案について、学びをノートに整理しま しょう。	4時間
第6回	公衆衛生看護活動における事業評価と方法②ーPDCAサイクルー PDCAサイクルについて学びます。公衆衛生看護活動の事業評価について、またその方法について考えます。	公衆衛生看護活動の事業評価について、学びをノートに整理しま しょう。	4時間
第7回	公衆衛生看護活動の評価の実際①ー実践例①ー 公衆衛生看護活動の事業評価について、実践例①を用いて理解を深めましょう。	公衆衛生看護活動の事業評価について、実践例を元に学びをノートに整理しましょう。	4時間
第8回	公衆衛生看護活動の評価の実際②ー実践例②ー 公衆衛生看護活動の事業評価について、実践例②を用いて理解を深めましょう。	公衆衛生看護活動の事業評価について、実践例を元に学びをノートに整理しましょう。	4時間
第9回	公衆衛生看護活動の評価の実際③ー実践例とPDCAー 公衆衛生看護活動の事業評価について、PDCAサイクルに沿った展開か？実践例を用いて理解を深めましょう。	公衆衛生看護活動の事業評価について、学びをノートに整理しま しょう。	4時間
第10回	公衆衛生看護活動の評価の実際④ー事業評価とPDCAー 公衆衛生看護活動の事業評価について、PDCAサイクルに沿った展開か？実践例を用いて理解を深めましょう。	公衆衛生看護活動の事業評価について、実践例を元に学びをノートに整理しましょう。	4時間
第11回	公衆衛生看護活動の評価と計画 演習① 健康課題と実施されている複数の保健事業との関連について考えましょう。	健康課題と実施されている複数の保健事業との関連について考えましょう。	4時間
第12回	公衆衛生看護活動の評価と計画 演習②ー健康課題と保健事業ー 健康課題と実施されている複数の保健事業との関連について考えましょう。	保健事業の評価について、復習しましょう。	4時間
第13回	公衆衛生看護活動の評価と計画 演習③ー保健事業と評価ー 複数の保家事業例から、健康課題と実施されている複数の保健事業との関連および評価について考えましょう。	保健事業の評価について、復習しましょう。	4時間
第14回	公衆衛生看護活動の評価と計画 演習④　まとめ 公衆衛生看護活動の計画立案・展開・評価のプロセスとPDCAサイクル、事業評価について全体をふりかえり、まとめます。	学びを振り返りましょう。	4時間

733

授業科目名	**公衆衛生看護学演習**				
担当教員名	**近藤純子・西澤美香・藤本萌美**				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	近藤純子（看護師として病院勤務、保健師として企業にて勤務経験あり）、西澤美香（看護師として病院勤務、保健師として自治体勤務経験あり）、藤本萌美（保健師として自治体勤務勤務あり）				

授業概要

公衆衛生看護の目的目標を実現するために、保健師が人々の生活基盤である地域全体を対象として捉え活動を展開する一連のプロセスと方法について学修する。具体的には、実習予定地域を用いて地域診断プロセスに則って地域の生活環境や生活実態、健康状態に関する情報を収集・分析し、地域住民の健康問題を明らかにして改善に向けて必要な活動計画と評価方法を立案する演習を行う。地域診断に基づくPDCAサイクルによって進められ、らせん状に繰り返されていく公衆衛生看護活動の特徴と方法を理解する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2.人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる	地区踏査及び健康教育の企画・評価計画・媒体作成については個人及びグループワークを実施し、訪問計画（新生児訪問、ハイリスク者訪問）は事例展開とロールプレイによる演習を行う。	実習予定地域の情報を収集・分析し、健康課題を見出し、健康課題の改善に向けて必要な活動計画と評価方法を検討できる

汎用的な力		
1. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自律して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる		グループメンバーと協働し、各メンバーの強みを生かしてグループ課題をまとめて、聞き手にわかるように効果的にプレゼンテーションができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
演習課題と参加態度	20 %	： 各演習グループへの参加度を評価します
演習レポート	30 %	： レポート内容を評価します
演習実技テスト	50 %	： 実技内容を評価します

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
	・ 標準保健師講座２　公衆衛生看護学技術	・ 医学書院	・ 2023　年

参考文献等

公衆衛生看護学概論や健康教育論、公衆衛生看護活動論で指定したテキスト及び配布資料等
国民衛生の動向（厚生統計協会）

履修上の注意・備考・メッセージ

・講義及びグループワークによる演習により授業を展開するため、積極的な態度で臨みましょう。
・グループメンバーとは密に連絡・相談をしあって、グループ課題の進め方について共通理解をしましょう。
・グループワークの目的と各メンバーの役割を共通理解し、各自が役割を果たすと共にメンバー間で助け合って目標を達成するプロセスを大切にしましょう。
・本科目での学習を進めながら、自己学習ノートを進化させていきましょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　最初の授業でお知らせします

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**地域診断とは―地区踏査①―** 地域診断について、地域の人口や年齢構成、健康指標などを元に健康課題について分析する地域診断について振り返り、グループごとに該当地域について地区踏査を実施します。	オリエンテーション内容を思い出して、地区診断を復習しましょう	4時間
第2回	**地区診断とは―地区踏査②―** グループごとの該当地域の地区踏査を継続し、集めた情報をグループメンバーで共有して、地域集団の特性を把握し整理します。	地区踏査で得た情報をまとめましょう	4時間
第3回	**情報収集と分析（1）** グループごとの該当地域の健康指標、保健計画や医療情報等を集めて、地域の特性について分析、分析シートにまとめていきます。	情報をまとめた分析内容を振り返りましょう	4時間
第4回	**情報収集と分析（2）―世代ごとの特徴―** グループごとの該当地域の健康指標、保健計画や医療情報等を集めて世代ごとに分析し、地域の特性について考え分析シートに沿って発表準備をします。	世代ごとの健康課題について振り返り、その違いについて考えましょう	4時間
第5回	**地域の健康課題―地域診断のグループ発表―** グループ別に発表します。グループの該当地域の人口構成や医療情報などの発表を聞き、自身のグループとの比較をして健康課題の違いについて考えます。	グループ発表の内容を振り返り、地域の特徴と健康課題の関連について考えましょう。	4時間
第6回	**健康教育（1）オリエンテーション** 健康教育課題についてのオリエンテーション グループごとに異なる健康教育の課題を元に、企画・評価計画・媒体も含めた計画の立案をします。	オリエンテーション内容を復習し、健康教育の立案について考えましょう	4時間
第7回	**健康教育（2）グループ課題と企画** グループごとに異なる健康教育の課題を元に、企画・評価計画・媒体も含めた計画の立案をします。	グループで作成した内容を振り返りましょう	4時間
第8回	**健康教育（3）媒体とシナリオ** グループごとに異なる健康教育の課題を元に、企画・評価計画・媒体も含めた計画の立案を進めます。媒体とシナリオを作成します。	グループで作成した内容を振り返りましょう	4時間
第9回	**健康教育（4）発表準備** グループごとに異なる健康教育の課題を元に、企画・評価計画・媒体も含めた計画の立案を進めて、媒体とシナリオを作成します。	グループで作成した内容を振り返りましょう	4時間
第10回	**健康教育（5）発表** グループワークの成果発表をします。他のグループと自身のグループの内容を比較して学びを共有します。	他グループの発表と自分のグループの発表を比較してみましょう。内容を振り返りましょう	4時間
第11回	**家庭訪問（1）―進め方と事例の説明―** 家庭訪問演習についてのオリエンテーション（家庭訪問事例、作成用紙など） グループに割り当てられた家庭訪問事例について、グループメンバーと共有し、家庭訪問計画を作成します。	家庭訪問計画について振り返りましょう	4時間
第12回	**家庭訪問（2）―新生児の家庭訪問計画とロールプレイ―** 新生児訪問の家庭訪問計画を作成します。事例を見て、グループメンバーと情報を共有しましょう。 グループごとに母親役、保健師役を決めてロールプレイをします。	家庭訪問計画を作成しましょう	4時間
第13回	**家庭訪問（3）―ハイリスク・応用事例の家庭訪問計画とロールプレイ―** ハイリスク・応用事例の家庭訪問計画を作成します。事例を見て、グループメンバーと情報を共有しましょう。	ハイリスク者の訪問事例について、テキストを元に必要事項を振り返りましょう。	4時間
第14回	**家庭訪問（4）まとめ**	学びを振り返りましょう。	4時間

家庭訪問（新生児訪問、ハイリスク者、応用事例）について、計画を修正し実施評価をします。 家庭訪問についての必要事項等をまとめます。		

731

授業科目名	**地域健康探索論Ⅰ**				
担当教員名	近藤純子				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	看護師として病院勤務、保健師として企業にて勤務経験あり				

授業概要

看護の対象となる人々の様々な暮らしをイメージし、各世代の健康意識や関連する環境や資源、健康と健康に影響する要因とは何かについて学びます。各世代の人々の生活の様子と属する学校や行政、利用する施設、病院やクリニックなどの医療関連の施設や地域社会の様々な施設について、地域を診て情報を整理する枠組みについて学修します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2.人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる	対象となる人々の様々な暮らしについて学び、各世代の健康意識や関連する環境や資源、健康に影響する要因について学修する。	看護の対象となる人々の様々な暮らしをイメージし、各世代の健康意識や関連する環境と資源、健康に影響する要因について考えることができる。
汎用的な力		
1. DP3.地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる		地域の人々の暮らしについて理解し、各世代ごとの健康と健康課題について考えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・問答法・コメントを求める

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業参加の様子	30 %	： 発言やグループワークの参加度
最終レポートの評価	70 %	： レポート内容の評価

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

参考文献は授業時に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

積極的に授業中の問答に参加し、参考文献及び資料について理解を深めてください。履修後はノート等の整理をしましょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　初回授業時に連絡します

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	ガイダンス 地域の人々の健康について考える 地域健康探索論の学修目標について理解し、健康について考えましょう。	シラバスを読み、授業の概略をつかみましょう。	4時間
第２回	健康意識と健康の概念①　乳幼児、青年期および家族 乳幼児、青年期および家族の健康と健康意識について学修し、それぞれの健康意識について考えます。	乳幼児、青年期および家族の健康と健康意識についてノートを整理し、概念や用語について理解しましょう。	4時間
第3回	健康意識と健康の概念②　成人期、高齢期 成人期、高齢期世代の健康と健康意識について理解を深めましょう。健康意識と身体的な健康について考えます。	成人期、高齢期世代の健康と健康意識についてノートを整理し、概念や用語について理解しましょう。	4時間
第4回	健康に影響する要因①　基本的理論 健康に影響する要因について学修します。何がどのように健康に影響するのか、基本的な理論をもとに考えましょう。	健康に影響する要因について、ノートを整理し、概念や用語について理解しましょう。	4時間
第5回	健康に影響する要因②　事例を通した理解 何がどのように健康に影響するのか、具体的な事例を元に考えましょう。	ノートを整理し、概念や用語について理解しましょう。	4時間
第6回	健康に影響する要因③　基本的モデルを用いた考察 世代ごとの健康に、何がどのように健康に影響するのか基本的なモデルにグループディスカッションしてまとめていきます。	グループでの学びについて、ノートを整理し、概念や用語について理解しましょう。	4時間
第7回	まとめ 学びをグループごとに発表して、地域健康探索論Ｉの内容をふりかえります。	講義を踏まえてノートを整理し、これまで学修した、概念や用語について復習しましょう。	4時間

731

授業科目名	**地域健康探索論Ⅱ**				
担当教員名	近藤純子・西澤美香・藤本萌美				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	近藤純子（看護師として病院勤務、保健師として企業にて勤務経験あり）、西澤美香（看護師として病院勤務、保健師として自治体勤務経験あり）、藤本萌美（保健師として自治体勤務勤務あり）				

授業概要

看護の対象となる人々の様々な暮らしと健康との関連について考えます。また、実際にフィールドワークをして、地域を診るための枠組みをもとに地域の情報を整理し、地域に暮らす人々の生活と健康な生活に影響を及ぼす要因について考えます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2.人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる	実際にフィールドワークをして、地域を診るための枠組みをもとに地域の情報を整理し、地域に暮らす人々の生活と健康な生活に影響を及ぼす要因について検討します。	看護の対象となる人々の様々な暮らしをイメージし、各世代の健康意識や関連する環境と資源、健康に影響する要因について考えることができる。
汎用的な力		
1. DP3.地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる		地域の人々の暮らしについて理解し、各世代ごとの健康と健康課題について考えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・問答法・コメントを求める

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業参加の様子	30 %	： 発言やグループワークの参加度
最終レポートの評価	70 %	： レポート内容の評価

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

参考文献は授業時に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

授業中の問答について積極的に参加し、参考文献及び資料について理解を深めてください。履修後はノート等の整理をしましょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　初回授業時に連絡します

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス　地域の人々の暮らしについて考える** 地域健康探索論Ⅰを振り返り、Ⅱの学修目標を理解しましょう。	シラバスを読み、授業の概略をつかみましょう。	4時間
第2回	**地域の暮らしと健康について考える①　地区視診** 地域の暮らしと健康について考えます。地域の生活情報をまとめる地区視診について学びます。	地域の健康と暮らしについてノートを整理し、概念や用語について理解しましょう。	4時間
第3回	**地域の暮らしと健康について考える②　フィールドワーク前半** 地域の暮らしと健康について考えます。地域の生活情報をまとめる地区視診（フィールドワークを記録するフレーム）について学びます。地域の情報を集めて特徴をまとめましょう。	地区視診についてノートを整理し、理解しましょう。	4時間
第4回	**地域の暮らしと健康について考える③　フィールドワーク後半** 対象となる近隣の地区をフィールドワークします。多様な情報をフレームに整理します。	ノートを整理し、概念や用語について理解しましょう。	4時間
第5回	**地域の暮らしと健康について考える④　情報の整理** 近隣をフィールドワークして、健康に関連する情報をフレームにまとめます。グループワークです。	ノートを整理し、概念や用語について理解しましょう。	4時間
第6回	**地域の暮らしと健康について考える⑤　健康に関連する要因を考察** ループごとに、情報を集約しフレームを作成します。	ノートを整理し、概念や用語について理解しましょう。	4時間
第7回	**発表とまとめ** 学びをグループごとに発表して、地域健康探索論Ⅱの内容をふりかえります。	これまで学修した、概念や用語について復習しましょう。	4時間

733

授業科目名	災害看護論				
担当教員名	笹川寿美				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

災害看護論では、健康危機管理の概念と災害および災害看護についての基礎的知識を学ぶことを目的とする。具体的には、災害の分類と特徴や、災害が人々の健康や生活に及ぼす影響を理解し、発災時から応急対策期、災害復旧・復興対策期等の災害サイクル各期における看護の果たす役割について学ぶと共に、災害予防と事前対策について学修する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2.人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる	既習の看護学の知識をもとに災害サイクル各期における健康について考える	災害サイクル各期における生活環境と健康との関連を理解し、災害サイクル各期の人々の健康課題について考えることができる
2. DP2.人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる	災害サイクル各期における人々の生活と看護活動について学修する	災害が人々の健康に及ぼす影響と、災害に対する社会のしくみ、支援方法について学修する
汎用的な力		
1. DP3.地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる		災害サイクル各期における地域での様々な世代の人々の生活と健康課題を結びつけて考えることができる
2. DP3.地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる		災害サイクル各期における地域の人々の健康課題を解決する方法やプランについて考えることができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習

・問答法・コメントを求める

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
課題学習の提出内容等（70%）による総合評価	70 %	： 授業後に課題を出したレポート
授業への参加度	30 %	： 積極的に授業に参加し、主体的に学習しているかを協同学習や発表等で評価する

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業中に適宜紹介します。
編集：南祐子・山本あい子、災害看護学習テキスト概論編、日本看護協会出版会、2007　　編集：南祐子・山本あい子、災害看護学習テキスト実践編、日本看護協会出版会、2007
浦田喜久子編集、系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践［3］ 災害看護学・国際看護学、医学書院、2019

履修上の注意・備考・メッセージ

積極的に授業中の問答について参加し、テキスト及び配布資料について理解を深めて下さい。履修後はノート等の整理をしましょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション/災害看護の概要** 災害、災害看護の歴史・定義、災害サイクル	日本における災害について調べましょう。	4時間
第2回	**災害と情報、法と制度** 災害や災害寮に関する法・制度、社会の対応と仕組み	前回の講義内容の復習と、災害発生時の情報収集について調べまとめる。	4時間
第3回	**災害サイクルにおける看護活動：発生時～急性期①** 災害発生時～急性期における災害看護活動、看護体制づくり	避難所での生活について、調べディスカッションできるようまとめましょう。	4時間
第4回	**災害サイクルにおける看護活動：発生時～急性期②** 災害発生時～急性期に必要な技術（演習）	応急処置について調べ、演習につないでいきましょう。	4時間
第5回	**災害サイクルにおける看護活動：中・長期・準備期** 仮設住宅・復興住宅での看護の実際と看護師の役割、地域での備えと取り組み	自身および自身の地域での備えについて調べノートに整理しましょう。	4時間
第6回	**災害時のこころのケア** 被災者の心理と、援助者の心理と看護師の役割	これまでの授業の復習をし、被災者および援助者の心理について考えましょう。	4時間
第7回	**慢性疾患患者と災害** 災害時に支援優先度が高い対象別の看護活動	慢性疾患患者の特徴について調べノートに整理しましょう。	4時間

授業科目名	地域包括ケア論				
担当教員名	山本純子・近藤純子				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	山本純子（看護師として病院勤務経験あり） 近藤純子（看護師として病院勤務、保健師として企業にて勤務経験あり）				

授業概要

地域包括ケア論では、地域包括ケアシステムが必要とされる社会的背景と必要性および変遷について学ぶことを目的とする。長寿社会において地域住民に求められる自助、互助、共助、公助を含む地域包括ケアシステムの概念と必要性について理解し、在宅の現場で多様な活動形態をもつ実際について学修を深める。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2.人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる	地域包括ケア論では、地域包括ケアシステムの概念、必要とされる社会的背景およびその変遷について学修します。	長寿社会における地域住民に求められる自助、互助、共助、公助を含む地域包括ケアシステムの概念と必要性について理解できる。
汎用的な力		
1. DP3.地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる		自助、互助、共助、公助を含む地域包括ケアシステムの概念と必要性について理解し、看護職者の役割について考えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
課題学習の提出やグループワークへの参加の様子よる評価	20 %	： 授業中の問答、グループワーク等への参加状況を評価します
定期試験	80 %	： 筆記試験で評価します

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業中に、適宜提示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

授業に積極的に参加してください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　初回授業時に連絡します。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	ガイダンス 地域包括ケアとは 地域包括ケアシステムが必要とされる社会的背景と地域包括ケアシステムの意味について学修します。	地域包括ケアシステムについてその意味を復習しましょう。	4時間
第2回	地域包括ケアシステムの意義と必要性 地域包括ケアシステムの意義と必要性について学び、地域包括ケアの事例をもとに社会的背景や必要性について考えます。	ノートを整理し、地域包括ケアの用語について理解しましょう。	4時間
第3回	地域包括ケアシステムと看護職の役割①－A地域の活動－ 事例をもとに地域包括ケアシステムの実際と看護職の役割を考えます―事例①	ノートを整理し、地域包括ケアの実際と意味について振り返り理解しましょう。	4時間
第4回	地域包括ケアシステムと看護職の役割②B地域の活動 事例をもとに地域包括ケアシステムの実際と看護職の役割を考えます―事例②	ノートを整理し、地域包括ケアの意味について理解しましょう。	4時間
第5回	地域包括ケアシステムと看護職の役割③C地域の活動 事例をもとに地域包括ケアシステムの実際と看護職の役割を考えます―事例③	ノートを整理し、地域包括ケアの意味について理解しましょう。	4時間
第6回	地域包括ケアシステムと看護職の役割④B地域・C地域の活動の課題と展望 事例をもとに地域包括ケアシステムの実際と看護職の役割を考えます―事例④	ノートを整理し、地域包括ケアの意味について理解しましょう。	4時間
第7回	地域包括ケアシステムにおける専門職者や組織、地域住民の役割 についてのまとめ 地域包括ケアシステムにおける地域住民の役割について考えます。学修内容をふりかえり、地域包括ケアシステムにおける看護職の役割についてまとめます。	地域包括ケアシステムと専門職者と地域住民の役割についてノートを整理し、理解しましょう。	4時間

授業科目名	**がん看護学**				
担当教員名	田中登美				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	看護師として病院/がんセンターなどにおいて病棟・外来・緩和ケアチーム・がん相談支援センターなどで勤務あり（全8回担当）				

授業概要

本科目では、がんとともに生きる人とその家族を支える看護に必要な基礎知識や諸理論（Total Pain、悲嘆、がんサバイバーなどの概念など）を理解し、患者や家族ががんおよびがん治療による影響をマネジマントしながらその人らしく生活するための支援について学ぶ。また、わが国および大阪府のがん対策、がんチーム医療のなかでの看護の役割について考察する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自立して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる	がんとともに生きる人とその家族を支える看護に必要な基礎知識や諸理論を学ぶ。	がんとともに生きる人とその家族を支える看護に必要な基礎知識や諸理論について理解する。
2. DP2.人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる	がん治療の特殊性、患者や家族ががんおよびがん治療による影響をマネジマントしながらその人らしく生活するための支援について学ぶ。	がん治療の特殊性、患者や家族ががんおよびがん治療による影響をマネジマントしながらその人らしく生活するための支援について理解する。
汎用的な力		
1. DP3.地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる		がんの病態および動向、わが国および大阪府のがん対策について理解し、がんチーム医療のなかでの看護の役割について考察する。
2. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自律して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる		がん看護における倫理的課題について理解する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
課題学習の提出内容（10%）による総合評価	10 %	： 授業後に提示した課題レポートの内容について評価します。
定期試験	90 %	： テキストと講義資料の範囲の理解について筆記試験で評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
小松浩子	・ 系統看護学講座　別巻がん看護学 第3版	・ 医学書院	・ 2024　年

参考文献等

・編集　鈴木久美・林直子・佐藤まゆみ（2024）看護学テキストNiCE　がん看護　改訂第2版，南江堂
ISBN　978-4-524-24812-4
・大西和子、飯野京子、平松玉江（2018）がん看護学　第2版，ヌーヴェルヒロカワ
・その他、授業中に適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

積極的に授業中の問答について参加し、テキスト及び資料について理解を深めてください。履修後は、興味のあることについて自分でも調べたり、ノート等の整理をして学びを深めましょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　オフィスアワーを活用してください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**がんの病態および動向、がん対策** ・がんの病態および動向について学ぶ。 ・日本のがん対策、大阪府のがん対策について学ぶ。	授業資料を見直して、興味のあることについて自分でも調べてみましょう。	4時間
第2回	**がん看護で用いられる概念およびがん看護の対象とその特徴** ・緩和ケアおよびTotal Painについて学ぶ。 ・悲嘆について学ぶ。 ・がんサバイバーおよびその特徴について学ぶ。 ・がんチーム医療のなかでの看護の役割について考察する。	授業資料を見直して、学んだ概念、がんサバイバーおよびその特徴、がんチーム医療のなかでの看護の役割についてまとめましょう。	4時間
第3回	**診断期のがん患者への看護、がん看護における倫理的課題** ・診断期のがん患者が抱える看護上の課題とその看護について学ぶ。 ・がん看護における倫理的課題とその対応について学ぶ。	授業資料を見直して、診断期のがん患者の理解を深めること、がん看護における倫理的課題への対応および看護の役割についてまとめましょう。	4時間
第4回	**治療期のがん患者への看護　①　手術療法・内視鏡下治療を受ける患者への看護** ・がんの治療期にある患者の特徴、アセスメント、看護の実際について学ぶ。 ・手術療法・内視鏡下治療の特殊性および患者や家族が抱える看護上の課題について学ぶ。 ・手術療法・内視鏡下治療を受ける患者が治療による影響をマネジメントしながらその人らしく生活するための支援について学ぶ。	授業資料を見直して、がんの治療期にある患者の理解を深めること、手術療法・内視鏡下治療を受ける患者への具体的な支援についてまとめましょう。	4時間
第5回	**治療期のがん患者への看護②　がん薬物療法を受ける患者への看護（1）** ・がん薬物療法の特殊性および患者や家族が抱える看護上の課題について学ぶ。	授業資料を見直して、がん薬物療法の特殊性および患者や家族が抱える看護上の課題についてまとめましょう。	4時間
第6回	**治療期のがん患者への看護②　がん薬物療法を受ける患者への看護（2）** ・がん薬物療法を受ける患者が治療による影響をマネジメントしながらその人らしく生活するための支援について学ぶ。	授業資料を見直して、がん薬物療法を受ける患者への具体的な支援についてまとめましょう。	4時間
第7回	**治療期のがん患者への看護③　がん放射線療法を受ける患者への看護** ・がん放射線療法の特殊性および患者や家族が抱える看護上の課題について学ぶ。 ・がん放射線療法を受ける患者が治療による影響をマネジメントしながらその人らしく生活するための支援について学ぶ。	授業資料を見直して、がん放射線療法の特殊性および患者や家族が抱える看護上の課題、がん放射線療法を受ける患者への具体的な支援についてまとめましょう。	4時間

733

授業科目名	看護マネジメント論				
担当教員名	吾妻知美				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	看護師として病院勤務経験あり（全7回）				

授業概要

看護におけるマネジメント、看護サービスマネジメントとは何かを理解し、科学的根拠に基づく安全性の高い医療を提供するための組織のあり方と管理者における運営を学修します。さらに、質の高い医療を提供するためのチーム医療、およびチーム医療における看護師の役割について、看護職としての自己のキャリアマネジメントやキャリア開発の理論、自己管理のための方法と実践の具体的な理論について理解を深め、自己のキャリアについて考察します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2.人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる	科学的根拠に基づく安全性の高い医療を提供するための組織のあり方とその運営を学修します。さらに、質の高い医療を提供するためのチーム医療、およびチーム医療における看護師の役割について学修する。	科学的根拠に基づく安全性の高い医療を提供するための組織のあり方とその運営を学修します。さらに、質の高い医療を提供するためのチーム医療、およびチーム医療における看護師の役割について理解できる。
汎用的な力		
1. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自律して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる		看護師としての自己のキャリア開発、自己管理の方法について理解できる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・eラーニング、反転授業

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業毎のレポート	20 %	： 授業内容の理解度
筆記試験	80 %	： 授業内容の理解度

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年

上泉和子　・系統看護学講座　看護管理　・医学書院　・2018　年

参考文献等

・日本看護協会編（2024）看護に活かす基準・指針・ガイドライン集2024、日本看護協会出版会978－4－8180－2537－0
・渡辺さちこ、アキよしかわ（2021）医療崩壊の真実、エムディエヌコーポレーション　978－4－295－20085－７
・小林美紀（2011）看護崩壊：病院から看護師が消えていく、アスキー新書　978－4－04－870087－0　・鈴木亘（2021）医療崩壊　真犯人は誰だ、講談社　978－4－06－526417－１

その他、適宜紹介します

履修上の注意・備考・メッセージ

30分以上の遅刻、早退は欠席とみなします。
授業中のディスカッション等に積極的に参加し、履修後はノート整理をしましょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業後

場所：　研究室

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**看護マネジメントの歴史** 看護マネジメントの定義と歴史を概観し、看護マネジメントを学ぶ意義について学修する。	事前にシラバスおよび教科書を熟読すること	4時間
第２回	**看護マネジメントの基本的要素** 看護ケアのマネジメント、看護サービスのマネジメントの要素、看護ケアにおける看護職の役割について学修する。	講義内容を振り返りノートを整理し、理解を深めること。	4時間
第3回	**病院における看護サービスのマネジメント** 病院における看護サービス提供システムおよび看護の日常業務のマネジメントについて学修する。	講義内容を振り返りノートを整理し、理解を深める。	4時間
第4回	**チーム医療と看護職の役割** チーム医療およびチーム医療における看護職の役割、看護をとりまく諸制度を学修する。	講義内容を振り返りノートを整理し、理解を深める。	4時間
第5回	**看護職のキャリアマネジメント** 看護職のキャリアマネジメントについて学修し、自己のキャリアマネジメントを考察する	講義内容を振り返りノートを整理し、理解を深める。	4時間
第6回	**看護マネジメントに必要な技術と理論** マネジメントに必要なリーダーシップ、コンフリクト、組織文化について学修する。	講義内容を振り返りノートを整理し、理解を深める。	4時間
第7回	**看護師のセルフマネジメントの技術と理論** セルフマネジメントの方法およびコミュニケーション技術としてのアサーティブネスを学修する。	授業内容を振り返りノートを整理し、理解を深め、これからの看護マネジメントについて考察する。	4時間

731

授業科目名	地域健康探索論演習				
担当教員名	近藤純子・西澤美香・藤本萌美				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	近藤純子（看護師として病院勤務、保健師として企業にて勤務経験あり）、西澤美香（看護師として病院勤務、保健師として自治体勤務経験あり）、藤本萌美（保健師として自治体勤務勤務あり）				

授業概要

地域健康探索論Ⅰ、Ⅱの学びをもとに、看護の対象となる人々の様々な暮らしと健康について学びを深めていきます。実際に地域の人々との交流体験（自治会、シニアクラブ、住民社協など）をとおして、地域に暮らす人々の生活と健康、生活に影響を及ぼす要因と看護支援について考えていきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2.人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる	実際に地域の人々との交流体験（自治会、シニアクラブ、住民社協など）とおして、地域に暮らす人々の生活と健康、生活に影響を及ぼす要因と看護支援について考える。	看護の対象となる人々の様々な暮らしと健康意識や健康に関連する行動について考察することができる。
汎用的な力		
1. DP3.地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる		地域に暮らす人々の生活と健康、生活に影響を及ぼす要因と看護支援について考察することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
演習の参加及び役割	30 %	： 左記内容を総合的に判断します。
演習後のレポート	70 %	： レポートの記載内容を評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

参考文献は授業時に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

積極的に地域の方と交流し、グループでの学びにつなげてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　初回授業時に連絡します

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**地域の情報の集約：地域の人々の暮らしについて** 演習内容の説明をする。 地域健康探索論Ⅰ及びⅡで収集した情報を、様式を用いて整理し、看護の対象となる人々の様々な暮らしと健康について考えます。	地域健康探索論Ⅰ、Ⅱの学びを振り返りましょう。演習内容について把握しましょう。	4時間
第2回	**世代ごとの健康意識及び健康課題との関連を考える①交流体験前半** 実際に地域の人々との交流体験（自治会、シニアクラブ、住民社協など）をとおして、地域に暮らす人々の生活について考察します。	域に暮らす世代ごとの生活について、演習での学びをまとめましょう。	4時間
第3回	**世代ごとの健康意識及び健康課題との関連を考える②交流体験後半** 実際に地域の人々との交流体験（自治会、シニアクラブ、住民社協など）をとおして、地域に暮らす人々の生活に影響を及ぼす要因と看護支援について考察します。	地域に暮らす世代ごとの生活について、演習での学びをまとめましょう。	4時間
第4回	**世代ごとの健康意識及び健康課題との関連を考える③情報の整理** 実際に地域の人々との交流体験（自治会、シニアクラブ、住民社協など）をとおして、地域に暮らす人々の生活に影響を及ぼす要因と看護支援について考察します。	地域に暮らす世代ごとの生活について、演習での学びをまとめましょう。	4時間
第5回	**世代ごとの健康意識及び健康課題との関連を考える④考察** グループごとに、メンバー間での情報を共有し、発表に向けて資料作成をします。	地域に暮らす世代ごとの生活について、演習での学びをまとめましょう。	4時間
第6回	**発表①** グループごとに発表し、学びを共有します。	地域に暮らす人々の健康課題と生活に影響を及ぼす要因との関連をとらえて、看護支援について考察しましょう。	4時間
第7回	**発表②　まとめ** グループごとの発表後、健康探索論演習の内容をふりかえります。	地域に暮らす人々の健康課題と生活に影響を及ぼす要因との関連をとらえて、看護支援について考察しましょう。	4時間

授業科目名	**学校保健**				
担当教員名	大川尚子				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	担当教員は、公立小学校養護教諭として18年間勤務していた。その間、保健主事としても学校保健活動に参画しており、その経験を活かし、各テーマに体験事例を交え授業を行う。				

授業概要

学校保健の現代的課題を理解する。児童生徒一人一人が自己実現を図りながら、生涯にわたって主体的に心身ともに健康な生活を営むことができるよう、学校保健の果す役割について学ぶ。
学校保健は、学校における児童・生徒等の健康の保持増進を図り、学校教育目標の達成に寄与することを目指して行われる活動である。学校保健に関する知識を習得し、学校保健活動の円滑な実施と成果の確保のために必要な養護教諭の役割について理解することを目的とする。
また、学校保健を構成する保健管理、保健教育、保健組織活動の3つの領域の内容や活動方法について学び、学校保健の構造・領域、実際の諸活動について、児童生徒の健康実態や健康課題から実際の展開方法が説明できることを目的とする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP3.地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる	(1)チームとしての学校と学校保健を理解する。 (2)チームとしての学校の取組として、医療機関との連携を理解する。	(1)学校保健（保健教育・保健管理・組織活動）を理解し説明できる。 (2)学校保健活動の推進に当たって医療機関の役割について理解することができる。
汎用的な力		
1. DP3.地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる		(1)児童・生徒が抱える様々な健康問題と社会的背景の関連性を考えることができる。 (2)児童・生徒が抱える様々な健康問題の解決策を考えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験	60 %	： 法的根拠の理解ができているか。保健管理、保健教育、組織活動について系統的に学習できているか。養護教諭の役割を理解できているか。
発表	10 %	： ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸを適宜取り入れ、講義中の個別やｸﾞﾙｰﾌﾟでの積極的な発表を評価する。
受講態度と授業参加状況	10 %	： 授業への積極的な参加を評価を評価する。
レポートの提出と評価	20 %	：

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業中に適宜資料を配付する。
新訂版　学校保健実務必携（第5次改訂版）（学校保健・学校安全実務研究会編著、第一法規（2020）
ISBN9784474068636

履修上の注意・備考・メッセージ

学校保健の法的根拠、学校保健活動の推進に当たっての養護教諭の役割について理解するために一緒に学びましょう。 毎回、アンケートに回答していただき、その内容についてフィードバックしていきたいと思います。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　okawa@kyoto-wu.ac.jpに連絡してください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、学校保健の概要 - 学校保健の歴史・領域 -** 1)学校保健の概念と構造 2)学校保健に関する法律と行政・制度・歴史 3)学校経営と学校保健	学校保健の領域について復習しておくこと。	4時間
第2回	**学校保健経営1－学校保健経営とは、学校保健の組織活動** 1)学校保健経営とは 2)学校保健計画 3)学校保健の組織活動	学校保健経営について復習しておくこと。	4時間
第3回	**学校保健経営2－学校保健計画の実施・評価 -** 1)チームとしての学校と学校保健 2)チームとしての学校の取組 3)チームとしての学校における学校保健	学校保健経営について復習しておくこと。	4時間
第4回	**ヘルスプロモーション–ヘルスプロモーションの概念・歴史、日本の学校教育におけるヘルスプロモーションの理念–** 1)ヘルスプロモーションの歴史 2)ヘルスプロモーションの定義 3)日本におけるヘルスプロモーション　健康日本21(第二次)	ヘルスプロモーションについて復習しておくこと。	4時間
第5回	**児童生徒等の発育発達と学校保健–発育発達の考え方・現状と課題、個別教育ニード–** 1)身体の発育発達 2)発育発達の考え方 3)発育発達の現状と課題 4)発育発達と個別指導の必要性	発育発達について復習しておくこと。	4時間
第6回	**健康観察–趣旨・実施方法、結果の活用・評価–** 1)意義と目的 2)法的根拠・位置づけ 3)健康課題と対応の基礎・基本	健康観察について復習しておくこと。	4時間
第7回	**健康診断–健康診断の意義・目的・種類–** 1)意義と目的 2)法的根拠・位置づけ 3)健康診断の項目 4)保健調査等の情報活用について 5)健康診断の流れ 6)児童生徒等への指導 7)健康診断時に留意すべき疾病及び異常	健康診断について復習しておくこと。	4時間
第8回	**健康相談–健康相談の意義・法的根拠・対象・事後措置・評価–** 1)意義と目的 2)法的根拠・位置づけ 3)健康課題と対応の基礎・基本	健康相談について復習しておくこと。	4時間
第9回	**健康教育–学校における健康教育の考え方、保健学習と保健指導–** 1)意義と目的 2)法的根拠・位置づけ 3)健康課題と対応の基礎・基本	健康教育について復習しておくこと。	4時間
第10回	**心身の健康・発達・行動上の課題を有する児童生徒等への支援–健康問題における現代的課題と支援–** 1)生涯保健における学校保健—学校保健と地域保健の連携・協働— 2)子どもの現代的健康課題 3)子どもの現代的健康課題と学校保健の役割	現代的な健康課題について復習しておくこと。	4時間
第11回	**感染予防 - 感染症・食中毒発生時の措置 -** 1)意義と目的 2)法的根拠・位置づけ 3)健康課題と対応の基礎・基本	感染予防について復習しておくこと。	4時間

第12回	**学校安全と危機管理 - 安全教育、安全管理、学校安全計画の実施・評価 -** 1)学校安全の概要 2)安全教育 3)学校危機管理 4)学校災害の責任と救済制度	学校安全と危機管理について復習しておくこと。	4時間
第13回	**学校環境衛生 - 意義・目的・関係法規、環境衛生管理 -** 1)意義と目的 2)法的根拠・位置づけ 3)健康課題と対応の基礎・木尾本	学校環境衛生について復習しておくこと。	4時間
第14回	**食育と学校給食 - 食育とは -** 1)意義と目的 2)法的根拠・位置づけ 3)健康課題と対応の基礎・基本	食育と学校給食について復習しておくこと。	4時間

授業科目名	**養護概説**				
担当教員名	大川尚子				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	担当教員は、公立小学校養護教諭として18年間勤務していた。その経験を活かし、各テーマに体験事例を交え授業を行う。				

授業概要

養護教諭は、学校に勤務する教育職員として、保健室の機能を生かし、専門的な知識や技能を有した専門職として位置づく存在である。このような、わが国の養護教諭の特質をさまざまな法律・行政施策や制度等との関連性をふまえて理解する。また、養護教諭の職務内容の基本を理解し、児童生徒の健康問題の把握や今日的課題を明確にしながら、養護教諭に求められる資質や望ましいありかたについて考える。
また、学校保健活動の推進者としての養護教諭の役割を理解し、学校保健活動の企画・運営に参画できる資質・能力とは何かを理解できる。児童生徒の心身の健康管理と健康の保持増進の支援・指導スキルの基礎的理論を身につけるとともに、新たな健康課題の解決に取り組む積極的姿勢と研究的視点を養う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP3.地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる	(1)養護教諭の職務内容の基本を理解する。 (2)児童生徒の健康課題を明確にしながら、養護教諭の支援について考える。	(1)学校保健活動の担い手としての養護教諭の役割、養護教諭の専門性を理解する。 (2)養護教諭制度の沿革と職務内容の変遷について説明できる。
汎用的な力		
1. DP3.地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる		(1)養護教諭の行う養護の概念や職務の体系を理解し、その実践の基礎的視点を持つ。 (2)児童生徒の健康問題に適切に対応するため専門職としての力量を有する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験	60 %	： 法的根拠の理解ができているか。保健管理、保健教育、組織活動について系統的に学習できているか。養護教諭の役割を理解できているか。
発表	10 %	： グループワークを適宜取り入れ、講義中に個別やグループでの積極的な発表を評価する。
受講態度と授業参加状況	10 %	： 授業への積極的な参加を評価する。
レポート提出と評価	20 %	：

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
采女智津江	・ 新養護概説 第12 版	・ 少年写真新聞社	・ 2022 年

参考文献等

授業中に適宜資料を配付する。
新訂版　学校保健実務必携（第5次改訂版）（学校保健・学校安全実務研究会編著、第一法規（2020）
ISBN9784474068636

履修上の注意・備考・メッセージ

養護教諭の基本的な職務内容を理解するとともに、専門職としての養護教諭像をイメージできることが大切です。
養護教諭として望ましい活動は何か、求められる能力はなにか、その能力はどのようにして身につけられるのか等について一緒に学びましょう。 毎回、コメントペーパーを書いていただき、その内容についてフィードバックしていきたいと思います。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　okawa@kyoto-wu.ac.jpに連絡をしてください。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**養護とは** 1)養護教諭の歴史 2)養護教諭に関する規定 3)養護教諭の役割	教科書の全体に目を通しておいてください。	4時間
第2回	**教育関係法令と教育行政** 1)教育行政 2)学校教育と学校保健法令	教科書の関係法令の部分をよく読んできてください。	4時間
第3回	**学校教育と学校保健** 1)教育課程と学習指導要領 2)学校における健康教育	教科書の学校保健の部分をよく読んできてください。	4時間
第4回	**養護教諭と学校保健** 1)学校保健計画 2)学校保健関係職員	教科書の養護教諭の職務の部分をよく読んできてください。	4時間
第5回	**養護教諭の職務** 1)養護教諭の職務 2)養護教諭に求められる力	教科書の養護教諭の職務の部分をよく読んできてください。	4時間
第6回	**保健管理** 1)救急処置 2)健康診断 3)健康観察 4)疾病管理 5)学校環境衛生	教科書の保健管理の部分をよく読んできてください。	4時間
第7回	**保健教育** 1)教科保健 2)特別活動における保健教育	教科書の保健教育の部分をよく読んできてください。	4時間
第8回	**健康相談** 1)健康相談 2)個別の保健指導	教科書の健康相談の部分をよく読んできてください。	4時間
第9回	**保健室経営** 1)保健室 2)保健室経営計画	教科書の保健室経営の部分をよく読んできてください。	4時間
第10回	**組織活動** 1)保健組織活動の必要性 2)学校保健委員会	教科書の組織活動の部分をよく読んできてください。	4時間
第11回	**安全管理と危機管理** 1)安全管理 2)危機管理	教科書の安全管理と危機管理の部分をよく読んできてください。	4時間
第12回	**子どもの現代的な健康課題（不登校・いじめ）とその対応** ロールプレイ・模擬授業	グループによる事前学習が必要です。	4時間
第13回	**子どもの現代的な健康課題（虐待・薬物乱用）とその対応** ロールプレイ・模擬授業	グループによる事前学習が必要です。	4時間
第14回	**子どもの現代的な健康課題（発達障害・メンタルヘルス）とその対応** ロールプレイ・模擬授業	グループによる事前学習が必要です。	4時間